

麻布大学

要覧 | 2017

AZABU UNIVERSITY
Since 1890

建学の精神

本学の建学の精神は『学理の討究と誠実なる実践』である。

本学は、創設者與倉東隆先生の建学の精神である、学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ、人と動物との共存及び人と自然環境との調和の途を探求することを目的として獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の知識を教授研究し、その応用力の展開をはかるとともに、進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し、平和社会の建設に貢献することとしている。

財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）結果について

大学基準適合認定証

麻布大学 殿

since 1947

貴大学は 平成 22 年度大学評価の結果 本協会の大学基準に適合していることを認定する

平成 23 年 4 月 1 日

財団法人 大学基準協会

会長 納谷 廣美



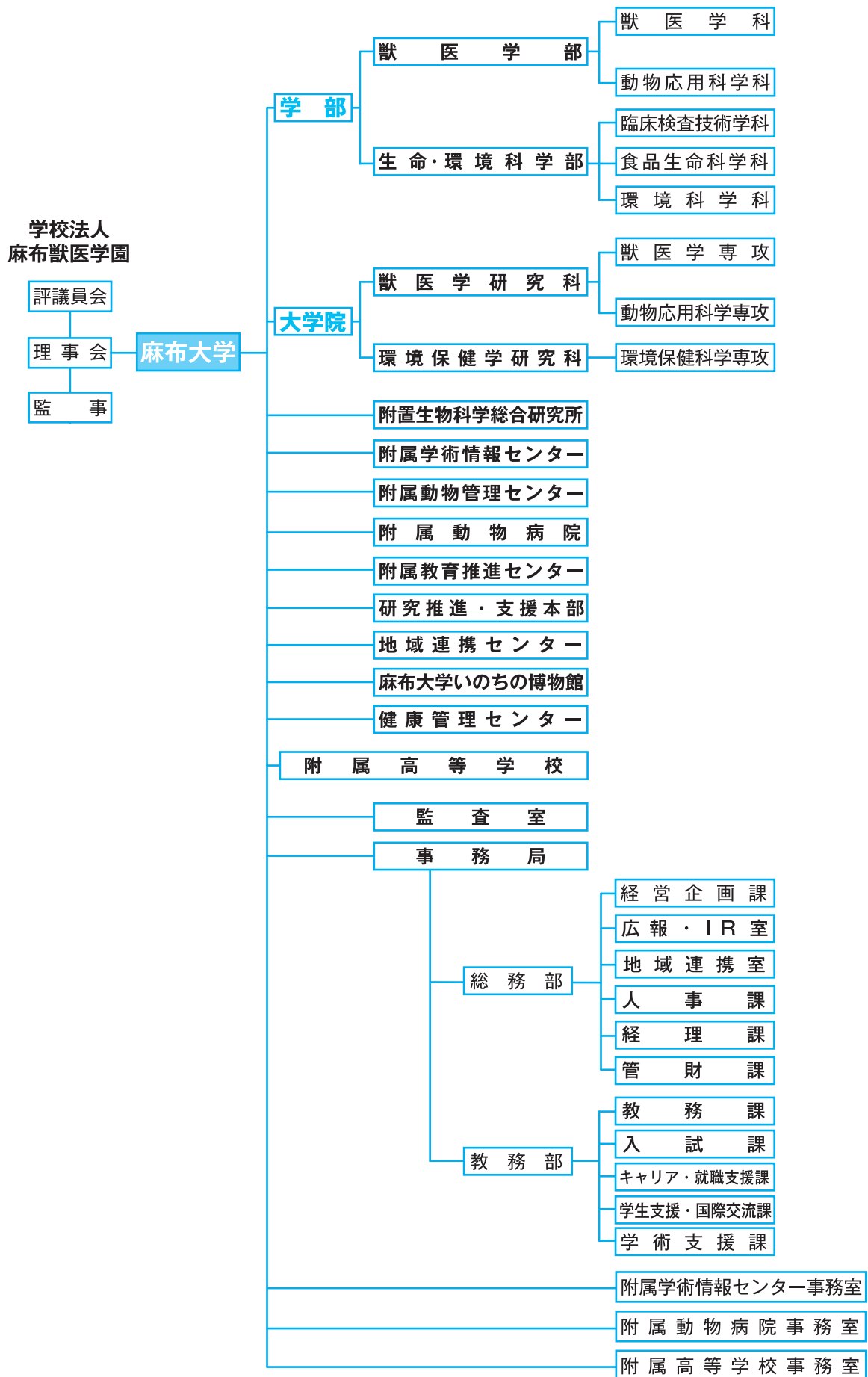
麻布大学は、2010（平成 22 年）年度に、学校教育法に規定する文部科学大臣の認証評価機関である公益財団法人大学基準協会（平成 29 年 4 月 1 日現在、国・公・私立 478 の 4 年制大学が加盟）の認証評価を受け、「大学基準」に適合しているとの認定を受けた。認定期間は 2018（平成 30 年）年 3 月 31 日までである。

これによって、麻布大学は、第一に「大学」にふさわしい要件を備えている、第二に「理念・目的」の実現に向け改善・改革のための努力を払っている、第三に改善・改革に機能する客観的な自己点検・評価システムが整っている、ことなどが評価され、広く社会に証明されたことになる。

今後も、麻布大学は、「理念・目的」の実現に向け、組織一丸となって地道な努力を続けていくこととしている。

大学基準適合認定証

2	1. 機 構 図
3	2. 教育研究組織
3	1) 獣医学部
9	2) 生命・環境科学部
17	3) 大学院獣医学研究科
25	4) 大学院環境保健学研究科
29	5) 附置生物科学総合研究所
32	6) 附属学術情報センター
33	7) 附属動物管理センター
33	8) 附属動物病院
34	9) 附属教育推進センター
35	10) 研究推進・支援本部
37	11) 麻布大学いのちの博物館
37	12) 健康管理センター
38	13) 附属高等学校
39	3. 教員組織
43	4. 役 職 員
46	5. 教職員数
48	6. 学生・生徒数
49	7. 入学試験状況
50	8. 卒業者数・学位授与者数及び研究生等の修了状況
51	9. 卒業・修了後の進路状況
52	10. 各種国家試験合格状況
53	11. 単位互換協定に基づく交流学生数及び単位認定状況
54	12. 単位互換協定以外における大学独自の単位認定状況
55	13. 学生表彰制度
56	14. 厚生補導施設
58	15. 奨学金給付・貸与状況
59	16. 公開講座と国際交流
62	17. 外部資金受入状況
64	18. 財務状況
65	19. 土地及び建物面積・配置図
67	20. 関連団体
67	1) 麻布大学父母会
67	2) 麻布大学同窓会
67	3) 麻布獣医学会
68	4) 麻布環境科学研究会
68	5) 麻布大学附属高等学校後援会
69	21. 沿 革
75	22. 学 年 暦（平成 29 年度）



1) 獣医学部

獣医学部の理念・目的

獣医学部は、幅広い獣医学及び動物応用科学教育を行い、生命と福祉に関わる科学者としての責任感に基づいて、社会的使命を正しく遂行し得る獣医師及び動物科学技術者を育成するとの理念に基づき、社会より与えられた責任に対して応えられ、かつ、国際的視野を持つことができる人材を養成することを目的とする。

1. アドミッション・ポリシー（求める学生像）

獣医学部は、「幅広い獣医学及び動物応用科学教育を行い、生命と福祉に関わる科学者としての責任感に基づいて、社会的使命を正しく遂行し得る獣医師及び動物応用科学の専門家を育成するとの理念に基づき、社会より与えられた責任に対して応えられ、かつ、国際的視野を持つことができる人材を養成する」ことを教育理念・目的とする。

この目的を達成するために、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 人や動物に対する思いやりの心を持ち、社会に貢献する意志を持っている人
- (2) 学習意欲が旺盛で、高等学校までの基礎学力、特に生物・化学を含む理科の学力が十分に備わっている人

2. カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

獣医学部の教育理念・目的を実現するよう、基礎科目と専門科目を適切に配置したカリキュラムを編成している。

基礎科目としては、初年次教育から卒業時まで在学期間全体を通して、社会人・職業人として必要な知識・技術の習得が可能となるようにキャリア形成科目を各年次に計画的に配分した。具体的には、人文科学・社会科学など一般教養や英語を主とした語学力並びにコミュニケーション能力、情報処理能力などである。

専門科目については、獣医学科にあってはライセンス取得が大きな目的であり、全国共通の獣医学教育モデルコアカリキュラムに準拠した内容を中心にしながら、本学独自の専門教育も実施している。動物応用科学科にあっては、拡大深化した動物応用科学の領域に対応するために、動物人間学コースと動物生命科学コースのコース別教育を行っている。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

獣医学部の教育理念・目的に沿って設定した学科目の履修を通じて、所定の単位の修得及び当該学科の課程を修了の上、各学科のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けた者に対し、獣医学科にあっては学士（獣医学）を、動物応用科学科にあっては学士（動物応用科学）の学位を、それぞれ授与する。

獣医学科の教育理念

獣医学部の教育理念・目的に基づき、獣医学科では、獣医師としての科学的思考力と応用能力を展開させ、生命と福祉に関わる科学者としての社会的使命を遂行できる能力及び動物の生理や病態、疾病の処置とその予防、並びにヒトと動物の感染症、動物性食品衛生及び環境衛生に関する科学的知識と技術を併せ持つ人材の養成を目的とする。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

本学科の教育は、獣医師として高い倫理観を有し、高度な専門知識・技術を身に付けて社会に貢献できる人材を養成することを目的にしているため、次のような人物を求めている。

- (1) 人や動物、自然が好きな人
- (2) 獣医学に強い関心を持ち、獣医師となることについて明確な問題意識を持っている人

- (3) 獣医師になるための情熱及び他者への思いやりと奉仕の心、高い倫理観を持っている人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

本学科の教育理念・目的に基づき、以下のような特徴あるカリキュラムとなっている。

- (1) 初等年次では、教養から基礎獣医学まで幅広い知識や倫理観を身に付けるために基礎系教員と獣医学系教員の協力による総合的なカリキュラムの設定や選択科目を増やした学生の自主性を尊重したカリキュラムを設定している。
- (2) 中等年次では、基礎獣医学から臨床獣医学、応用獣医学まで獣医師として必要な要素を身に付けるために獣医学系教員による専門的なカリキュラムを設定している。このため専門教育を基礎獣医学系、病態獣医学系、生産獣医学系、臨床獣医学系及び環境獣医学系の5系のカテゴリーに分け、系内及び系外教員との協力体制の下に教育を展開している。
- (3) 高等年次では、小動物臨床獣医師、産業動物臨床獣医師あるいは公衆衛生獣医師などの獣医師としての専門性を身に付け、実践力を体得するためのカリキュラムを設定している。
- (4) 獣医師として、社会に巣立つための獣医師ライセンスの取得を目的とした獣医師国家試験対策のために、専門教育5系に属する獣医学系全教員の連携による総合的なカリキュラムを設定している。

ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

本学科の定められた教育課程を修了することで、次のような人材が育成されることを目標とする。

- (1) 獣医師としての専門分野の学問内容についての知識を習得している。
- (2) 獣医師として、臨床・予防衛生・公衆衛生に対応できる専門家としての実践能力を習得している。
- (3) 獣医師としての高い倫理観を有し、高度な専門職業人として責任を持った行動をとることができる。
- (4) 獣医師である高度な専門職業人として、課題発展能力・問題解決能力を習得し、獣医療の進歩や生命科学に関する社会のニーズの変化に、持続的に対応できる柔軟さと学習意欲を持つ。

● 獣医学科 授業科目

1 年次～3 年次		1 ～ 3 年次	2 ～ 4 年次	2 ～ 5 年次	4 ～ 5 年次	2 ～ 5 年次	
人文系科目	社会科学系科目	基礎獣医学系	病態獣医学系	生産獣医学系	臨床獣医学系	環境獣医学系	
心理学 動物比較心理学 文章表現法 コミュニケーション上達法 哲学・倫理学 総合英語	現代経済学 法学概論 現代社会学 科学技術論	細胞生物学 獣医遺伝学 獣医解剖学Ⅰ 獣医解剖学Ⅱ 獣医組織学 獣医発生学 獣医解剖学実習 獣医組織学実習 獣医生理学Ⅰ 獣医生理学Ⅱ 獣医生理学実習Ⅰ 獣医生理学実習Ⅱ 分子生物学 獣医生化学Ⅰ 獣医生化学Ⅱ 獣医生化学実習	獣医寄生虫学Ⅰ 〈獣医寄生虫病学を含む〉 獣医寄生虫学Ⅱ 〈獣医寄生虫病学を含む〉 獣医寄生虫学実習 獣医薬理学総論 獣医薬理学各論 獣医薬理学実習 獣医微生物学総論 獣医微生物学各論Ⅰ 獣医微生物学各論Ⅱ 獣医免疫学 獣医微生物学実習 獣医病理学総論 獣医病理学各論Ⅰ 獣医病理学各論Ⅱ 獣医病理学実習	牧場実習 獣医栄養学 家禽疫病学 家畜伝染病学Ⅰ 家畜伝染病学Ⅱ 家畜伝染病学実習 家畜衛生学Ⅰ 家畜衛生学Ⅱ 家畜衛生学実習 獣医臨床繁殖学 獣医臨床繁殖学実習 産業動物獣医総合臨床 産業動物臨床実習 水生動物疾病学	獣医内科学 獣医内科学実習 獣医外科学 獣医外科学実習 獣医放射線学 獣医放射線学実習 小動物獣医総合臨床Ⅰ 小動物獣医総合臨床Ⅱ 小動物獣医総合臨床Ⅲ 小動物獣医総合臨床Ⅳ 臨床病理	実験動物学 実験動物学実習 獣医公衆衛生学Ⅰ 獣医公衆衛生学Ⅱ 獣医公衆衛生学Ⅲ 毒性学 毒性学実習 獣医公衆衛生学実習 生物統計学 野生動物学 動物行動学 獣医疫学	
自然科学系科目		専 門 科 目 （ 必 修 科 目 ）					
複合科目	保健体育科目						
コンピュータ演習 情報科学技術	保健体育 基礎体育						
外国語科目							
〈英語〉 基礎科学英語 英語購読 英作文表現	〈第二外国語〉 ドイツ語Ⅰ フランス語Ⅰ スペイン語Ⅰ ドイツ語Ⅱ フランス語Ⅱ スペイン語Ⅱ						
自由科目							
生物学入門	化学入門						
基礎 教育 科目							
	獣医学概論	獣医療倫理・動物福祉	専門学外実習	獣医関連法規	総合獣医学	獣医学特論Ⅰ	獣医学特論Ⅱ
（ 選 択 科 目 ）							
	産業動物臨床基礎実習 獣医畜産管理学 畜産物利用学 飼料原科学 インターンシップ 最新のバイオサイエンス 臨床解剖学 先端獣医療 小動物病院実習						

卒業要件 (必要単位修得数)	
区分	単位数
基礎教育科目	
必修	7
選択必修	6
選択	23
専門科目	
必修	144
選択	5
計	185

※ 平成 29 年度入学者適用

取得可能学位 学士 (獣医学)

動物応用科学科の教育理念

獣医学部の教育理念・目的に基づき、動物応用科学科では、動物に関わる生命科学を基盤として、人と動物のより良い関係を学び、人と動物の共生を目指して、遺伝子レベルから生態系レベルに至る動物の保有する諸機能を人間生活に安全かつ効果的に活用するための知識と技術を教授し、人と動物に関わる諸分野で活躍できる専門技術を備えた人材の養成を目的とする。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

本学科の教育理念を理解し、自ら学ぶ姿勢を持ち、本学での学習を通して人と動物と社会の接点で通用するキャリアを身に付け、動物応用科学の諸領域で活躍したいという強い意志と意欲を持った人物を募集する。なかでも次のような人物を求めている。

- (1) 問題意識を持ちチャレンジ精神が旺盛である人
- (2) リーダーシップと協調性を有し、動物応用科学の社会的使命をよく認識している人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

動物生命科学コースでは、分子、細胞、組織、器官、個体及び生態系と様々な段階における生命現象について、その機能を解析し、動物資源の利用・開発とその保全・増殖並びに人と動物に対する安全の観点から学際的な分野を含む広範な動物生命科学の総合的な知識と技術、バイオテクノロジーの多様な応用領域について幅広い知識と技術を身に付けた人材の育成を目標とする。

動物人間関係学コースでは、自然科学と人文科学・社会科学の境界領域の学問分野として、全ての動物を対象に人と動物のより良い関係を学び、動物と人の健康・福祉・教育への貢献、また人と野生動物とのより良い関係及び野生動物の生息地管理などについて幅広い知識を備えた人材の育成を目標とする。

このような基本方針に基づき、以下のような特徴あるカリキュラムを用意した。

- (1) 動物科学の基礎学力の向上を起点とし、2年次までに動物応用科学が目指す人と動物とのより良い共利共生につながる幅広い教育科目群を配当した。

1年次前期から生物学、化学、生態学などの科目配当で基礎学力を身に付け、その後段階的に専門基礎科目を配当し、動物の形態と機能、動物の特性及び基本的な病態について教育する。また、本学科の全教員による動物応用科学概論、基礎ゼミなどを通じて、動物応用科学の広がり認識し、その中で自らの修学意欲を高める教育を行っている。

- (2) 3年次以降においては、拡大・深化した動物応用科学の諸領域を動物の生命活動とその資源の利用・開発に関わる動物生命科学コースと、人と動物のより良い共利共生関係を目指す動物人間関係学コースの2コースの科目を設けた。

動物生命科学コースでは、遺伝子から、細胞、組織・臓器、微生物、個体、群集、生態系までの種々の段階における生命現象を、保全・増殖、機能解析、利用・開発並びに人と動物に対する安全の観点から、分子から個体までの多様なレベルで総合的に学ぶ。

動物人間関係学コースでは、伴侶動物、介在動物、野生動物を対象に、人の福祉や教育の現場に活用できるような、これらの動物の特性とその応用及び人と動物と環境の共生について総合的に学ぶ。

- (3) 4年次には、卒業論文や専門ゼミによってそれぞれの領域における動物応用科学の専門性の追求と、それを基礎とした人間社会への貢献の在り方を学ぶ。

具体的には、社会最先端の実験手法、それを基にした動物機能性製品や新たな動物飼育法、社会調査、フィールド・ワークの実場面を体験し、そのデータ解析やレポート作成などを通じて、最新の研究情報を社会へ発信する能力、逆に社会ニーズに対応するための問題発見・解決能力を兼ね備える人材の教育を目指す。

ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

本学科の定めた教育課程に在籍し、本学科の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる単位数を修得することが学位授与の要件である。修得すべき授業科目には、講義科目のほか、演習や実習、フィールド・ワークや卒業論文作成等の科目が含まれる。この卒業要件を満たすことで、次のような人物が育成されることを目標とする。

- (1) 社会から求められる幅広い知識、教養と高い社会倫理を習得した人物
- (2) 社会から求められる語学力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を習得した人物
- (3) 動物応用科学の領域の特性、その社会的責任、また動物応用科学の知識と技術を基に人間社会への貢献に寄与する人物
- (4) 動物応用科学における最新の科学技術に立脚した生命科学と社会の発展に貢献する、論理的で科学的な思考を習得した人物



● 動物応用科学科 授業科目

基礎教育科目		専門科目					
1 年次～2 年次		1～2 年次	1～4 年次	2～4 年次	3～4 年次	3～4 年次	
人文科学系科目	社会科学系科目	専門基礎科目	専門共通科目	専門共通科目	動物生命科学コース	動物人間関係学コース	
生命・環境倫理学 心理学 世界文化史	経済学 法律学・政治学 現代社会学	(必修科目) 動物応用科学概論Ⅰ 動物応用科学概論Ⅱ 動物応用科学実習 細胞生物学 遺伝生物学 分子生物学 生殖生物学 微生物学 動物機能解剖学Ⅰ 動物機能解剖学Ⅱ 動物機能解剖学実習 動物発生学 動物生理学Ⅰ 動物生理学Ⅱ 動物生理学実習 動物生化学 動物生化学実習 生物統計学演習 (選択科目) 基礎動物保健学概論	(必修科目) 動物資源遺伝学 動物繁殖学 動物発生工学 野生動物学 応用動物行動学 動物人間関係学 食品科学 動物資源経済学 動物福祉論 動物病態学 動物関連法規 動物生命科学基礎実習 動物人間関係学基礎実習 動物栄養学 動物衛生学 キャリア形成論 専門ゼミ 卒業論文 社会調査論	(選択科目) 動物飼養学 動物栄養学実習 動物衛生学実習 公衆衛生学 人と動物の共通感染症 牧場実習 インターンシップ 科学の伝達 動物分子生殖科学 食品機能学 進化・集団遺伝学 動物薬理学 家畜管理学	(選択科目) 動物遺伝・育種学 動物遺伝育種学実習 動物遺伝子工学 細胞培養工学 動物工学実習 動物分子免疫学 分子細胞生物学 バイオインフォマティクス演習 動物受精卵移植論 動物生殖制御論 動物繁殖学実習 家畜人工授精特別実習 実験動物学 実験動物学実習 微生物機能科学 食品製造学 食品科学実習 食品衛生学 機器分析化学 機器分析化学実習 動物トキシコロジーⅠ 動物トキシコロジーⅡ 動物トキシコロジー実習	(選択科目) 動物行動神経科学 動物行動治療学 動物健康管理学 犬学・猫学 馬学 医学概論 動物介在活動・療法演習Ⅰ 動物介在活動・療法演習Ⅱ 応用動物心理学実習Ⅰ 応用動物心理学実習Ⅱ 動物行動管理学実習 動物発達行動学実習 乗馬応用実習Ⅰ 乗馬応用実習Ⅱ 動物行動生態学 野生動物管理学 保全生態学 生物分類学・動物園概論 野生動物調査演習 野生動物学野外演習	
自然科学系科目							
ライフサイエンスの数学 ライフサイエンスの物理学 化学 有機化学	生物学 生態学 地球共生論 自然科学史 化学実験 生物学入門 化学入門						
複合科目	保健体育科目						
スタディ・スキルズ 情報処理論 コンピュータ演習 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ	基礎体育						
外国語科目							
〈外国語 A 科目〉 基礎科学英語 英語講読Ⅰ 英作文表現Ⅰ 総合・実用英語Ⅰ 総合・実用英語Ⅱ 英語講読Ⅱ 英語講読Ⅲ 英作文表現Ⅱ	〈外国語 B 科目〉 中国語Ⅰ ドイツ語Ⅰ スペイン語Ⅰ 中国語Ⅱ ドイツ語Ⅱ スペイン語Ⅱ						

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
基礎教育系科目	
必修	19
選択必修	6
選択	12
専門共通系科目群 動物生命科学コース科目群 動物人間関係学コース科目群	
必修	65
選択	22
(うち、実習・演習)	(7)
計	124

※ 平成 29 年度入学者適用

取得可能学位 学士（動物応用科学）

2) 生命・環境科学部

生命・環境科学部の理念・目的

生命・環境科学部は、生命科学及び環境科学の立場から、健全な生命をはぐくむための教育研究を展開し、もって、人の健康の維持増進や環境の安全・保全にかかわる専門性の高い技術者を育成すること、さらには、社会科学的観点に立って、環境問題に対応できる人材の育成を目的とする。

1. アドミッション・ポリシー（求める学生像）

生命・環境科学部は、「生命科学及び環境科学の立場から、健全な生命を育むための教育研究を展開し、もって、人の健康の維持増進や環境の安全・保全に関わる専門性の高い技術者や環境問題に対応できる人材を育成すること」を教育理念・目的とする。

この目的が達成されるために、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 基礎学力を有し、生命科学及び環境科学の学びを通して、自ら課題を見出し、その課題解決のため必要とする知識・技術を習得しようとする学習意欲を持ち、積極性と創造性を持っている人
- (2) 高度な専門知識をもって、社会に貢献することに強い意識を持っている人

2. カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

生命・環境科学部の教育理念・目的を実現するよう、生命科学及び環境科学に関するそれぞれの学問の基盤教育を充実させ、さらに、1年次の早い時期から専門知識の導入を適切に配置したカリキュラムを編成し、次のような方針に基づき、実施している。

- (1) 臨床検査技術学科にあっては、「臨床検査技師養成教育」に必要な専門科目を基本とし、本学独自の科目として、高い倫理感を養うために教養科目を、疾病や遺伝的疾患を理解させるために専門科目を配置している。
疾病と臨床検査成績との関連性をより深く、かつ正確に理解するために必要な、臨床検査に関する専門知識と技術を総合的に理解させ、チーム医療を実践する一員として活躍ができる人材の育成を図る。
- (2) 食品生命科学学科にあっては、多面的かつ倫理的な考察力を養うために教養科目の充実を図り、さらに、食の安全及び生命科学に関する専門基礎科目と実習を通じて、食のもたらす恩恵と危害の可能性についてその科学的根拠を総合的に理解することを目標に、食の安全・安心教育の充実を図っている。食品生命科学領域の深さと広がり認識し、食の安全・安心に関わる専門性の高い分野で活躍ができる人材の育成を図る。
- (3) 環境科学学科にあっては、複雑な環境問題の全体像を把握し、専門知識の導入を促すために、1年次には、基礎科学を中心とした教養科目の充実を図り、2年次から、環境問題の解決や環境保全に必要な科学的知識、分析技術・評価を身に付けるため特色ある専門科目を配置することで、環境問題をより正確に理解し、科学的根拠に基づいた実践対応能力を養い、持続的な社会の発展に貢献し、環境の専門家として活躍ができる人材の育成を図る。

3. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

生命・環境科学部の教育理念・目的に沿って設定し学科目の履修を通じて、所定の単位の取得及び当該学科の課程を修了の上、次に求める能力を身に付けた者に対し、臨床検査技術学科及び食品生命科学学科にあっては、学士（保健衛生学）を、環境科学学科にあっては、学士（環境科学）の学位を、それぞれ授与する。

- (1) 臨床検査技術学科にあっては、臨床検査技師国家資格を取得できる学力及び実践能力を備え、幅広い教養と倫理感を身に付け、コミュニケーション能力を生かしたチーム医療に貢献する資質を持ち合わせた者
- (2) 食品生命科学学科にあっては、食の分野の諸領域における幅広い知識と実践的な専門技術、研究方法を習得し、高い教養と倫理感を身に付け、人の健康に関わる専門分野で社会貢献できる資質を持ち合わせた者
- (3) 環境科学学科にあっては、健全な環境を創るため、環境の諸問題に対応できる実践対応能力に優れ、持続的に取り組むことができる資質を持ち合わせた者

臨床検査技術学科の教育理念

生命・環境科学部の教育理念・目的に基づき、臨床検査技術学科は、基礎学力の充実を図り、臨床検査に関する専門知識、技術を習得し、さらに高い倫理観を有し、高齢者・障害者医療にも対応可能で、感染症対策、栄養サポート、糖尿病療養指導などのチーム医療を実践する一員としてもふさわしい高い能力を有する臨床検査技師を養成する。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

本学科の教育理念を十分に理解し、最後まで目標に向かって努力できる強い意志と意欲を持った次のような人を求めている。

- (1) 臨床検査技師として医療分野において活躍したい人
- (2) 臨床検査値と疾病についての関係に広く興味のある人
- (3) 臨床検査学を学ぶために必要な基礎学力（特に数学、化学、生物）を有する人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

本学科の教育理念と教育目標を具体化したカリキュラムは、「臨床検査技師学校養成所指定規則」第2条第3号に規定されている「臨床検査技師養成教育」に必要な専門科目80単位を基本とし、これに本学科独自の科目を加えて構成されている。すなわち、高い倫理観を養うための生命倫理学、科学英語論文を理解するための基礎科学英語や医学英語を取り入れた教養科目、及び疾病や遺伝的疾患を理解させるために臨床医学概論や基礎遺伝学、臨床遺伝学、遺伝子検査学を配当した。さらに、履修した科目の内容を総合的に理解させるとともに、早い時期から国家試験を意識させ、合格率を高めるために、教育の進行に合わせて総合臨床検査学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、総合臨床検査学演習を開講する。

- (1) 1～2年次において教養科目のほか、解剖学、組織学、生理学、微生物学、生化学、病理学、免疫学、医動物学などの専門基礎科目（必修）及び臨床化学、病理検査学、検査管理総論などの専門科目（必修）を配当し、基礎学力並びに専門基礎学力を身に付ける。
- (2) さらに、3～4年次において臨床医学概論、衛生・公衆衛生学、医用工学概論などの専門基礎科目（必修、選択）のほか、臨床病理学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学、臨床生理学、臨床遺伝学、そして医療の安全についての科目として臨床検査リスクマネジメントを含め、専門科目（必修、選択）を配当し、臨床検査技師教育の専門分野を展開する。
- (3) 卒業論文は、2～4年次の3年間で履修する選択科目とした。学生は各研究室に所属し、研究テーマの決定、研究活動に必要な知識と実験手技の習得、文献の講読、実験の実施、データの解析・考察、論文作成などを通じて、問題に取り組む能力、必要な情報を収集する能力及びプレゼンテーション能力など社会で要求される幅広いコミュニケーション能力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

本学科は、次のような能力・知識を有する卒業生を輩出する。

- (1) 臨床検査技師国家資格を取得できる学力
- (2) 医療従事者としての高い倫理観
- (3) 臨床検査成績と疾患との関連性を深く把握できる能力
- (4) チーム医療を理解し、実践できる能力
- (5) 自分の考えを論理的に表現できる総合的コミュニケーション能力

上記の能力・知識の習得について、定期試験・追再試験などを行い、厳格な単位認定を行う。また、必修科目108単

位、選択科目 16 単位の計 124 単位を卒業要件とし、これを修得した者に対して卒業認定を行う。

● 臨床検査技術学科 授業科目

1 年次～ 4 年次				
教養に係る科目	教養科目			
	生命倫理学	応用数学	医療体育	ドイツ語Ⅰ
	心理学	基礎統計学	日本語表現法	フランス語Ⅰ
	現代経済学	基礎化学・分析化学	基礎英語	医学英語
	日本国憲法	基礎生物学	基礎科学英語	薬事関連法規
	労働基準法	基礎教養科学演習	英語講読Ⅰ	
専門に係る科目	専門基礎科目			
	キャリア演習	生理学実習	基礎遺伝学	衛生・公衆衛生学実習
	情報科学概論	生化学	免疫学Ⅰ	薬理学
	解剖学・同実習	生化学実習	免疫学Ⅱ	生殖生理・不妊症学
	組織学・同実習	病理学Ⅰ	免疫学実習	労働生理学Ⅰ
	コンピュータ実習	病理学Ⅱ	医動物学・同実習	労働生理学Ⅱ
	基礎化学実験	病理学実習	医用工学概論	労働安全衛生法Ⅰ
	生物有機化学	微生物学総論	臨床医学概論	労働安全衛生法Ⅱ
	生理学Ⅰ	微生物学実習	衛生・公衆衛生学Ⅰ	労働衛生Ⅰ
	生理学Ⅱ	電子工学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱ	労働衛生Ⅱ
	専門科目			
	検査管理総論	病理検査学Ⅱ	臨床病理学	臨床検査リスクマネジメント
	臨床化学Ⅰ（RI 検査学を含む）	病理検査学実習	臨床免疫学	臨床遺伝学
	臨床化学Ⅱ	臨床検査総論Ⅰ	臨床免疫学実習	総合臨床検査学Ⅰ
	臨床化学実習	臨床検査総論Ⅱ	臨床生理学Ⅰ	総合臨床検査学Ⅱ
	臨床血液学Ⅰ	臨床検査総論実習	臨床生理学Ⅱ	総合臨床検査学Ⅲ
	臨床血液学Ⅱ	臨床微生物学Ⅰ	臨床生理学実習	総合臨床検査学演習
	臨床血液学実習	臨床微生物学Ⅱ	遺伝子検査学	臨床実習
	病理検査学Ⅰ	臨床微生物学実習	遺伝子検査学実習	卒業論文

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修科目	108
選択科目	
└ 教養科目	4
└ 専門科目	12
計	124

※ 平成 29 年度入学者適用

取得可能学位 学士（保健衛生学）

食品生命科学科の教育理念

生命・環境科学部の教育理念・目的に基づき、食品生命科学科では、健康な社会を維持・発展させるために、人の公衆衛生及び保健衛生学を基礎として食品科学・栄養学及び衛生学を学び、食の安全・安心に関わるリスク評価と食品の機能性に関わる専門性の高い食品衛生、食品科学及び公衆衛生分野で活躍する幅広い職業人を養成する。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

高等学校までの中等教育で学んだ基礎学力、特に化学、生物、英語の学力を有した、次のような人を求めている。

- (1) 本学科の教育理念を理解し、食に関する問題とその科学的究明に強い関心を持っている人
- (2) 自ら考えて問題解決に積極的に挑戦する意欲を持った人
- (3) 食の安全・安心確保の見地から、正義感と責任感にあふれている人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

本学科の教育目標を達成するためのカリキュラムの設定方針として、次の項目に重点を置いている。

- (1) 確かな教養と豊かな構想力を身に付けるため、1年次前期には、基礎教養科目を配当し、多面的かつ倫理的に物事を考察できる能力が身に付くようにする。また、学習意欲をより増進させるために、基礎学力の強化と、実社会で活躍する企業人等が担当する科目を配当する。さらに、食の安全及び生命科学に関する専門基礎科目と実習を1～2年次から配当する。
- (2) 1年次から4年次にわたり、英語を主とした語学力の向上を図るとともに情報処理及びデータ解析能力の基礎を身に付ける。
- (3) 2年次以降においては、食のもたらす恩恵と危害の可能性についてその科学的根拠を総合的に学習する。具体的には、食育教育と食の健康・医療分野への応用を目指すフードアプリケーションサイエンス分野と行政機関・食品検査機関、食品品質検査などでの応用を目指すフードレギュラトリーサイエンス分野で、専門的に教育を行い食の安全安心教育の充実を図る。
- (4) 3年次から、研究室ゼミや卒業論文等に取り組むことにより、食品生命科学領域の深さと広がり、食のレギュラトリーとアプリケーション領域の現状と可能性を認識し、最新情報を収集する能力と、問題発見・解決に関わるコミュニケーション能力並びにプレゼンテーション能力を身に付ける。

ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

本学科では、多くの実習・演習、また担当教員の指導の下に行う卒業論文の作成を通じて、食の分野の諸領域における幅広い知識と実践的な専門技術、研究方法を習得し、以下の3つを実践して社会で活躍できる人材の育成を目指している。そのために、教養科目と専門科目を合計124単位以上修得することを義務付け、目標に到達した学生に対して卒業を認定する。

- (1) 生物学的及び化学的な分析の知識・技術に精通し、科学的根拠に基づいて得られた実験・調査成績を解析・評価できる。
- (2) 食の安全・安心分野で、広い見識を持ってリーダーシップを発揮し、問題の追求と解決に対して意欲的に取り組む。
- (3) 高い教養と倫理観を身に付け、人の健康に関わる専門分野で能力を発揮する。

● 食品生命科学科 授業科目

1 年次～ 4 年次			
教養に係る科目	教養科目		
	フレッシュアーズセミナー 基礎生物学・同実習 基礎化学 基礎数学 食生活と健康科学 心理学 社会学概論 地球共生論	基礎生物統計学 基礎化学実習 食環境論 生命倫理学 日本国憲法 現代経済学 基礎物理学	医療体育 基礎英語 基礎科学英語 英語講読 ライティング基礎 基礎ドイツ語 基礎フランス語
専門に係る科目	専門科目		
	コンピューター演習基礎 コンピューター演習応用 解剖組織学 解剖組織学実習 有機化学 機器分析学・同実習 分子細胞生物学・同実習 栄養学 栄養学実習 遺伝子工学基礎 微生物学総論 微生物学実習 実験動物学 食品学 食品学実習 生理学 生理学実習 生化学	生化学実習 食品生化学 病原微生物学 病原微生物学実習 公衆衛生学 公衆衛生学実習 食品衛生学 食品衛生学実習 食品分析学 食品分析学実習 病理学 衛生動物学 食中毒科学 薬理学 毒性学 予防検査学 食品機能学 食物アレルギー論	公衆栄養学 公衆栄養学実習 疫学概論 食品バイオテクノロジー 応用栄養学 臨床栄養学 環境衛生学 食品加工学・保蔵科学 食品加工学・保蔵科学実習 食品安全学Ⅰ 食品安全学Ⅱ 食品寄生虫学 放射線衛生学 バイオインフォマティクス 衛生行政学 HACCP 管理論 インターンシップ 卒業論文

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修科目	84
選択科目	
└ 教養科目	10
└ 専門科目	30
計	124

※ 平成 29 年度入学者適用

取得可能学位 学士（保健衛生学）

環境科学科の教育理念

生命・環境学部教育理念・目的に基づき、将来の世代にわたって環境を保全し、健全な社会を持続的に発展させることは、人類の永遠の責務である。この責務を遂行するためには、これまでに集積された科学技術を有効に活用し環境問題を解決していくことが重要である。環境科学科では、環境問題を正確に把握し対応できる能力を身に付け、科学技術を環境保全に活用し社会の持続的発展に寄与できる人材を養成することを教育理念とする。

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

本学科では、高等学校までの教育で学んだ化学、生物、英語などの基礎学力を有し、次のような志向を持つ人を求めている。

- (1) 環境保全や環境問題に強い関心がある人
- (2) 環境科学やその対策技術について学習意欲がある人
- (3) 環境科学科の教育理念、教育方針、教育内容等を理解し、環境保全や環境問題解決に貢献する強い意欲を持っている人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

本学科の教育理念を達成するため、以下の事項を考慮してカリキュラムを編成している。

- (1) 1年次には、複雑な環境問題の全体像を把握し専門知識の導入を促すための基礎科学、一般社会活動や生活を営む上で重要な基礎人文社会学及び国際活動や専門科目の学習に必要な語学を主に配当している。これらに加えて、現在地球上で起こっている環境問題の全体像を理解するための環境基礎分野の専門科目を配当している。
- (2) 2年次及び3年次では、環境問題の解決や環境保全に必要な科学的知識、分析技術、結果の評価などの各能力を段階的に習得できるような専門科目を順次配当している。人間の健康と安全に関連するレギュラトリーサイエンスを対象とした環境衛生分野、環境問題を正確に分析し判断のできる能力を養うための環境分析分野、科学技術と実社会との調和・融合を通して持続的な社会発展を目指す実践型の環境評価分野及び健全な環境の維持を考える環境保全分野に各科目を配置編成している。
- (3) 環境調査や環境・衛生管理技術などの能力を習得し、専門家としての実力を養成するための各実習を1年次から3年次に配当している。
- (4) さらに、能動的思考や現実的な問題解決能力を養うため、卒業論文、課題研究などを発展・展開分野として配置し、その分野に配置している選択必修科目を6単位以上修得するよう卒業要件に定めている。これらのプロセスを通して、科学的根拠に基づいた的確な評価・判断・予測などの実践対応能力を養い、環境問題解決能力で社会貢献できる人材の育成を教育方針としている。

ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）

卒業要件として、必修科目86単位、選択科目38単位（合計124単位）以上を修得し、選択科目には専門に係る科目の選択必修科目から6単位以上を含むことを義務付けている。環境科学科の教育課程を通して、次のような実践対応能力に優れた人材の育成を目標としている。

- (1) 環境因子を分析できる。
- (2) 環境の質を評価できる。
- (3) 環境因子の制御・管理ができる。
- (4) 健全な環境を創るため、環境の諸問題に対して持続的に取り組むことができる。

● 環境科学科 授業科目

1 年次～ 4 年次			
教養に係る科目	一 般	基礎人文社会	基礎科学
	フレッシュアーズセミナー 基礎体育	法学入門 社会学概論 人権論 現代経済学 経営学入門 日本国憲法 生命倫理学	コンピュータ概論・同実習 基礎化学 基礎生物学 基礎数学 地球共生論 基礎物理学
	語 学		
	Core I TOEIC A Core I TOEIC B 基礎科学英語	Core II TOEIC A Core II TOEIC B 環境英語	基礎フランス語 基礎ドイツ語
専門に係る科目	環境基礎	環境衛生	環境分析
	基礎統計学・同演習 地球環境科学 基礎科学実習 水環境学 大気環境学 微生物学総論 微生物学実習 生化学 科学技術論 生理学 分子細胞生物学・同実習 地域コミュニティ論 環境フィールドスタディ 科学技術英語	衛生動物学・同実習 公衆衛生学 環境衛生学実習 食品衛生学 水質衛生学 環境衛生学 食品衛生学実習 労働基準法 労働衛生学 放射線衛生学 上水処理工学 労働生理学 労働安全衛生法 衛生行政学 環境・病原微生物学 病原微生物学実習 衛生管理学	化学 分析化学 機器分析学・同実習 有機化学 無機化学 環境計量分析学 環境計量分析学実習 環境計量学・同演習 公害防止管理学・同演習
	環境評価	環境保全	発展・展開
	環境調査入門 社会調査法 環境・衛生統計学 環境毒性学・同実習 環境調査実習 環境リスク学・同演習 環境影響評価学・同実習	環境生態学 環境植物学 水処理工学実習 環境修復技術論 化学物質安全管理学演習 下水・産業排水処理工学 廃棄物リサイクル論 建築物衛生管理学・同演習	リサーチローテーション 課題研究Ⅰ インターンシップ 資源エネルギー環境論 環境ビジネス論 課題研究Ⅱ 卒業論文

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修科目	89
選択科目	
└ 教養科目	16
└ 専門科目	19 ※ 2
計	124

※ 1 平成 29 年度入学者適用

※ 2 選択必修科目 6 単位以上及び選択科目 13 単位以上を含む。

取得可能学位 学士（環境科学）

教職課程専門科目

教育職概論／学校と教育の歴史

教職実践演習／教育心理学

道徳教育の研究／特別支援教育論

教育相談の基礎と方法／理科指導法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

教育課程の意義と編成

教育の方法と技術／生徒・進路指導論

教育法概論／特別活動論

農業科指導法

教育実習指導／教育実習Ⅰ・Ⅱ

※その他教科に関する科目等の履修が必要



3) 大学院獣医学研究科

獣医学研究科は、獣医学、動物応用科学を基盤として、動物と人（ヒト）の健康社会・生命科学を探究し、地球上に共存する動物と人（ヒト）に関わる学術の論理及び応用を追究・教授することを理念とする。この理念に基づき、獣医学研究科は、人類と動物の福祉、社会の平和、生物としての共生並びに文化の進展に貢献する人材を育てることを目的とする。

1. アドミッション・ポリシー（求める学生像）

獣医学研究科は、獣医学、動物応用科学を基盤として、動物と人（ヒト）の健康社会・生命科学を探究し、地球上に共存する動物と人（ヒト）に関わる学術の論理及び応用を追究・教授すること、もって、人類と動物の福祉、社会の平和、生物としての共生並びに文化の進展に貢献する人材を育てることを目的とする。

この目的が達成されるために、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 獣医学・動物応用科学に関連する諸科学の基礎知識が備わっている人
- (2) 人類と動物の健康社会・生命科学の研究領域に関する深い探求心を持つ人
- (3) 高度な専門性を持つ職業人としての意識も持ち、国内外問わず広い視野を持って社会的使命に柔軟に応えることができる人

2. カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

獣医学研究科の教育理念・目的を実現するよう、獣医学及び動物応用科学に関する各専門分野及び専攻科目において、特色ある講義、演習及び実験・実習によって、より深い専門的知識を習得するコースワークと、研究者として自立した研究活動を行い、高度な専門性を持つ職業人として必要な研究能力及び豊かな学識が身に付けられるように適切に配慮したリサーチワークのカリキュラムを編成する。

研究者として必要な研究倫理、課題解決能力、論理的思考力及び科学的な課題設定能力を養わせ、並びに学術発表及び質疑応答等を通じてプレゼンテーション能力や国際感覚が備わるようにする。

3. ディプロマ・ポリシー（修了時の到達目標）

獣医学研究科の教育理念・目的に沿って設定した修士課程又は博士課程の修了要件において、所定の単位を修得し、修士又は博士の学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、獣医学専攻博士課程にあっては博士（獣医学）、動物応用科学専攻博士後期課程にあっては博士（学術）、同博士前期課程にあっては修士（動物応用科学）の学位を、それぞれ授与する。学位を授与される者は、獣医学又は動物応用科学に関する専門的知識及び研究技術を持ち、人類と動物の健康社会に貢献する研究者及び教育者、又は高度な専門性を持つ職業人として社会に貢献できる能力を身に付けている。

獣医学専攻の教育理念

獣医学研究科の教育理念・目的に基づき、獣医学専攻では動物とヒトの生命科学として、より高度な臨床獣医師や高度の専門性を有する職業人、研究者及び教育者を養成するため、問題解決能力、実践・実務能力を重視した教育研究体制を組織する。また、獣医学専攻では、ヒトの健康に寄与することも考慮し、主として、予防獣医学、遺伝子診断、遺伝性疾患、免疫治療、移植、感染症、臨床薬理、臨床中毒、臨床病理、病態病理及びバイオインフォマティクスなどの幅広い研究・教育を通して、より専門性の高い研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

●獣医学専攻博士課程

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

獣医学専攻博士課程では、より高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者の養成を目指す。そのために次のような人物を求めている。

- (1) 獣医学に関連する諸科学の基礎知識を持ち、かつ、国際的な視点を持ち合わせている人
- (2) 獣医学に関する新たな知識の創造及び新技術の開発に取組、それによって人類と動物の健康維持に貢献しようとする意識のある人
- (3) 獣医学にとどまらず、新たな学際的な研究領域に対しても果敢に挑戦しようとする意欲を持っている人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

- (1) 獣医学に関する専攻科目の専門的知識を、各専攻科目に配当された授業科目の講義、演習並びに実験・実習により習得させる。
- (2) 各研究室において、それぞれの指導教員との討論の基、自ら主体的に各分野の先端的な研究課題に取組、博士論文としてまとめる。これにより、課題解決方法、論理的思考、発展的な課題設定方法についてより深く学ばせる。
- (3) 研究成果を学内の課程博士論文中間発表会及び論文発表会で発表させるとともに、国内外の学会及び学術誌において発表することを支援する。これにより、日本語のみならず、英語を始めとする外国語でのプレゼンテーション及び質疑応答能力を養わせる。また、対外的な評価を受けることで、自己の研究能力を客観的に評価する機会を与える。

ディプロマ・ポリシー（修了時の到達目標）

- (1) 博士課程にあっては、所定の修業年限である4年以上在学し、必修20単位、選択10単位計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（獣医学）の学位を与える。
- (2) ただし、博士課程に3年以上在学し、定められた授業科目につき課程修了必要単位を修得し、かつ、特に優れた研究業績を上げ、指導教員を含む3人以上の本研究科委員会委員が推薦し、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修業年限の特例により博士（獣医学）の学位を与える。
- (3) また、博士課程修了にあたっては、以下の水準に到達していることを目安とする。
 - 1) それぞれの専門領域における高度な学識（専門的知識と見識）並びに研究技術を習得している。さらに、その学識と研究技術に基づいて独自に課題を設定し、それを解決・展開できる能力を身に付けている。
 - 2) 必要に応じて他の研究者及び研究機関との連携を図ることができる能力を身に付けている。
 - 3) 研究成果を国際的に公表するために必要な英語でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力及び論文作成能力を身に付けている。上記3点の能力を通じて、獣医学における高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者として社会に貢献できるようにする。

● 獣医学専攻 分野・専攻科目と授業科目〈博士課程〉

分野	専攻科目	研究領域	授業科目	単位数	分野	専攻科目	研究領域	授業科目	単位数
動物 構造 機能 学	生体構造学	獣医解剖学	獣医解剖学特論	2	動物 疾 病 制 御 学	生体疾病 制御学	獣医病理学	獣医病理学特論	2
			獣医解剖学特別演習Ⅰ	2				獣医病理学特別演習Ⅰ	2
			獣医解剖学特別演習Ⅱ	2				獣医病理学特別演習Ⅱ	2
			獣医解剖学特別演習Ⅲ	2				獣医病理学特別演習Ⅲ	2
			獣医解剖学特別実験Ⅰ	3				獣医病理学特別実験Ⅰ	3
			獣医解剖学特別実験Ⅱ	3				獣医病理学特別実験Ⅱ	3
			獣医解剖学特別実験Ⅲ	3				獣医病理学特別実験Ⅲ	3
			獣医解剖学特別実験Ⅳ	3				獣医病理学特別実験Ⅳ	3
	生体構造学	獣医組織・ 発生学	獣医組織・発生学特論	2			獣医薬理学	獣医薬理学特論	2
			獣医組織・発生学特別演習Ⅰ	2				獣医薬理学特別演習Ⅰ	2
			獣医組織・発生学特別演習Ⅱ	2				獣医薬理学特別演習Ⅱ	2
			獣医組織・発生学特別演習Ⅲ	2				獣医薬理学特別演習Ⅲ	2
			獣医組織・発生学特別実験Ⅰ	3				獣医薬理学特別実験Ⅰ	3
			獣医組織・発生学特別実験Ⅱ	3				獣医薬理学特別実験Ⅱ	3
			獣医組織・発生学特別実験Ⅲ	3				獣医薬理学特別実験Ⅲ	3
			獣医組織・発生学特別実験Ⅳ	3				獣医薬理学特別実験Ⅳ	3
	生体機能学	分子生物学	分子生物学特論	2			獣医微生物学	獣医微生物学特論	2
			分子生物学特別演習Ⅰ	2				獣医微生物学特別演習Ⅰ	2
			分子生物学特別演習Ⅱ	2				獣医微生物学特別演習Ⅱ	2
			分子生物学特別演習Ⅲ	2				獣医微生物学特別演習Ⅲ	2
			分子生物学特別実験Ⅰ	3				獣医微生物学特別実験Ⅰ	3
			分子生物学特別実験Ⅱ	3				獣医微生物学特別実験Ⅱ	3
			分子生物学特別実験Ⅲ	3				獣医微生物学特別実験Ⅲ	3
			分子生物学特別実験Ⅳ	3				獣医微生物学特別実験Ⅳ	3
動物 疾 病 制 御 学	生体機能学	獣医生理学	獣医生理学特論	2		生体疾病 制御学	感染症学	感染症学特論	2
			獣医生理学特別演習Ⅰ	2				感染症学特別演習Ⅰ	2
			獣医生理学特別演習Ⅱ	2				感染症学特別演習Ⅱ	2
			獣医生理学特別演習Ⅲ	2				感染症学特別演習Ⅲ	2
			獣医生理学特別実験Ⅰ	3				感染症学特別実験Ⅰ	3
			獣医生理学特別実験Ⅱ	3				感染症学特別実験Ⅱ	3
			獣医生理学特別実験Ⅲ	3				感染症学特別実験Ⅲ	3
			獣医生理学特別実験Ⅳ	3				感染症学特別実験Ⅳ	3
	生体機能学	獣医生化学	獣医生化学特論	2			寄生虫学	寄生虫学特論	2
			獣医生化学特別演習Ⅰ	2				寄生虫学特別演習Ⅰ	2
			獣医生化学特別演習Ⅱ	2				寄生虫学特別演習Ⅱ	2
			獣医生化学特別演習Ⅲ	2				寄生虫学特別演習Ⅲ	2
			獣医生化学特別実験Ⅰ	3				寄生虫学特別実験Ⅰ	3
			獣医生化学特別実験Ⅱ	3				寄生虫学特別実験Ⅱ	3
			獣医生化学特別実験Ⅲ	3				寄生虫学特別実験Ⅲ	3
			獣医生化学特別実験Ⅳ	3				寄生虫学特別実験Ⅳ	3

分野	専攻科目	研究領域	授業科目	単位数
動物 疾病 制御 学	生体疾病 制御学	獣医免疫学	獣医免疫学特論	2
			獣医免疫学特別演習Ⅰ	2
			獣医免疫学特別演習Ⅱ	2
			獣医免疫学特別演習Ⅲ	2
			獣医免疫学特別実験Ⅰ	3
			獣医免疫学特別実験Ⅱ	3
			獣医免疫学特別実験Ⅲ	3
			獣医免疫学特別実験Ⅳ	3
	生体機能 制御学	実験動物学	実験動物学特論	2
			実験動物学特別演習Ⅰ	2
			実験動物学特別演習Ⅱ	2
			実験動物学特別演習Ⅲ	2
			実験動物学特別実験Ⅰ	3
			実験動物学特別実験Ⅱ	3
			実験動物学特別実験Ⅲ	3
			実験動物学特別実験Ⅳ	3
獣 医 環 境 科 学	獣医環境 制御学	家畜衛生学	獣医栄養学特論	2
			獣医栄養学特別演習Ⅰ	2
			獣医栄養学特別演習Ⅱ	2
			獣医栄養学特別演習Ⅲ	2
			獣医栄養学特別実験Ⅰ	3
			獣医栄養学特別実験Ⅱ	3
			獣医栄養学特別実験Ⅲ	3
			獣医栄養学特別実験Ⅳ	3
	獣医環境 科学	公衆衛生学	家畜衛生学特論	2
			家畜衛生学特別演習Ⅰ	2
			家畜衛生学特別演習Ⅱ	2
			家畜衛生学特別演習Ⅲ	2
			家畜衛生学特別実験Ⅰ	3
			家畜衛生学特別実験Ⅱ	3
			家畜衛生学特別実験Ⅲ	3
			家畜衛生学特別実験Ⅳ	3
獣 医 環 境 科 学	獣医環境 科学	公衆衛生学	公衆衛生学特論	2
			公衆衛生学特別演習Ⅰ	2
			公衆衛生学特別演習Ⅱ	2
			公衆衛生学特別演習Ⅲ	2
			公衆衛生学特別実験Ⅰ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅱ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅲ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅳ	3
	獣医環境 科学	公衆衛生学	公衆衛生学特論	2
			公衆衛生学特別演習Ⅰ	2
			公衆衛生学特別演習Ⅱ	2
			公衆衛生学特別演習Ⅲ	2
			公衆衛生学特別実験Ⅰ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅱ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅲ	3
			公衆衛生学特別実験Ⅳ	3

備考

所属している研究領域の特論、特別演習及び特別実験（計20単位）を必修とし、他の研究領域の授業科目から10単位以上を選択し、合計30単位以上を履修する。ただし、応用動物科学研究領域の授業科目は選択できない。

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	20
選択	10
計	30

※1 平成29年度入学者適用

※2 所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 博士（獣医学）

分野	専攻科目	研究領域	授業科目	単位数
獣 医 臨 床 科 学	獣医診断 治療学	獣医内科学	獣医内科学特論	2
			獣医内科学特別演習Ⅰ	2
			獣医内科学特別演習Ⅱ	2
			獣医内科学特別演習Ⅲ	2
			獣医内科学特別実験Ⅰ	3
			獣医内科学特別実験Ⅱ	3
			獣医内科学特別実験Ⅲ	3
			獣医内科学特別実験Ⅳ	3
	獣医診断 治療学	獣医外科学	獣医外科学特論	2
			獣医外科学特別演習Ⅰ	2
			獣医外科学特別演習Ⅱ	2
			獣医外科学特別演習Ⅲ	2
			獣医外科学特別実験Ⅰ	3
			獣医外科学特別実験Ⅱ	3
			獣医外科学特別実験Ⅲ	3
			獣医外科学特別実験Ⅳ	3
獣 医 臨 床 科 学	獣医診断 治療学	獣医放射線学	獣医放射線学特論	2
			獣医放射線学特別演習Ⅰ	2
			獣医放射線学特別演習Ⅱ	2
			獣医放射線学特別演習Ⅲ	2
			獣医放射線学特別実験Ⅰ	3
			獣医放射線学特別実験Ⅱ	3
			獣医放射線学特別実験Ⅲ	3
			獣医放射線学特別実験Ⅳ	3
	獣医診断 治療学	臨床繁殖学	臨床繁殖学特論	2
			臨床繁殖学特別演習Ⅰ	2
			臨床繁殖学特別演習Ⅱ	2
			臨床繁殖学特別演習Ⅲ	2
			臨床繁殖学特別実験Ⅰ	3
			臨床繁殖学特別実験Ⅱ	3
			臨床繁殖学特別実験Ⅲ	3
			臨床繁殖学特別実験Ⅳ	3
応 用 動 物 科 学	応用動物科学	応用動物科学	応用動物科学特論	2
			応用動物科学特別演習Ⅰ	2
			応用動物科学特別演習Ⅱ	2
			応用動物科学特別演習Ⅲ	2
			応用動物科学特別実験Ⅰ	3
			応用動物科学特別実験Ⅱ	3
			応用動物科学特別実験Ⅲ	3
			応用動物科学特別実験Ⅳ	3
	応用動物科学	応用動物科学	応用動物科学特論	2
			応用動物科学特別演習Ⅰ	2
			応用動物科学特別演習Ⅱ	2
			応用動物科学特別演習Ⅲ	2
			応用動物科学特別実験Ⅰ	3
			応用動物科学特別実験Ⅱ	3
			応用動物科学特別実験Ⅲ	3
			応用動物科学特別実験Ⅳ	3
共 通	共通科目	共通領域	動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2
			動物科学特論Ⅲ	2
			動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2
			動物科学特論Ⅲ	2
			動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2
	共通科目	共通領域	動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2
			動物科学特論Ⅲ	2
			動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2
			動物科学特論Ⅲ	2
			動物科学特論Ⅰ	2
			動物科学特論Ⅱ	2

動物応用科学専攻の教育理念

獣医学研究科の教育理念・目的に基づき、動物応用科学専攻では、人と動物との共生を目指し、人と動物の健康社会を科学する高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者を養成することを目標に、動物、微生物などに由来する遺伝子、細胞、タンパク質などの機能解析とその応用、食品科学における危険要因の低減、除去及び生理活性マテリアルとしての環境改善への応用、更に「健康な動物」の持つ機能の人間生活への活用、野生動物の保全・人間社会との軋轢の軽減などについて研究・教育を行っている。

●博士前期課程（修士課程）

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

博士前期課程（修士課程）では、人と動物の健康社会を科学する高度な専門性職業人の養成を目指す。そのために次のような人物を求めている。

- (1) 学部専門にかかわらず、人と動物の健康を科学する動物応用科学の基礎となる生物学、化学の基礎知識を持ち、かつ、国際化に対応できるだけの語学力を備えている人
- (2) 動物応用科学に強い関心を持ち、新しい知識の吸収意欲があり、かつ、それらの知識を科学的発見及び問題解決に結びつけようとする意識のある人
- (3) 動物応用科学の社会的使命をよく認識し、リーダーシップと協調性を持って問題解決に果敢に挑戦しようとする意欲を持っている人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

- (1) 動物応用科学に関する専攻科目の専門的知識を、各専攻科目に配当された授業科目の講義、演習並びに実験・実習により習得させる。
- (2) それぞれの指導教員の下、研究指導を受けながら研究課題に積極的に取組、修士論文としてまとめる。これにより、科学的な課題設定方法、論理的思考、各分野の先端的知識及び実験手法について学ばせる。
- (3) 研究成果を学内の課程修士論文中間発表会及び論文発表会で発表させるとともに、学外の学会等において発表することを支援する。これにより、プレゼンテーション及び質疑応答能力を養わせる。

ディプロマ・ポリシー（修了時の到達目標）

- (1) 博士前期課程（修士課程）にあつては、所定の修業年限である2年以上在学し、必修・選択両科目を併せて30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、修士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士（動物応用科学）の学位を与える。
- (2) ただし、博士前期課程（修士課程）に1年以上在学し、所定の課程修了必要単位数を修得し、かつ、特に優れた研究業績を上げ、指導教員を含む3人以上の本研究科委員会委員が推薦し、修士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修業年限の特例により修士（動物応用科学）の学位を与える。
- (3) 博士前期課程（修士課程）修了に当たっては、以下の水準に到達していることを目安とする。
 - 1) 動物、微生物などに由来する遺伝子、細胞、タンパク質などの機能解析とその応用、食品科学における危険要因の低減、除去及び生理活性マテリアルとしての環境改善への応用、更に「健康な動物」の持つ機能の人間生活への活用、野生動物の保全・人間社会との軋轢の軽減などの研究領域に関する高度な専門知識を習得している。
 - 2) それぞれの専門領域における科学的な課題設定方法、論理的思考、各分野の先端的知識の収集及び実験手法など基本的な研究技術を習得している。
 - 3) それぞれの研究成果を学会等において公表するために必要なプレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身に付けている。

●動物応用科学専攻 分野・専攻科目と授業科目〈博士前期課程〉

分野	専攻科目		授業科目	単位数	分野	専攻科目		授業科目	単位数
動物生命科学	動物資源育種学	動物生理遺伝学特論		1	動物行動管理学	応用動物行動学特論Ⅰ		1	
		動物資源制御学特論		1		応用動物行動学特論Ⅱ		1	
		動物資源工学特論		1		応用動物管理学特論Ⅰ		1	
		動物ゲノム解析学特論		1		応用動物管理学特論Ⅱ		1	
		動物生命科学特別演習Ⅰ－Ⅰ		2		動物共生科学特別演習Ⅰ－Ⅰ		2	
		動物生命科学特別演習Ⅰ－Ⅱ		4		動物共生科学特別演習Ⅰ－Ⅱ		4	
		動物生命科学特別研究Ⅰ－Ⅰ		6		動物共生科学特別研究Ⅰ－Ⅰ		6	
		動物生命科学特別研究Ⅰ－Ⅱ		8		動物共生科学特別研究Ⅰ－Ⅱ		8	
	動物生殖科学	動物生殖科学特論Ⅰ		1	野生動物学	野生動物学特論Ⅰ		1	
		動物生殖科学特論Ⅱ		1		野生動物学特論Ⅱ		1	
		動物生殖制御学特論		1		保全生態学特論Ⅰ		1	
		低温細胞生物学特論		1		保全生態学特論Ⅱ		1	
		動物生命科学特別演習Ⅱ－Ⅰ		2		動物共生科学特別演習Ⅱ－Ⅰ		2	
		動物生命科学特別演習Ⅱ－Ⅱ		4		動物共生科学特別演習Ⅱ－Ⅱ		4	
		動物生命科学特別研究Ⅱ－Ⅰ		6		動物共生科学特別研究Ⅱ－Ⅰ		6	
動物生命科学特別研究Ⅱ－Ⅱ			8	動物共生科学特別研究Ⅱ－Ⅱ			8		
動物工学	動物工学特論Ⅰ		1	動物共生科学	介在動物学	動物人間関係学特論Ⅰ		1	
	動物工学特論Ⅱ		1			動物人間関係学特論Ⅱ		1	
	発生・生殖生物学特論		1			動物観比較文化特論		1	
	遺伝子科学特論		1			動物介在療法特論		1	
	動物生命科学特別演習Ⅲ－Ⅰ		2			動物共生科学特別演習Ⅲ－Ⅰ		2	
	動物生命科学特別演習Ⅲ－Ⅱ		4			動物共生科学特別演習Ⅲ－Ⅱ		4	
	動物生命科学特別研究Ⅲ－Ⅰ		6			動物共生科学特別研究Ⅲ－Ⅰ		6	
	動物生命科学特別研究Ⅲ－Ⅱ		8			動物共生科学特別研究Ⅲ－Ⅱ		8	
比較毒性学	比較毒性学特論Ⅰ		1	伴侶動物学	動物神経科学特論Ⅰ		1		
	比較毒性学特論Ⅱ		1		動物神経科学特論Ⅱ		1		
	環境毒性学特論		1		動物社会認知学特論		1		
	実験腫瘍学特論		1		動物発達行動学特論		1		
	動物生命科学特別演習Ⅳ－Ⅰ		2		動物共生科学特別演習Ⅳ－Ⅰ		2		
	動物生命科学特別演習Ⅳ－Ⅱ		4		動物共生科学特別演習Ⅳ－Ⅱ		4		
	動物生命科学特別研究Ⅳ－Ⅰ		6		動物共生科学特別研究Ⅳ－Ⅰ		6		
	動物生命科学特別研究Ⅳ－Ⅱ		8		動物共生科学特別研究Ⅳ－Ⅱ		8		
食品科学	食品科学特論Ⅰ		1	動物資源経済学	動物資源経済学特論Ⅰ		1		
	食品科学特論Ⅱ		1		動物資源経済学特論Ⅱ		1		
	畜産物利用学特論		1		動物産業経済学特論Ⅰ		1		
	応用微生物学特論		1		動物産業経済学特論Ⅱ		1		
	動物生命科学特別演習Ⅴ－Ⅰ		2		動物共生科学特別演習Ⅴ－Ⅰ		2		
	動物生命科学特別演習Ⅴ－Ⅱ		4		動物共生科学特別演習Ⅴ－Ⅱ		4		
	動物生命科学特別研究Ⅴ－Ⅰ		6		動物共生科学特別研究Ⅴ－Ⅰ		6		
	動物生命科学特別研究Ⅴ－Ⅱ		8		動物共生科学特別研究Ⅴ－Ⅱ		8		
基礎生命科学	基礎生命科学特論Ⅰ		1	動物応用医科学	動物応用医科学特論		2		
	基礎生命科学特論Ⅱ		1		動物応用医科学特別演習Ⅰ		2		
	基礎細胞生物学特論Ⅰ		1		動物応用医科学特別演習Ⅱ		4		
	基礎細胞生物学特論Ⅱ		1		動物応用医科学特別研究Ⅰ		6		
	動物生命科学特別演習Ⅵ－Ⅰ		2		動物応用医科学特別研究Ⅱ		8		
	動物生命科学特別演習Ⅵ－Ⅱ		4	共通	共通科目	動物科学特論Ⅰ		2	
	動物生命科学特別研究Ⅵ－Ⅰ		6			動物科学特論Ⅱ		2	
	動物生命科学特別研究Ⅵ－Ⅱ		8						

備考
◎希望する専攻科目を特別演習Ⅰ・特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ及び共同科目から選択する。

備考

- ①所属している専攻の科目で特別演習と特別研究の計20単位及び同専攻の特論から2単位、計22単位を必修とする。ただし、動物応用医科学専攻は、動物応用医科学特論を必修とする。
- ②所属している専攻で必修として履修していない特論と他専攻の特論並びに環境保健学研究科の特論及び共通科目（ただし、自由科目を除く）から計8単位以上を選択する。
- ただし、動物応用医科学特論を選択することはできない。

動物応用科学専攻 博士前期課程

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	22
選択	8
計	30

※1 平成29年度入学者適用

※2 所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 修士（動物応用科学）

●博士後期課程

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

博士後期課程では、博士前期課程で修得した広い視野に立って、より高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者の養成を目指す。そのために次のような人物を求めている。

- (1) 動物応用科学に関連する諸科学の基礎知識を持ち、かつ、国際的な視点を持ち合わせている人
- (2) 動物応用科学に関する新たな知識の創造及び新技術の開発に取組、それによって人類と動物の福祉、社会の平和、生物としての共生並びに文化の進展に貢献しようとする意識のある人
- (3) 動物応用科学にとどまらず、新たな学際的な研究領域に果敢に挑戦しようとする意欲を持っている人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

- (1) それぞれの指導教員との討論の基、自ら主体的に各分野の先端的な研究課題に取組、博士論文としてまとめる。これにより、課題解決方法、論理的思考、発展的な課題設定方法についてより深く学ばせる。
- (2) 研究成果を学内の課程博士論文中間発表会及び論文発表会で発表させるとともに、国内外の学会及び学術誌において発表することを支援する。これにより、日本語のみならず、英語を始めとする外国語でのプレゼンテーション及び質疑応答能力を養わせる。また、対外的な評価を受けることで、自己の研究能力を客観的に評価する機会を与える。

ディプロマ・ポリシー（修了時の到達目標）

- (1) 博士後期課程にあっては、所定の修業年限である3年以上在学し、必修科目12単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（学術）の学位を与える。
- (2) ただし、博士後期課程に2年以上在学し、所定の課程修了必要単位数を修得し、かつ、特に優れた研究業績を上げ、指導教員を含む3人以上の本研究科委員会委員が推薦し、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修業年限の特例により博士（学術）の学位を与える。
- (3) 博士後期課程修了に当たっては、以下の水準に到達していることを目安とする。
 - 1) それぞれの専門領域における高度な学識（専門的知識と見識）並びに研究技術を習得している。さらに、その学識と研究技術に基づいて独自に課題を設定し、それを解決・展開できる能力を身に付けている。
 - 2) 必要に応じて他の研究者及び研究機関との連携を図ることができる能力を身に付けている。
 - 3) 研究成果を国際的に公表するために必要な英語でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力及び論文作成能力を身に付けている。

上記3点の能力を通じて、人と動物の健康社会に貢献する高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者としての資質を備えている。

●動物応用科学専攻 分野・専攻科目と授業科目〈博士後期課程〉

分野	専攻科目	授業科目	単位数	分野	専攻科目	授業科目	単位数
動物生命科学	動物資源育種学	動物応用科学特別演習Ⅰ－Ⅰ	2	動物共生科学	動物行動管理学	動物応用科学特別演習Ⅵ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅰ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅵ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅰ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅵ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅰ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅵ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅰ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅵ－Ⅲ	4
	動物生殖科学	動物応用科学特別演習Ⅱ－Ⅰ	2		野生動物学	動物応用科学特別演習Ⅶ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅱ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅶ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅶ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅶ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅱ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅶ－Ⅲ	4
	動物工学	動物応用科学特別演習Ⅲ－Ⅰ	2		介在動物学	動物応用科学特別演習Ⅷ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅲ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅷ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅲ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅷ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅲ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅷ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅲ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅷ－Ⅲ	4
動物生命科学	比較毒性学	動物応用科学特別演習Ⅳ－Ⅰ	2	動物応用医科学	伴侶動物学	動物応用科学特別演習Ⅸ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅳ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅸ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅳ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅸ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅳ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅸ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅳ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅸ－Ⅲ	4
	食品科学	動物応用科学特別演習Ⅴ－Ⅰ	2		動物資源経済学	動物応用科学特別演習Ⅹ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅴ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅹ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅴ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅹ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅴ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅹ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅴ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅹ－Ⅲ	4
	基礎生命科学	動物応用科学特別演習Ⅺ－Ⅰ	2		動物応用医科学	動物応用科学特別演習Ⅺ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別演習Ⅺ－Ⅱ	2			動物応用科学特別演習Ⅺ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅰ	2			動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅰ	2
		動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅱ	2			動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅱ	2
		動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅲ	4			動物応用科学特別研究Ⅺ－Ⅲ	4

備考

所属している専攻の特別演習と特別研究計12単位を必修とする。

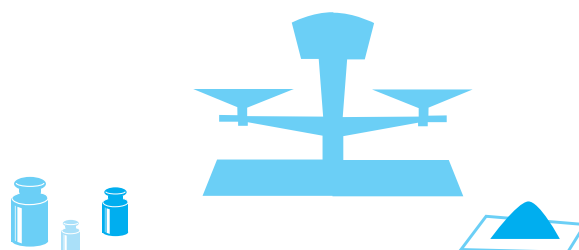
動物応用科学専攻 博士後期課程

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	12
計	12

※1 平成29年度入学者適用

※2 所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 博士（学術）



4) 大学院環境保健学研究科

環境保健学研究科は、生命・環境科学部における教育・研究を基盤として、人を中心に、健康、食、環境の三つの要素を統合的かつ科学的に理解し、教育研究の展開を追究するため、深い学術的教育・研究を行うことを理念とする。この理念に基づき、環境保健学研究科は、人が健やかで安全に暮らせる社会の構築に貢献できる能力を有する人及び高度専門職業人を育成することを目的とする。

1. アドミッション・ポリシー（求める学生像）

環境保健学研究科の理念・目的を達成するために、次のような資質を持つ人材を求めている。

- (1) 環境保健科学に関連する諸科学の基礎知識が備わっている人
- (2) 人に関わる健康・食・環境の研究領域に関する深い探求心を持つ人
- (3) 高度専門職業人としての意識も持ち、国内外問わず広い視野を持って社会的使命に柔軟に応えることができる人

2. カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

環境保健学研究科の教育理念・目的を実現するよう、環境保健科学に関する各専門分野において、健康、食、環境に関する専門科目並びに学際的科目により構成された特色ある講義、演習及び実験・実習を行い、より高度で深い専門知識を習得する。さらに、高度専門職業人として必要な研究能力及び豊かな学識が身に付けられるように適切に配置したカリキュラムを編成し、研究者及び専門性の高い技術者として、研究倫理、課題解決能力及び論理的思考力を理解させ、自立した研究活動を行えるよう指導する。

このほか、専門領域における研究者として国際的に活躍できる人材の育成を目的に、学術発表等を通じて国際感覚が備わるよう学内外の研究発表を積極的に推進するプログラムを実施する。

3. ディプロマ・ポリシー（修了時の到達目標）

環境保健学研究科の教育理念・目的に沿って設定した修士課程又は博士課程の修了要件を満たした者で、かつ、健康、食、環境分野に関する専門的知識及び学際的知識並びに研究能力及び技術をもって、関連分野の研究者及び教育者、又は高度専門職業人として社会に貢献できる能力を身に付け、所定の単位を修得し、修士又は博士の学位論文の審査及び最終審査に合格した者に対し、環境保健科学専攻博士後期課程にあっては博士（学術）、同博士前期課程にあっては修士（環境保健科学）の学位を、それぞれ授与する。

環境保健科学専攻の教育理念

環境保健学研究科の教育理念・目的に基づき、環境保健科学専攻では、高い倫理観を養うとともに、バイオサイエンスを取り入れた臨床検査技術学領域と生命科学領域及び環境科学領域における高度な専門知識と独創性の高い研究能力を培い、関連する分野で自立した研究者、指導者となる能力を養成することを目的とする。

●博士前期課程

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

博士前期課程では、国の内外を問わず、またこれまでの大学・学部での専攻学科にとらわれず高い基礎学力と、将来に対する明確な目標とそれぞれの各研究分野に対して強い興味を持った人物を求めている。

- (1) 環境保健科学に強い関心を持ち学習意欲に富んだ人
- (2) 社会人等でこれらの分野に関わる業務に就いている人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

- (1) 7つの専門分野のいずれかに所属し、必修科目として開講されている授業科目の講義、実験及び実習により、その専門分野の基礎となる幅広い知識を習得させる（22単位）。
- (2) 他の専門分野の講義を4単位及び共通科目として開設されている「科学英語」（ネイティブスピーカーが担当）及び「科学者・研究者論」を含め8単位を修得させる（合計30単位）。
- (3) 授業科目の修得を通じて、環境保健科学分野の幅広い基礎知識を習得させる。
- (4) 授業科目を2年間で修得するとともに、修士論文を完成させるために入学後、早期に1人の研究指導教員及び2人の副研究指導教員を決定し、3人の指導教員による総合的で綿密な指導を行う。

ディプロマ・ポリシー（修了時の到達目標）

- (1) 博士前期課程にあつては、高い倫理観を養うとともに、コメディカルな分野に新しいバイオテクノロジーを導入した臨床検査技術学と生命科学及び環境科学に関わる諸問題を解明する基礎的かつ応用的能力を身に付けて修了させる。
- (2) 高度な専門知識と技術を備えた有能な中堅研究者、技術者又は統括指導者を育てる。
- (3) 教育研究職等で活躍できる能力を持った人材を養成する。

● 環境保健科学専攻 専門分野と開講授業科目〈博士前期課程〉

専門分野	授業科目	単位	専門分野	授業科目	単位
精神機能学	精神機能学特論	2	病理学	病理学特論	2
	精神機能学特別演習Ⅰ	4		病理学特別演習Ⅰ	4
	精神機能学特別演習Ⅱ	2		病理学特別演習Ⅱ	2
	精神機能学特別実験Ⅰ	6		病理学特別実験Ⅰ	6
	精神機能学特別実験Ⅱ	8		病理学特別実験Ⅱ	8
生体機能学	生体機能学特論	2	生活環境科学	生活環境科学特論	2
	生体機能学特別演習Ⅰ	4		生活環境科学特別演習Ⅰ	4
	生体機能学特別演習Ⅱ	2		生活環境科学特別演習Ⅱ	2
	生体機能学特別実験Ⅰ	6		生活環境科学特別実験Ⅰ	6
	生体機能学特別実験Ⅱ	8		生活環境科学特別実験Ⅱ	8
生体防御学	生体防御学特論	2	食品健康科学	食品健康科学特論	2
	生体防御学特別演習Ⅰ	4		食品健康科学特別演習Ⅰ	4
	生体防御学特別演習Ⅱ	2		食品健康科学特別演習Ⅱ	2
	生体防御学特別実験Ⅰ	6		食品健康科学特別実験Ⅰ	6
	生体防御学特別実験Ⅱ	8		食品健康科学特別実験Ⅱ	8
微生物学	微生物学特論	2	環境保健社会科学	環境保健社会科学特論	2
	微生物学特別演習Ⅰ	4		環境保健社会科学特別演習Ⅰ	4
	微生物学特別演習Ⅱ	2		環境保健社会科学特別演習Ⅱ	2
	微生物学特別実験Ⅰ	6		環境保健社会科学特別実験Ⅰ	6
	微生物学特別実験Ⅱ	8		環境保健社会科学特別実験Ⅱ	8
備考			共通科目	◎科学英語	2
				◎科学者・研究者論	2
				※環境調査演習	2
				※質的調査演習	2
				※多変量解析演習	2

備考

◎印：全ての学生にとって必修科目となる。（4単位）

自己の所属する専門分野の科目は、すべて必修とする。（22単位）
それ以外に、選択科目として他の専門分野の特論科目及び獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程の特論科目（動物応用医科学特論は除く）から2科目以上を選択して、合計30単位以上を修得する。

※印：単位数を□で囲んだ科目は自由科目であり、専門社会調査士の資格を取得するためには、単位修得が必要な科目となる。（6単位）
ただし、修了要件には含まない。

環境保健科学専攻 博士前期課程

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	26
選択	4
計	30

※1 平成29年度入学者適用

※2 所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 修士（環境保健科学）

●博士後期課程

アドミッション・ポリシー（求める学生像）

博士後期課程では、7つの専門分野あるいは関連する研究分野で修士号を取得した者又は取得見込みの者を求めている。

- (1) 高度な研究者、技術者あるいは統括指導者として活躍したい人
- (2) 社会人等でこれら分野に関わる業務に就いている人

カリキュラム・ポリシー（教育の実施に関する基本的な方針）

- (1) 各専門分野及び環境保健科学分野の基礎となる幅広い知識を土台に、更に高度な専門的知識を習得させる。
- (2) 所属する専門分野の「特別演習」及び「特別実験」を3年間にわたって履修させる（合計12単位）。
- (3) 授業科目の修得を通じて、高度で専門的な博士（学術）にふさわしい学識を習得させる。
- (4) 授業科目を3年間で修得させるとともに、博士論文を完成させるために入学後、早期に1人の研究指導教員及び2人の副研究指導教員を決定し、3人の指導教員による総合的で綿密かつ高度な研究指導を行う。

ディプロマ・ポリシー（修了時の到達目標）

- (1) 博士後期課程にあっては、独創性の高い研究能力を培い、関連する分野で自立した研究者、技術者又は統括指導者になる能力を身に付けて修了させる。
- (2) 自立した研究者、技術者又は指導者として活躍できる人材を養成する。

●環境保健科学専攻 専門分野と開講授業科目〈博士後期課程〉

専門分野	授業科目	単位	専門分野	授業科目	単位
精神機能学	精神機能学特別演習Ⅰ	2	病理学	病理学特別演習Ⅰ	2
	精神機能学特別演習Ⅱ	2		病理学特別演習Ⅱ	2
	精神機能学特別実験Ⅰ	4		病理学特別実験Ⅰ	4
	精神機能学特別実験Ⅱ	2		病理学特別実験Ⅱ	2
	精神機能学特別実験Ⅲ	2		病理学特別実験Ⅲ	2
生体機能学	生体機能学特別演習Ⅰ	2	生活環境科学	生活環境科学特別演習Ⅰ	2
	生体機能学特別演習Ⅱ	2		生活環境科学特別演習Ⅱ	2
	生体機能学特別実験Ⅰ	4		生活環境科学特別実験Ⅰ	4
	生体機能学特別実験Ⅱ	2		生活環境科学特別実験Ⅱ	2
	生体機能学特別実験Ⅲ	2		生活環境科学特別実験Ⅲ	2
生体防御学	生体防御学特別演習Ⅰ	2	食品健康科学	食品健康科学特別演習Ⅰ	2
	生体防御学特別演習Ⅱ	2		食品健康科学特別演習Ⅱ	2
	生体防御学特別実験Ⅰ	4		食品健康科学特別実験Ⅰ	4
	生体防御学特別実験Ⅱ	2		食品健康科学特別実験Ⅱ	2
	生体防御学特別実験Ⅲ	2		食品健康科学特別実験Ⅲ	2
微生物学	微生物学特別演習Ⅰ	2			
	微生物学特別演習Ⅱ	2			
	微生物学特別実験Ⅰ	4			
	微生物学特別実験Ⅱ	2			
	微生物学特別実験Ⅲ	2			

備考

上に掲げた授業科目のうち、自己の所属する専門分野の科目は、全て必修（12単位）とする。

環境保健科学専攻 博士後期課程

卒業要件（必要単位修得数）	
区分	単位数
必修	12
計	12

※1 平成29年度入学者適用

※2 所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格した者に学位を授与する。

取得可能学位 博士（学術）

5) 附置生物科学総合研究所

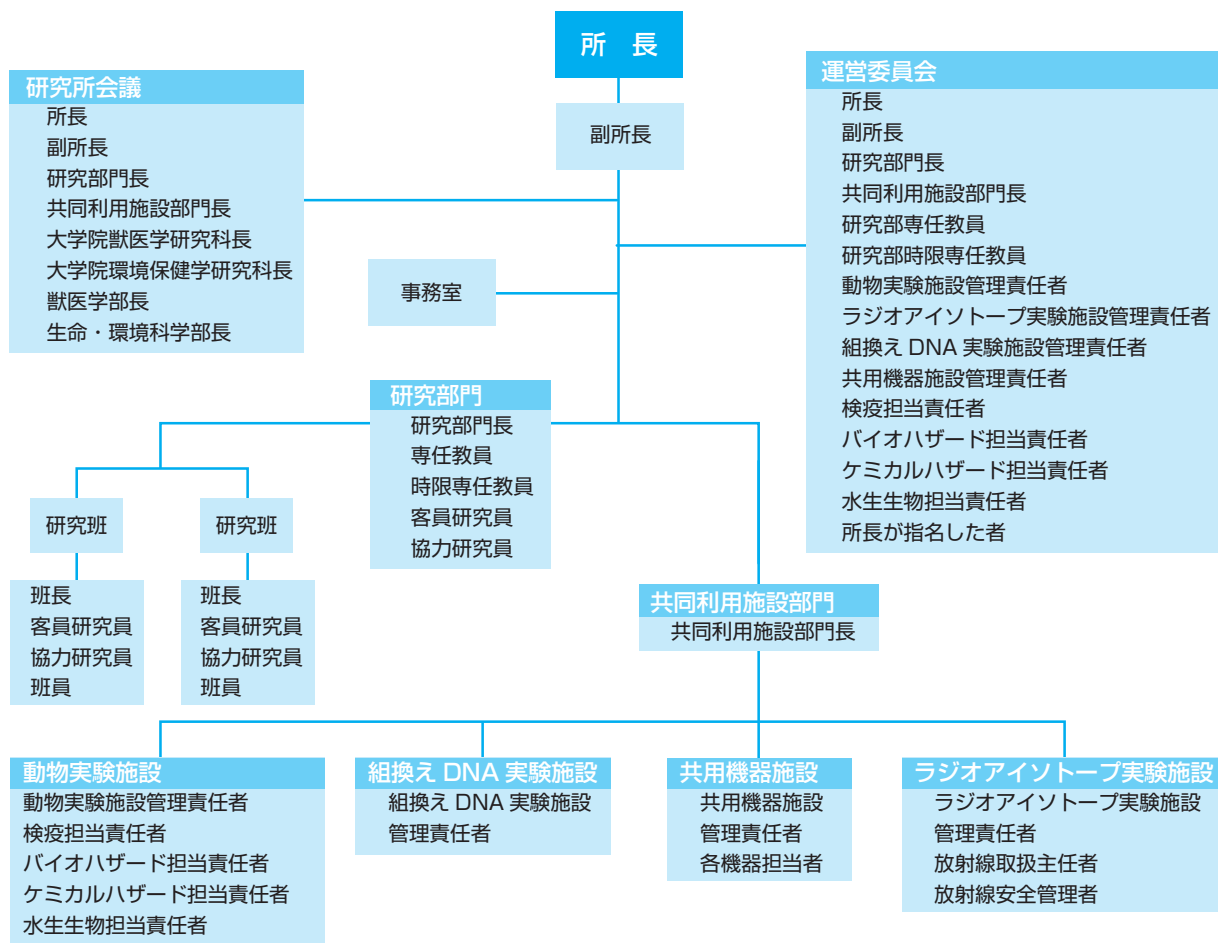
生物科学総合研究所は、「生物科学とその関連学術分野における総合的な研究機能を果たすとともに、これら領域の教育研究基盤の充実を図り、併せて国内外における学術交流の発展に寄与すること」を目的として1988（昭和63）年に設立された大学附置研究所である。

研究所は、1997（平成9）年に文部省（現文部科学省）「ハイク・リサーチ・センター」の選定を受け、環境汚染物質として問題となっているダイオキシン関連物質のうち、特にその汚染が地球規模で起こっており、しかも、生体影響の大きいコプラナー PCBs について5年間の時限研究プロジェクトを組み、研究成果に対して高評価を受けている。本プロジェクトは2001（平成13）年度で終了したが、さらに2002（平成14）年度からの研究継続のための助成（ハイク・リサーチ・センター）を受け、2006（平成18）年度に終了した。

研究所は、3階建、延べ床面積約3,500平方メートルの建物で、研究部門及び共同利用施設部門から構成されている。研究部門は、研究所独自の3年の時限研究プロジェクトを遂行しており、共同利用施設部門は、動物実験施設、化学物質毒性実験施設、感染症実験施設、組換えDNA実験施設、ラジオアイソトープ実験施設及び共用機器施設を設けている。これらの各施設を使用したトキシコロジー（毒性）研究、代謝研究、遺伝子研究、生理機能研究、感染症研究及び、水生生物の研究を含む研究体制が整備されている。

また、本学における研究の中核は、全館 HEPA フィルター使用の清浄空気環境下に加えて、目的にあったクリーンラックやアイソレーターを各飼育室ごとに整備した中・小動物実験飼育施設を完備し、研究所は、その機能を果たしている。例えば、SPF 動物・トランスジェニック動物用のバリアシステムや感染実験動物飼育室の陰圧ドラフトシステムなどを導入している。さらに、所内の動物飼育エリアの温度、湿度はコンピューター制御されており、いずれの実験飼育室も、各種動物の飼育条件に対応できるように設計され、最適環境条件下で科学的かつ倫理的監視のもとに研究が行われている。

〈生物科学総合研究所組織図〉



(1) 研究部門

研究部門では研究所専任教員及び両学部兼任教員によって構成される研究所研究プロジェクトが遂行されている。

各プロジェクトは、各々公的研究補助金等を確保し、これを基盤研究費としており、研究所内の機器、設備を優先的に使用することができるが、学内での研究成果の公表や関連ワークショップ講演会／シンポジウム開催を積極的に行うことになっている。

また、平成 29 年度研究所研究プロジェクトは、次のとおりである。

プロジェクト番号	代 表 者	研 究 テ ー マ
P15-01	菊水 健史	社会緩衝作用における下垂体ホルモンの作用
P15-02	菊水 健史	早期離乳ストレスによる行動神経への影響の解析
P15-03	菊水 健史	マウスにおける社会認知機構の解析
P15-04	菊水 健史	腸内細菌移植による中枢ならびに行動分泌機能の伝播の解析
P15-05	菊水 健史	マウスにおける情動伝染の分子調節機構の解明
P16-01	曾川 一幸	ラットのアルコール性肝障害モデルにおけるいわゆる休肝日の効果の検討
P16-02	代田眞理子	ラットの系統特性を活かした生殖発生毒性評価に関する研究
P16-03	田中 和明	EL 系統由来けいれん発作感受性 QTL を導入したコンジェニック系統の形質解析 (II)
P16-04	山下 匡	生体における糖脂質・糖鎖機能に関する研究
P17-01	伊藤 潤哉	疾患モデルおよび遺伝子改変動物個体・細胞を用いた授精・発生メカニズムの解明に関する研究
P17-02	戸張 靖子	鳥類の抱卵行動における 26RFe ペプチドホルモンの関与

(2) 共同利用施設部門

1) 動物実験施設

本研究所は、実験動物を飼育する施設であり、所内には、齧歯類を中心とした小動物と、イヌ・ネコを中心とした中動物を飼育する施設を有している。飼育施設は、SPF 動物実験施設、Clean 動物実験施設、Conventional 動物飼育施設がある。

また、感染実験施設、化学物質毒性実験施設、ラジオアイソトープ実験施設がある。

なお、動物実験施設は、バイオハザード及びケミカルハザード担当者を配置し、細心の注意が払われている。

検疫施設	研究所に導入する動物を検疫する施設である。生物科学総合研究所にて動物を飼育する場合、「外部から病気を持ち込まない」という防疫目的のために、動物の微生物学的なグレードが SPF レベル未満の場合には、導入動物を検疫施設にて検収することになっている。
------	---

水生生物飼育施設	研究所において、水生動植物（魚貝類及び両生類など）を飼育する施設である。水生生物飼育施設は、恒温室となっており低温飼育室（13℃）と常温飼育室（23℃）がある。
----------	--

2) 化学物質毒性実験施設

本施設は、化学物質を用いた実験が実施できる施設であり、通常飼育室（3 階に 3 室）、それぞれ目的に合わせて切り替え可能な陰陽圧兼用動物飼育ラックが設備されており、さらに分析機器室には、電子スピン共鳴装置（ESR JES-TE300）を設備している。

本施設では、内分泌攪乱化学物質や発癌性物質をはじめとする多くの化学物質の人や動物に及ぼす影響並びに環境に及ぼす影響についての研究が進められている。

3) 感染実験施設

感染実験を目的とした動物の飼育施設（3階に16室）及び実験室（3階に1室）と洗浄室を設備している。

また、各種実験動物を用いて病原体（ウイルス、細菌、寄生虫等）の感染実験を行い、それらの病原体、発症機序、感染動態、診断、治療法の研究開発を進めている。

本施設では、病原体の実験施設からの漏出及び屋外からの侵入を遮断するため、すべての器具器材は滅菌処理をしている。

4) 組換え DNA 実験施設

本施設は、P1、P2 バイオハザードレベルの実験に対応した3部屋から構成されており、本学の遺伝子研究を支援するための実験施設である。

本施設は、遺伝子構造、分子獣医学、遺伝子科学に関連する組換え DNA 技術を含めた遺伝子工学の分析と発展を目的としている。

5) ラジオアイソトープ実験施設

本施設では、各種トレーサー実験、ラジオイムノアッセイ法によるホルモンなどの生理活性物質定量、組換え体を用いた機能活性の評価、ウイルスの分離と性状解析等が行われている。

本施設内の主設備として RI を用いる代謝実験室のほか、P1、P2 の遺伝子組換え実験が実施可能な組換え DNA 実験施設、動物飼育室、RI 測定室等を有し、主な機器として液体シンチレーションカウンター、 γ -カウンター、安全キャビネットなどがある。本施設は法律及び規則に基づいた正しい放射性同位元素の使用と厳密な管理の上に機能運営されている。

6) 附属学術情報センター

学術情報センターは、図書館と情報システムに関する機能を持つ組織で、学生や教職員の教育研究に必要な図書及び学術資料並びに情報関連機器及びネットワークを総合的に管理運営する機関である。図書館、メディアステーション及びコンピュータ教室の3つの施設で構成される。

図書館は、本学のほぼ中央に位置する3階建ての建物で、1階はエントランスホール、貸出・返却等窓口、共同閲覧室及び事務室などがあり、2、3階に開架式書架、閲覧室及び複写室を備えており、貸借、閲覧、コピーなど自由に利用できる利用者のための開架式図書館としている。教養図書、学術図書、専門図書、関連科目図書、雑誌等、多種多様の資料を数多く備え、学生の勉学や教職員の研究の推進に必要な学術情報源としての機能を備えている。

メディアステーションは、図書館に隣接する9号館の1階にあり、図書館とは連絡通路で連結されている。メディアステーションは、インターネット接続・学内ネットワーク（AUnet）の管理運営の中核機能を果たしており、本学の教育研究に必要な電子情報の利用及び情報の電子化の場となっている。

コンピュータ教室は、9号館1階に2教室、8号館6階に1教室の計3教室あり、授業で使用しない時間は、9号館の9101教室及び8号館の8602教室を、「オープンルーム」として学生に開放している。

(1) 図書、資料の所蔵数及び図書受入れ状況

(平成29年3月31日現在)

所蔵区分	図書の冊数(冊)		定期刊行物の種類(種類)		視聴覚資料の所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類(種類)	過去5年間の図書受入れ状況				
	図書の冊数	開架図書の冊数(内数)	国内書	外国書			平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
附属学術情報センター	109,850	86,383	3,458	1,298	2,418	7,852	2,557	2,017	1,800	1,923	1,678
研究室所蔵分	16,102	-	-	-	619	-	460	467	633	398	485
計	125,952	86,383	3,458	1,298	3,037	7,852	3,017	2,484	2,433	2,321	2,163

[注] 1 附属学術情報センターの図書の冊数には、電子ブックを含む。

2 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含む。

3 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載

(2) 製本雑誌の所蔵数及び受入れ状況

(平成29年3月31日現在)

所蔵区分	製本雑誌の冊数(冊)		過去5年間の製本雑誌受け入れ状況				
	冊数	開架冊数(内数)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
附属学術情報センター	59,201	54,222	484	527	793	508	598

[注] 1 雑誌を製本したものである。図書の冊数とは別に算出している。

(3) 平成28年度図書館利用サービス

館外貸出		文献複写		図書貸借		レファレンスサービス 受付件数
貸出者数	貸出冊数	受付件数	依頼件数	貸出件数	借受件数	
11,305	26,359	1,932	687	22	29	1,067

(※文献複写、図書貸借件数は、キャンセルを除く)

(4) PC端末台数

	8号館	9号館	メディアステーション	図書館	計
PC端末台数	97	170	65	4	336

(5) 平成28年度利用状況

区分	入館者数	開館日数	休館日数	開館時間	授業のある期間(注1)	授業のない期間(注2)
図書館	74,968	266	99	月～金曜日	8時30分～21時	9時～17時
メディアステーション	90,972	269	96	土曜日	9時～17時	休館
オープンルーム	5,631	151	214			

[注] 1 授業のある期間等 4/7～8/4、9/26～12/22、1/10～2/10

2 授業のない期間 4/1～4/6、8/5～9/25、12/23～1/9、2/11～3/31

(ただし、オープンルームの教室の開館時間は異なる。)

7) 附属動物管理センター

本学は、都市化された地域に位置しており、教育や研究のために多くの動物を飼育していることから、学内飼育動物の適正な飼養管理及び飼育動物から人への危害防止並びに環境の汚染（騒音・悪臭・汚水）防止等に対応することを目的とし、平成9年7月に附属動物管理センターを発足した。附属動物管理センターの具体的な業務としては、(1) 各動物飼育施設の保守・点検・修繕等の施設維持管理、(2) 教育用動物の衛生管理、飼養管理及び搬入・搬出管理、(3) 動物福祉及び動物愛護に関する講演会の開催などである。

小動物飼育施設（771.4㎡）		小動物舎（280.5㎡）		豚舎施設（492.8㎡）		牛舎施設（728.7㎡）		家畜尿污水 処理施設	処理能力 5 トン / 日
飼育室	10 室	飼育室	7 室	交配妊娠豚房	1 室（17 分房）	成牛繁留所	1 室（12 頭分）	家畜ふん乾燥発 酵処理施設	生産力 0.5 トン / 日
検疫室	2 室	処置・洗浄室	1 室	分娩豚房	1 室（7 分房）	育成繁留所	1 室（12 頭分）		
観察室	1 室	動物運動場	1 か所	離乳豚房	1 室（8 分房）	羊繁留所	1 室（20 頭分）		
検査室	1 室	その他	2 室	肥育豚房	1 室（8 分房）	隔離舎	1 室（3 頭分）	土壌脱臭施設	処理能力 72.0㎡ / 分
処置・洗浄室	1 室			豚洗浄室	1 室	飼料庫	2 室		
共同実験室	1 室			AI 室	1 室	倉庫	1 室		
その他	5 室			精液処理室	1 室			動物飼育エリア 用更衣室棟	48.0㎡ 4 室
				その他	5 室				

8) 附属動物病院（家畜病院）

沿革：学園の創立以来、動物病院は獣医学科の中心的存在で、昭和46年8月に完成した5号館の1階部分にあったが、平成11年秋に、更なる発展を目指して小動物診療部門と検査部門が新しい獣医臨床センターに移転した。この動物病院の「獣医教育病院」としての位置づけは、設置者の学校法人麻布獣医学園でも再確認しており、平成12年度からは新たな運営方式が試みられた。更に平成19年度からは獣医学部附属から大学附属となり、教育・診療システムの抜本的な改革に取り組んでいる。また、平成20年10月には病気の早期発見を目的とした「検診センター」を診療科として設置した。

一方、産業動物診療部門は5号館において診療を続けていたが、平成26年夏の産業動物臨床教育センター（LAVEC）の竣工に伴い移転した。

活動：日常診療を通して教育・研究・サービスの3つの柱に基づく活動が行われている。新しい獣医学教育カリキュラムの中では、この動物病院の症例を中心とする臨床教育が実施されている。在学生の教育に加え、卒業生等を研修獣医師として受け入れて診療研修を行うほか、臨床の現場で活躍する獣医師のための卒後教育や生涯学習の場を提供している。直接診療に関わる8つの臨床系研究室の教員に検査を目的とした基礎系研究室の教員が加わり、獣医診療の高度化に向けての研究も多方面にわたって展開されている。更に、この動物病院は臨床獣医師や動物の飼育管理者に対する麻布大学獣医学部としての重要なサービス窓口になっている。

平成28年度 動物別症例件数

	馬	牛	豚	緬山羊	ヤギ	犬	猫	その他	合計
全般	765	1,854	64	18	40	11,085	2,147	27	16,000
学用（全般内数）	336	1,519	63	15	0	338	96	2	2,369

9) 附属教育推進センター

大学を取り巻く社会状況の変化や入学試験の多様化に伴い、本学の学生についても、高等学校で履修した科目の理解と定着が不十分である等の理由のため、学部教育に困難を来す例が見受けられる。また、このような変化に対する大学としての対応も十分なものではなかった。

このような状況で生じる諸問題に対して、本学では、2007年4月に教育推進センターを発足させ、特に初年次の学生が学士課程教育にスムーズに移行できるように、また高等学校で履修した科目の理解と定着が不十分な学生に対するリメディアル（補習）教育を提供するとともに、学生一人一人に対する学習支援機能を強化してきた。また、学生による授業評価等の各種調査等を実施し、さらに全学的なFD活動の実施及び各学部・大学院の実施するFD活動の支援を通じて、全学の教育改善に関する事項を統括することになった。

教育推進センターの役割

教育推進センター（長）

(1) リメディアル教育部門

生物、化学、物理、数学、英語等について、リメディアル教育を行う。リメディアル教育には、講義形式の補習授業（「リメディアル（補習）授業」）と、「チューター（補助教員）による個人指導」があり、さらに、リメディアル（補習）授業の中には、全学対象型と学科特化型がある。リメディアル教育は、必要とする本学の全ての学生を対象とする。本学を卒業するための単位にはならない。

(2) 学習支援部門

個々の学生が学習を進める上で生じる様々な問題、例えば、履修や学習計画などの相談に対応する。8号館1階の教育推進センター内に、専任の職員が常駐して相談に応じる。また、必要に応じて、学生の所属するクラス担任や学科の担当教員とも連携して対応する。

教育推進センター 利用状況（平成28年4月～平成29年3月）

【リメディアル（補習）授業】

生物、化学、数学、英語について、リメディアル（補習）授業及び入学前準備教育プログラムを行っている。
出席者数は、延べ1,571人。

〈〔全学対象型〕リメディアル（補習）授業〉

開講回数については、次のとおりである。

生物（12回）、化学（12回）、数学（12回）、英語（12回）

〈推薦入試等合格者対象入学前準備教育プログラム〉

生物（10コマ）、化学（10コマ）、数学（10コマ）、英語（10コマ）

【チューター（補助教員）による個別指導】

生物、化学、物理、数学、英語について、教育推進センター内でチューター（補助教員）による個別指導を行っている。
利用者数は、延べ3,145人。

【履修相談】

履修方法や学習計画、資格取得や教育に関する様々な問題に対して、センター内で履修相談を行っている。

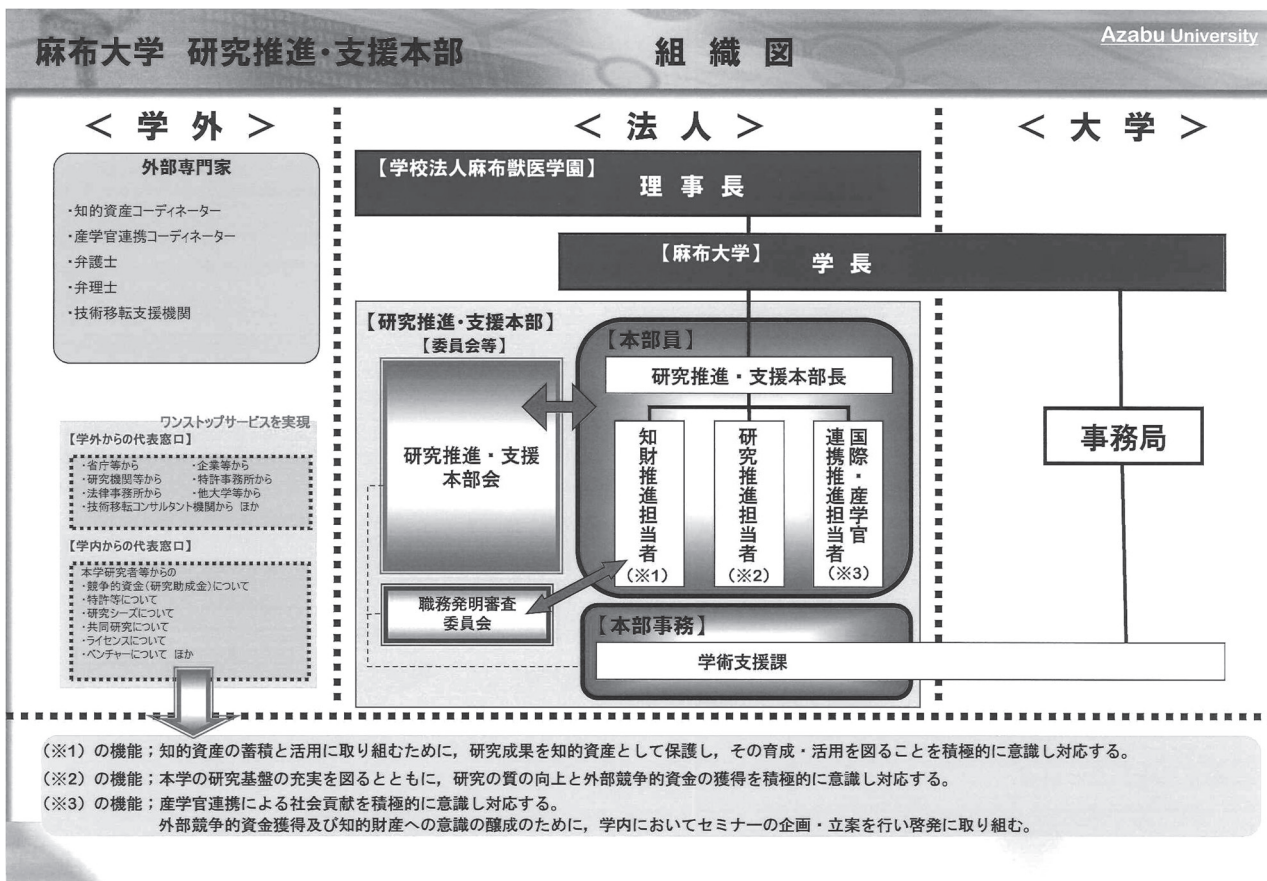
10) 研究推進・支援本部

本学では、平成 20 年度に、研究及び社会貢献を推進する本格的な組織として研究推進・支援本部が設置され、知的資産に関して大学内外の一元化した窓口として活動している。

本部は、本学独自（本学発）の特徴的で個性的な研究の発掘と顕在化、知的財産活動の強化、産学官連携活動の推進、知財に対する意識啓発と普及を中心に本学に適した戦略を練りながら、研究の推進・支援を行い、本学の知的資産における活動の活性化や充実化を図っている。

具体的には、競争的原理を取り入れた学内資金の活用、外部大型競争的資金獲得のための学内研究助成事業の実施、本学発先導的研究プロジェクトへの支援、外部資金獲得のためのセミナー開催、産学官連携の各種大型イベントへの出展、研究マップ、シーズ集などを利用した産学官への PR、学生を対象とした起業家セミナーの開催などに取り組んでいる。また、昨今世間を騒がせている研究活動上の不正行為については、防止のための倫理教育として全教員、全大学院学生（前・後期課程含む）、公的研究費を取り扱う事務職員に対して、CITI Japan（平成 29 年度からは APRIN）e ラーニングプログラムの受講を要請し、誓約書の提出を求めている。

なお、本部の体制は次のとおりである。



【問い合わせ先】

麻布大学 研究推進・支援本部

Tel : 042-754-7111（内線 2438、2411）

Fax : 042-850-2511

<https://www.azabu-u.ac.jp/cooperation/>

メール：research@azabu-u.ac.jp

<http://sgk.azabu-u.ac.jp/>

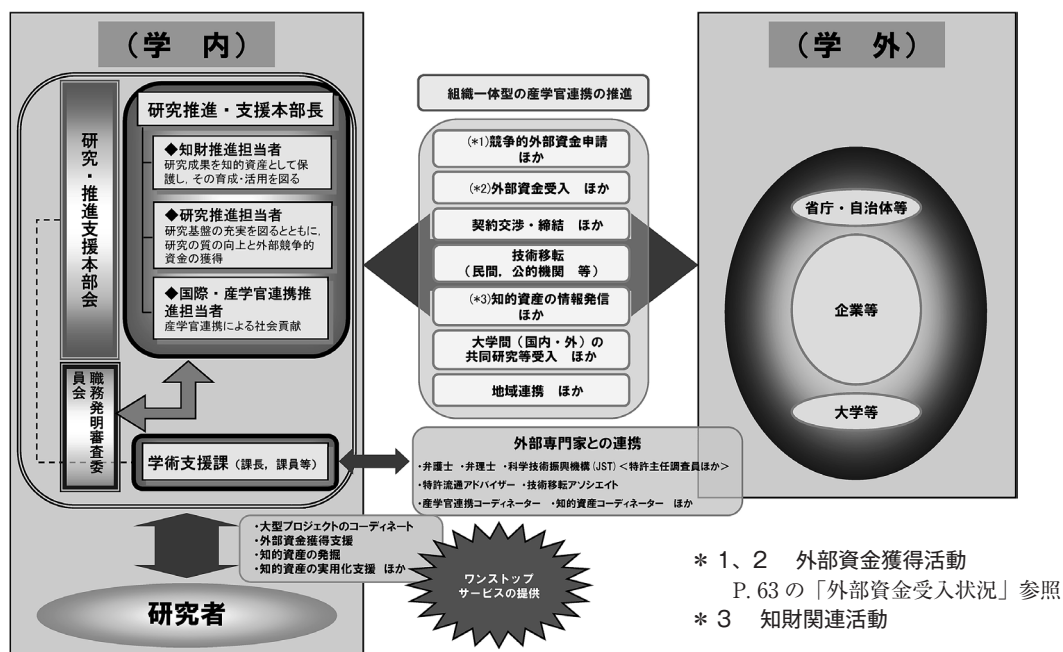
研究マップ

本部の役割

本学の特徴である「ヒト」、「動物」、「生物を取り巻く環境」の関連分野における知的資産を一元管理し、学内での共同研究の企画や効率的な推進、研究シーズの創出、自治体や企業など国際・産学官連携活動の強化、特許出願手続き・維持管理、補助金申請支援等を行う。これにより、本学の知的資産の活用に関する学内外からの窓口の一本化を図り、「ワンストップサービスの提供」を目指す。以下に、「役割と機能」の一覧及び概略図を示す。

●役割と機能

①事業計画と活動方針の策定と推進	④知的資産の蓄積及び活用と産学官連携に基づく社会貢献の推進
・研究推進・支援本部の目的と運営に関する点検及び評価	・知的資産創出のための支援に関する方針の策定と推進
②研究の質の向上の推進	・知的資産の権利化、維持及び管理に関する方針の策定と推進
・学内助成金の採択基準及び配分に関する方針の策定と推進	・知的資産の社会での活用促進に関する方針の策定と推進
・先導的研究活動を活用した横断的研究プロジェクトの立ち上げに関する方針の策定と推進	・知的資産に対する啓発活動に関する方針の策定と推進
③外部資金等獲得の推進	・知的資産の創出、管理及び活用のための関係規則の策定
・大学として取り組む必要がある公募プログラムに関する方針の策定と推進	
・競争的資金獲得の奨励に関する方針の策定と推進	
・外部資金獲得のための方針の策定と推進	



●職務発明に係る特許等の出願状況

	平成 28 年度	平成 27 年度～平成 14 年度	合 計
国内出願件数	8	60	68
外国出願件数	4	48	52
審査請求件数	7	29	36
国内特許登録件数	3	8	11
海外特許登録件数	1	3	4
商標登録件数	0	6	6
技術移転（ライセンス、譲渡等）件数	2	22	24

11) 麻布大学いのちの博物館

本学は平成 27 年（2015 年）に創立 125 周年を迎え、それを記念して同年 9 月 15 日に麻布大学いのちの博物館が開館した。

麻布大学いのちの博物館では、先人が残された貴重な遺産を継承するとともに、①研究内容、②動物標本、③歴史資料を広く社会に紹介している。

平成 28 年度開館日数及び入館者数

月	開館日数	入館者総数 (人)	うち土曜日 入館者数 (人)	1 日平均入館 者数 (人) ※	イベント
4 月	21	467	104	22.2	—
5 月	18	234	79	13.0	—
6 月	23	682	151	14.0	6/5 (日) ミニオープンキャンパス 361 人
7 月	22	277	55	10.0	7/26 (水) ~ 28 (金) 夏休み子ども教室 56 人
8 月	16	1,425	522	21.4	8/6 (土) ~ 7 (日) オープンキャンパス 1,083 人
9 月	22	384	27	15.9	9/4 (日) 分子生物学研究室 35 周年 35 人
10 月	23	1,838	710	14.0	10/22 (土) 大学祭 638 人
					10/23 (日) 臨時開館 大学祭 697 人
					10/30 (日) ミニオープンキャンパス 182 人
11 月	22	509	204	23.0	11/3 (火) 臨時開館 文化の日 2 人
12 月	19	214	52	11.3	—
1 月	15	141	32	9.4	—
2 月	21	247	109	11.8	—
3 月	24	606	88	12.8	3/26 (日) 臨時開館 ミニ・オープ ンキャンパス 298 人
合計	246	7,024	2,133	14.9	

※：1 日平均入館者数は、備考欄に記載したイベントを除く。

12) 健康管理センター

本学は、学校保健安全法及び労働安全衛生法に基づき学生及び教職員の健康診断、健康相談、応急処置、健康診断証明書発行、献血への協力等を行うため、8 号館 1 階に設置し、学生及び教職員を対象に、健康診断、健康相談、応急処置等を通して、健康管理センターを中心に健康の維持増進のための支援を行っている。

●健康管理センター利用状況

年 度	学生利用件数	教職員利用件数
平成 28 年度	1,097 件	434 件
平成 27 年度	1,108 件	336 件
平成 26 年度	903 件	303 件

13) 附属高等学校

本校は、昭和36年に麻布獣医学園創立70周年記念事業の一つとして現在地に創立され、平成22年に50周年を迎え、平成23年10月に、創立50周年記念事業式典を行った。その歴史の中で、平成28年度までに1万3千人を超える卒業生を社会へ送り出している。

■ 校則

誠実・協調・博愛・奉仕

■ 教育理念

夢を語り、学問を追究・実線し、誠実なる校風の基、平和社会の建設に貢献する。

■ 教育方針

「未来を拓く力の育成」

高校の3年間は、人生の中でも最も多感で、社会人として必要な人格形成に重要な意味をもつ期間と捉え、生徒は、誠実な校風のもと、学業、部活等とともに仲間と学びあうことを通じて、「自己を知り、自らを磨く」ことにより、「自身の未来を拓く力（自らの進路をみつめ、学力の向上、人格的素養を磨く）」を育む。

■ 学校教育の目標

- ・個性を伸ばし、生徒一人ひとりの進路に応じた確かな学力の定着（学力）
- ・基本的な生活習慣（あいさつ・時間厳守・マナーやルールの尊重）を育み、国際化の社会に対応できる能力（情報発信力、コミュニケーション力・プレゼンテーション力等を総合的に備えた能力など）の育成（生きる力）
- ・自ら課題をみつけ、自ら考え解決をめざす能力の養成（生きる力）
- ・多様な価値観を認め合い、他者を思いやる心の育成（命の大切さ）
- ・あらゆる生命や自然環境を尊重する精神の涵養（命の大切さ）

■ カリキュラム

麻布大学附属高等学校において、教育方針である「未来を開く力の育成」を基にカリキュラムを編成している。

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学 部 等	学 科 等	研究室名	職 位	氏 名	学 位	所 属 系
獣医学部	獣医学科	解剖学第一	准教授 講 師	☆□市原 伸恒 大石 元治	博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(基礎獣医学系) (〃)
		解剖学第二	准教授 助 教	★□坂上 元栄 小澤 秋沙	博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(〃) (〃)
		生理学第一	准教授 講 師	□西田 利穂 松井 久実	獣医学博士 博士 (理学)	(〃) (〃)
		生理学第二	教 授 講 師	●□折戸 謙介 井上 真紀	博士 (医学) Ph.D.	(〃) (〃)
		生化学	教 授 助 教	◎□山下 匡 永根 大幹	博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(〃) (〃)
		分子生物学	教 授	□村上 賢	博士 (理学)	(〃)
		薬理学	教 授 准教授	□浅井 史敏 白井 明志	農学博士 獣医学博士	(病態獣医学系) (〃)
		病理学	教 授 准教授	☆□代田 欣二 宇根 有美 上家 潤一	農学博士 博士 (獣医学) 博士 (医学)	(〃) (〃) (〃)
		獣医免疫学	准教授 講 師	□池田 輝雄 岡本まり子	獣医学博士 博士 (理学)	(〃) (〃)
		微生物学第一	教 授 講 師	□阪口 雅弘 内山 淳平	農学博士 博士 (医学)	(〃) (〃)
		微生物学第二	教 授 助 教	★□田原口智士 藤野 寛	博士 (獣医学) 博士 (医学)	(〃) (〃)
		寄生虫学	教 授 准教授	□黄 鴻堅 平 健介	獣医学博士 Ph.D.	(〃) (〃)
		産業動物内科学	教 授 講 師 講 師	★□恩田 賢 新井佐知子 佐藤礼一郎	博士 (獣医学) 博士 (農学) 博士 (獣医学)	(生産獣医学系) (〃) (〃)
		小動物内科学	准教授 助 教	☆□久末 正晴 根尾 櫻子	博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(臨床獣医学系) (〃)
		外科学第一	教 授 講 師	□藤井 洋子 青木 卓磨	博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(臨床獣医学系) (〃)
		外科学第二	准教授 講 師 講 師	★□齋藤弥代子 藤田 幸弘 石原 章和	博士 (獣医学) 博士 (獣医学) Ph.D.	(〃) (〃) (生産獣医学系)
		獣医放射線学	教 授 講 師 助 教	□山田 一孝 茅沼 秀樹 金井 詠一	博士 (獣医学) 博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(臨床獣医学系) (〃) (〃)
		衛生学第一	准教授 講 師	□河合 一洋 篠塚 康典	博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(生産獣医学系) (〃)
		衛生学第二	教 授 助 教	□塚本 健司 村上 裕信	博士 (農学) 博士 (獣医学)	(〃) (〃)
		伝染病学	准教授	☆□須永 藤子	博士 (獣医学)	(〃)
		栄養学	教 授 准教授	□勝俣 昌也 鈴木 武人	博士 (農学) 博士 (学術)	(〃) (〃)
		臨床繁殖学	教 授 講 師	□金子 一幸 野口 倫子	博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(〃) (〃)
		公衆衛生学第一	教 授 講 師	☆□高木 敬彦 ★杉田 和俊	獣医学博士 博士 (理学)	(環境獣医学系) (〃)
		公衆衛生学第二	准教授 講 師	□加藤 行男 岡谷友三アレシヤンドレ	博士 (獣医学) 博士 (獣医学)	(〃) (〃)
		実験動物学	教 授 講 師	★□猪股 智夫 塚本 篤士	獣医学博士 博士 (獣医学)	(〃) (〃)
		その他	准教授	並河 和彦	博士 (獣医学)	(臨床獣医学系)
	動物応用科学科	動物資源育種学	教 授 講 師	☆□神作 宜男 戸張 靖子	博士 (農学) 博士 (理学)	
		動物繁殖学	教 授 准教授	□柏崎 直巳 ☆伊藤 潤哉	博士 (農学) 博士 (農学)	
		動物工学	教 授 准教授	□滝沢 達也 田中 和明	獣医学博士 博士 (農学)	
		動物行動管理学	教 授 教 授	□田中 智夫 植竹 勝治	農学博士 博士 (農学)	
		野生動物学	准教授 准教授	☆□南 正人 塚田 英晴	博士 (理学) 博士 (行動科学)	
		介在動物学	教授 (兼) 講 師 講 師	●□大木 茂 大谷 伸代 永澤 美保	博士 (農学) 博士 (獣医学) 博士 (学術)	
		伴侶動物学	教 授 准教授 特任助教 特任助手	□菊水 健史 茂木 一孝 野元 謙作 大山 瑠泉	博士 (獣医学) 博士 (獣医学) 博士 (医学) 学士 (動物応用科学)	
		比較毒性学	教 授 准教授	□代田眞理子 和久井 信	博士 (農学) 獣医学博士 博士 (医学)	
		食品科学	教 授 講 師	□坂田 亮一 竹田 志郎	農学博士 博士 (農学)	
		動物資源経済学	教 授	●□大木 茂	博士 (農学)	
	基礎教育系		教 授 准教授 准教授	□佐原 弘益 ★石井 康夫 ☆委文光太郎	博士 (医学) 文学修士 修士 (イギリス文学) M.A.	(基礎教育系) (〃) (〃)
			講 師 講 師 講 師	荻原 利彦 紙透 伸治 廣田 祐士	医学博士 博士 (理学) 博士 (理学)	(〃) (〃) (〃)

凡例……○学部長 ●学科学長 △副学科学長 ☆系主任 ★系副主任 □研究室担当

学 部 等	学 科 等	研究室名	職 位	氏 名	学 位	所 属 系
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	生理学	教 授 准教授	●□岩橋 和彦 △古原 英児	医学博士 博士（学術）	
		生化学	教授（兼） 准教授 講 師	◎□古畑 勝則 村山 洋 曾川 一幸	博士（獣医学） 獣医学博士 博士（医学）	
		免疫学	教 授 准教授	□宮武昌一郎 栗林 尚志	医学博士 博士（学術）	
		衛生学	教 授 講 師	□高木 邦明 角野 洋一	医学博士 農学士	
		病理学	教 授 准教授	□島田 章則 荻原喜久美	博士（獣医学） 博士（獣医学）	
		微生物学	教 授 講 師	◎□古畑 勝則 石崎 直人	博士（獣医学） 博士（学術）	
		血液学	教授（兼） 准教授	□宮武昌一郎 本田 晃子	医学博士 博士（医学）	
		総合検査学	教授（兼） 講 師	●□岩橋 和彦 高田香世子	医学博士 修士（学術）	
	食品生命科学科	食品衛生学	教授（兼） 講 師	◎□古畑 勝則 大仲 賢二	博士（獣医学） 博士（学術）	
		食品安全科学	教 授 講 師	□小西 良子 小林 直樹	農学博士 博士（理学）	
		食品栄養学	教 授	□守口 徹	博士（薬学）	
		食品生理学	教 授 准教授	●□武田 守 島津 徳人	医学博士 博士（歯学）	
		食品分析化学	教 授 助 教	△□良永 裕子 北岡 千佳	農学博士 博士（学術）	
		公衆栄養学	教 授 助 教	□石原 淳子 山本 純平	博士（医学） 博士（食品栄養学）	
	環境科学科	環境分析学	教 授 講 師	△□伊藤 彰英 中野 和彦	博士（工学） 博士（工学）	
		水環境学	教 授 准教授	●□稲葉 一穂 大河内由美子	理学博士 博士（工学）	
		環境遺伝子工学	教授（兼） 講 師	●□稲葉 一穂 久松 伸	理学博士 学術修士	
		環境衛生学	教 授 准教授	□遠藤 治 関本 征史	獣医学博士 博士（薬学）	
		環境生物学	准教授	□川上 泰	博士（医学）	
		細胞生物学	教授（兼） 講 師	●□稲葉 一穂 秋山 孝洋	理学博士 博士（理学）	
		地域社会	教授（兼） 准教授 講 師	●□稲葉 一穂 大倉 健宏 村山 史世	理学博士 博士（社会学） 法学修士 M.L.A.	
		環境経済学	教 授	□ Patrick Q. Collins	Ph.D.	
	国際コミュニケーション		教授（兼） 講 師 講 師	●□稲葉 一穂 原田 公 Jonathan Lynch	理学博士 文学修士 M.A.	
	教職課程研究室		教 授 講 師	□小玉 敏也 福井 智紀	博士（異文化コミュニケーション学） 博士（教育学）	
	寄附講座	海洋素材機能解析	教授（兼） 教授（兼） 特任准教授	◎古畑 勝則 守口 徹 原馬 明子	博士（獣医学） 博士（薬学） 博士（学術）	
附置生物科学総合研究所			所長・教授（兼） 副所長・教授 教授（兼） 准教授（兼）	★□猪股 智夫 落合 秀治 佐原 弘益 白井 明志	獣医学博士 博士（獣医学） 博士（医学） 獣医学博士	
附属動物病院			病院長（兼） 教授	□金子 一幸	博士（獣医学）	（生産獣医学系）
			副病院長（兼） 教授	□藤井 洋子	博士（獣医学）	（臨床獣医学系）
	小動物臨床		教 授 教 授 准教授 講 師 講 師 助 教	印牧 信行 □斑目 広郎 渡邊 俊文 圓尾 拓也 川原井晋平 伊藤 哲郎	獣医学博士 獣医学博士 獣医学博士 博士（獣医学） 博士（獣医学） 学士（獣医学）	（臨床獣医学系） （ “ ” ） （ “ ” ） （ “ ” ） （ “ ” ） （ “ ” ）
			特任助手 特任助手 特任助手 特任助手 特任助手 特任助手 特任助手 特任助手 特任助手 特任助手 特任助手	菅原 優子 寺門 邦彦 堀江 和香 瀬川 和仁 吉岡 千恵 横山 大希 佐藤 朝香 田村 悠 中條 哲也 西山 優太 福田 悠真	学士（獣医学） 博士（獣医学） 学士（獣医学） 博士（獣医学） 学士（獣医学） 学士（獣医学） 博士（獣医学） 博士（獣医学） 学士（獣医学） 学士（獣医学） 学士（獣医学） 学士（獣医学）	

凡例……◎学部長 ●学科長 △副学科長 ☆系主任 ★系副主任 □研究室担当 （兼）兼務

研 究 科	専 攻	分 野	専攻科目	研究領域	職 位	授業担当者
獣医学研究科	獣医学専攻 (博士課程)	動物構造機能学	生体構造学	獣医解剖学	教授 (兼) 准教授 講 師	斑目 広郎 市原 伸恒 大石 元治
				獣医組織・発生学	教授 (兼) 准教授	斑目 広郎 坂上 元栄
				分子生物学	教 授	村上 賢
			生体機能学	獣医生理学	教 授 准教授	折戸 謙介 西田 利穂
				獣医生化学	教 授	山下 匡
		動物疾病制御学	生体疾病制御学	獣医病理学	教 授 教 授 准教授	代田 欣二 ●斑目 広郎 宇根 有美 上家 潤一
				獣医薬理学	教 授	浅井 史敏
				獣医微生物学	教 授 教 授 講 師	阪口 雅弘 田原口智士 内山 淳平
				感染症学	教授 (兼) 准教授	斑目 広郎 須永 藤子
				寄生虫学	教 授 准教授	黄 鴻堅 平 健介
				獣医免疫学	教授 (兼)	斑目 広郎
			生体機能制御学	実験動物学	教 授 講 師	猪股 智夫 塚本 篤士
				獣医栄養学	教 授 准教授	勝保 昌也 鈴木 武人
		獣医環境科学	獣医環境制御学	家畜衛生学	教 授 准教授	塚本 健司 河合 一洋
			獣医環境科学	公衆衛生学	教授 (兼) 教 授 准教授	斑目 広郎 高木 敬彦 加藤 行男
		獣医臨床科学	獣医診断治療学	獣医内科学	教 授 准教授 准教授 講 師 講 師	印牧 信行 恩田 賢 久末 正晴 佐藤礼一郎 川原井晋平
				獣医外科学	教 授 准教授 准教授 講 師 講 師 講 師	藤井 洋子 渡邊 俊文 齋藤弥代子 藤田 幸弘 石原 章和 青木 卓磨
				獣医放射線学	教 授 講 師	山田 一孝 圓尾 拓也
					教 授 講 師	金子 一幸 野口 倫子
				臨床繁殖学	教 授	
		応用動物科学	応用動物科学	応用動物科学	教授 (兼) 准教授 (兼)	菊水 健史 和久井 信
	動物応用科学専攻 (博士前期・後期課程)	動物生命科学	動物資源育種学		教授 (兼) 教 授	植竹 勝治 神作 宜男
			動物生殖科学		教 授 准教授	柏崎 直巳 伊藤 潤哉
			動物工学		教 授 准教授	滝沢 達也 ●田中 和明
			比較毒性学		教 授 准教授	代田真理子 ※和久井 信
			食品科学		教 授 講 師	坂田 亮一 竹田 志郎
			基礎生命科学		教 授 准教授 講 師	佐原 弘益 落合 秀治 紙透 伸治
		動物共生科学	動物行動管理学		教 授 教 授	田中 智夫 ◎植竹 勝治
			野生動物学		教授 (兼) 准教授 准教授	植竹 勝治 南 正人 塚田 英晴
			介在動物学		教授 (兼) 講 師	植竹 勝治 大谷 伸代
			伴侶動物学		教 授 准教授	※菊水 健史 茂木 一孝
			動物資源経済学		教 授	大木 茂
		動物応用医科学	動物応用医科学		教授 (兼) 教授 (兼) 准教授	※勝保 昌也 ※猪股 智夫 白井 明志

凡例……◎研究科長 ●専攻主任 (兼) 兼務 ※ 博士前期課程のみ

研 究 科	専 攻	専門分野	職 位	授業担当者
環境保健学研究科	環境保健科学専攻 (博士前期課程)	精神機能学	教 授	岩橋 和彦
		生体機能学	教 授 准教授	武田 守 島津 徳人
		生体防御学	教 授 准教授 准教授	宮武 昌一郎 栗林 尚志 本田 晃子
		微生物学	教 授 准教授	古畑 勝則 大河内由美子
		病理学	教 授 准教授 講 師	●島田 章則 荻原喜久美 曾川 一幸
		生活環境科学	教 授 准教授 講 師	稲葉 一穂 関本 征史 中野 和彦
		食品健康科学	教 授 教 授 教 授 講 師	◎小西 良子 良永 裕子 守口 徹 小林 直樹
		環境保健社会科学	教 授 教 授 教 授 准教授 講 師	Patrick Q.Collins 石原 淳子 小玉 敏也 大倉 健宏 福井 智紀
	環境保健科学専攻 (博士後期課程)	精神機能学	教 授	岩橋 和彦
		生体機能学	教 授 准教授	武田 守 島津 徳人
		生体防御学	教 授 准教授 准教授	宮武昌一郎 栗林 尚志 本田 晃子
		微生物学	教 授 准教授	古畑 勝則 大河内由美子
		病理学	教 授 准教授 講 師	●島田 章則 荻原喜久美 曾川 一幸
		生活環境科学	教 授 准教授 講 師	稲葉 一穂 関本 征史 中野 和彦
		食品健康科学	教 授 教 授 教 授 講 師	◎小西 良子 守口 徹 良永 裕子 小林 直樹

凡例……◎研究科長 ●専攻主任 (兼) 兼務

4 役 職 員

1) 学校法人麻布獣医学園

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

役員	理事長	柏崎直巳
	理事	浅利昌男 川上 泰 滝沢達也 山下 匡 高橋 徹 中村 滋 横尾清文 松家芳実 武本成十 中田祐児
	監事	小野口勝巳 保坂 広
評議員	議長	小栗山茂
	副議長	佐藤正広
	評議員	浅利昌男 柏崎直巳 金子一幸 川上 泰 佐原弘益 滝沢達也 田原口智士 藤井洋子 古畑勝則 松井久実 三宅 太 村上 賢 柳原新太郎 山下 匡 高橋 徹 中村 滋 有賀 誠 横尾清文 柴田武志 函城悦司 前田 茂 松家芳実 長友士郎 白石政美 佐藤 泰 牛尾光宏 酒井健夫 佐藤英明 武本成十 中田祐児 宮島成郎 中山浩一
学園顧問	学園顧問	村田元秀 政岡俊夫

2) 麻布大学

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学 長		浅利昌男
学長補佐	(評価・学生支援担当) (広報担当) (改革・IR 担当) (教務担当)	川上 泰 滝沢達也 村上 賢 田中智夫
獣医学部	学部長 獣医学科長 動物応用科学科長 基礎獣医学系主任 病態獣医学系主任 生産獣医学系主任 臨床獣医学系主任 環境獣医学系主任 専門共通教育系主任 動物生命科学系主任 動物人間関係学系主任 基礎教育系主任	山下 匡 折戸謙介 大木 茂 市原伸恒 代田欣二 須永藤子 久末正晴 高木敬彦 神作宣男 伊藤潤哉 南 正人 委文光太郎
生命・環境科学部	学部長 臨床検査技術学科長 食品生命科学科長 環境科学科長 臨床検査技術学科副学科長 食品生命科学科副学科長 環境科学科副学科長	古畑勝則 岩橋和彦 武田 守 稲葉一穂 吉原英児 良永裕子 伊藤彰英
大学院獣医学研究科	研究科長 獣医学専攻主任 動物応用科学専攻主任	植竹勝治 斑目広郎 田中和明
大学院環境保健学研究科	研究科長 環境保健科学専攻主任	小西良子 島田章則
研究推進・支援本部	本部長	島田章則
附置生物科学総合研究所	所長 副所長	猪股智夫 落合秀治
附属学術情報センター	センター長 ネットワーク管理者	村上 賢 荻原利彦
附属動物管理センター	センター長	勝俣昌也
附属動物病院	病院長 副病院長	金子一幸 藤井洋子
附属教育推進センター	センター長	佐原弘益
研究推進・支援本部	本部長	島田章則
地域連携センター	センター長	大倉健宏
麻布大学いのちの博物館	館長	村上 賢
健康管理センター	センター長	岩橋和彦
教職課程	主任	小玉敏也
附属高等学校	校長 副校長 教頭 参与	中山浩一 飯田敦往 坪井芳朗 有嶋和義

3) 事務組織

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

事務局長	滝沢達也
事務局長待遇	澤柳茂幸
事務局次長・監査室長	石井小夜子
総務部長・附属動物病院事務室事務長	平田英世
教務部長	稲垣藤喜
経営企画課長・広報・IR 室長	落合厳己
広報・IR 室主監	岡部裕昇
地域連携室長・監査室主監	白石一郎
地域連携室主監	伊藤禎人
人事課長	大貫善久
経理課長	堀江洋子
管財課長	西之宮正幸
教務課長	柳原 聡
入試課長	前田高志
学生支援・国際交流課長	目黒和敏
キャリア・就職支援課長	山口雄弘
学術支援課長	角野由香
附属学術情報センター事務室事務長	小田切夕子
附属高等学校事務室事務長	山内俊哉



5 教 職 員 数

1) 教員（常勤）

大学教員（常勤（人））

（平成 29 年 5 月 1 日現在）

学部・学科等		学長		教授		准教授		講師		助教		助手		特任教員		合 計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
学 長		1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
獣医学部	獣医学科	—	—	15	2	12	2	11	5	4	2	0	0	0	0	53
	動物応用科学科		—	8	1	6	0	1	3	0	0	0	0	1	1	21
	基礎教育系		—	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	6
	小 計			24	3	20	2	15	8	4	2	0	0	1	1	80
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	—	—	5	0	3	2	3	1	0	0	0	0	0	0	14
	食品生命科学科	—	—	2	3	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	10
	環境科学科	—	—	4	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	12
	国際コミュニケーション	—	—	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	教職課程	—	—	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	寄附講座	—	—	(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1(2)
	小 計	0	0	12(2)	3	7	3	12	1	1	1	0	0	0	1	41(2)
大学院	獣医学研究科	—	—	(27)	(3)	(17)	(2)	(11)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(62)
	環境保健学研究科	—	—	(9)	(3)	(4)	(3)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(23)
	小 計	0	0	(36)	(6)	(21)	(5)	(15)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(85)
附置生物科学総合研究所		—	—	1(2)	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(3)
附属学術情報センター		—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
附属動物管理センター		—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
附属動物病院		—	—	2(2)	0	1	0	2	0	1	0	0	0	7	4	17(2)
附属教育推進センター		—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
研究推進・支援本部		—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
地域連携センター		—	—	0	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
健康管理センター		—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
合 計		1	0	39	6	28	5	29	9	6	3	0	0	8	6	140

【注】（ ）は、兼務者を表す。ただし、同一部門内兼務者を除く。

附属施設の長は兼務者とする。また、副病院長も兼務者とする。

高等学校教員（常勤）（人）

（平成 29 年 5 月 1 日現在）

	校長		副校長		教頭		教諭		契約講師		合 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
附属高等学校	1	0	1	0	1	0	25	12	7	0	47

事務職員（常勤）（人）

（平成 29 年 5 月 1 日現在）

校名等	事務局長		事務局長待遇		事務局次長		部長		課長 事務長 室長・主監		補佐		主査		主任		一般職		契約職員		合 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
麻布大学	(1)	0	1	0	0	1	2	0	10	3	6	0	7	3	15	6	12	6	1	8	81
附属高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	6
合 計	(1)	0	1	0	0	1	2	0	11	3	6	0	8	4	15	6	13	7	2	8	87

【注】（ ）は、兼務者を表す。

2) 非常勤

非常勤職員（人）（平成 29 年 5 月 1 日現在）

	非常勤講師	非常勤職員	合 計
獣医学部	49	20	69
生命・環境科学部	42	8	50
附属高等学校	40	1	41
事務組織	0	31	31
合 計	131	60	191

- 【注】 1. 非常勤講師欄は、獣医学部、生命・環境科学部及び附属高等学校を兼務する者を含む延べ人数である。
 2. 非常勤講師には、業務委託による講師を含む。
 3. 非常勤職員には、派遣職員を含む。

3) 年齢別大学教員数

（平成 29 年 5 月 1 日現在）

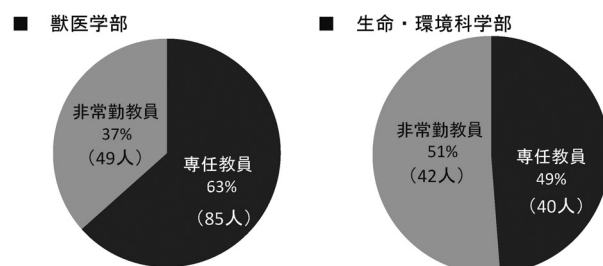
学部・学科等		～35歳	～45歳	～55歳	～65歳	合計
獣医学部	獣医学科	5	18	15	16	54
	動物応用科学科	1	5	8	7	21
	基礎教育系	0	3	1	2	6
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	0	1	3	10	14
	食品生命科学科	1	3	2	4	10
	環境科学科	0	2	7	3	12
	国際コミュニケーション	0	0	1	1	2
	教職課程	0	1	0	1	2
	寄附講座	0	1	0	0	1
	附置生物科学総合研究所	0	0	1	0	1
附属動物病院	9	4	1	3	17	
合 計		16	38	39	47	140

4) 専任教員と非常勤教員の比率

（平成 29 年 5 月 1 日現在）

学部	専任教員	非常勤教員
獣医学部	85	49
生命・環境科学部	40	42

- 【注】 1. 獣医学部の教員には、獣医学科、動物応用科学科、基礎教育系、附置生物科学総合研究所、附属動物病院を含み、特任教員を除く。
 2. 生命・環境科学部の教員には、臨床検査技術学科、食品生命科学科、環境科学科、国際コミュニケーション、教職課程を含み、特任教員を除く。



(平成 29 年 5 月 1 日現在) (人)

学部・学科等名			入学定員	編入学定員	収容定員	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	合計
学部	獣医学部	獣医学科	120	—	720	142	158	149	150	135	142	876
		動物応用科学学科	130	—	490	177	149	136	139	—	—	601
		小 計	250	—	1,210	319	307	285	289	135	142	1,477
	生命・環境科学部	臨床検査技術学科	80	—	320	94	96	102	81	—	—	373
		食品生命科学学科	80	—	320	91	92	94	95	—	—	372
		環境科学学科	80	—	320	91	89	84	101	—	—	365
		小 計	240	—	960	276	277	280	277	—	—	1,110
	学 部 計		490	—	2,170	595	584	565	566	135	142	2,587
研究科	獣医学大学院	獣医学専攻博士課程		10	—	40	8	8	8	3	—	27
		動物応用科学専攻	博士前期課程	20	—	40	15	21	—	—	—	36
			博士後期課程	4	—	12	2	4	3	—	—	9
		小 計		34	—	92	25	33	11	3	—	72
	環境保健大学院	環境保健科学専攻	博士前期課程	7	—	14	3	4	—	—	—	7
			博士後期課程	2	—	6	1	0	1	—	—	2
		小 計		9	—	20	4	4	1	—	—	9
	研究科計		43	—	112	29	37	12	3	—	—	81
	附属高等学校		258	—	774	337	527	489	—	—	—	1,353
	総 合 計		791	—	3,056	961	1,148	1,066	569	135	142	4,021

獣医学部

研究生等	在籍学生数
研究生	28
研修生	1
聴講生	2
科目等履修生	0
附属動物病院研修獣医師	67

生命・環境科学部

研究生等	在籍学生数
研究生	3
研修生	0
聴講生	1
科目等履修生	0

社会人学生数

(平成 29 年 5 月 1 日現在) (人)

学部・学科		社会人学生数
獣医学部	獣医学科	88
	動物応用科学学科	5
生命・環境 科学部	臨床検査技術学科	3
	食品生命科学学科	0
	環境科学学科	0
合 計		96

(平成 29 年 5 月 1 日現在) (人)

研究科・専攻		社会人学生数
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	25
	動物応用科学専攻博士前期課程	3
	動物応用科学専攻博士後期課程	8
環境保健学研究科	環境保健科学専攻博士前期課程	1
	環境保健科学専攻博士後期課程	2
合 計		39

7 入学試験状況

平成 29 年度入学試験状況

(人)

獣医学部						
学 科	区 分	AO	推薦等	一 般	センター	編入学
獣医学科	志願者	80	114	1,462	527	46
	受験者	80	114	1,395	508	44
	合格者	5	40	202	106	3
動物応用科学科	志願者	37	52	388	382	0
	受験者	37	52	372	376	0
	合格者	15	34	226	228	0

獣医学研究科			
専 攻	区 分	10 月期	1 期・2 期
獣医学専攻 博士課程	志願者	0	9
	受験者	0	9
	合格者	0	8
動物応用科学専攻 博士前期課程	志願者	0	23
	受験者	0	23
	合格者	0	15
動物応用科学専攻 博士後期課程	志願者	0	2
	受験者	0	2
	合格者	0	2

生命・環境科学部					
学 科	区 分	推薦等	一 般	センター	編入学
臨床検査技術学科	志願者	41	379	157	2
	受験者	41	349	154	2
	合格者	34	156	43	1
食品生命科学科	志願者	17	235	134	4
	受験者	17	223	133	4
	合格者	16	190	106	3
環境科学科	志願者	23	190	139	1
	受験者	23	178	139	1
	合格者	23	150	113	1

環境保健学研究科			
専 攻	区 分	10 月期	1 期・2 期
環境保健科学専攻 博士前期課程	志願者	0	3
	受験者	0	3
	合格者	0	3
環境保健科学専攻 博士後期課程	志願者	0	1
	受験者	0	1
	合格者	0	1

注 1) 各学科の「推薦等」は、次の入学試験区分を含む。

- 獣医学科 (推薦、外国人特別、帰国子女特別、社会人特別、附属高等学校生特別、卒業生後継者特別、地域枠産業動物獣医師育成特別)
- 動物応用科学科 (推薦、外国人特別、帰国子女特別、社会人特別、附属高等学校生特別)
- 臨床検査技術学科 (推薦、帰国子女特別、社会人特別、附属高等学校生特別)
- 食品生命科学科 (推薦、帰国子女特別、社会人特別、附属高等学校生特別、指定校特別)
- 環境科学科 (推薦、帰国子女特別、社会人特別、附属高等学校生特別、指定校特別)

注 2) 臨床検査技術学科の「一般」は、A、B、C 日程。

注 3) 食品生命科学科及び環境科学科の「一般」は、A、B、C 日程及び第Ⅱ期を含む。

注 4) 動物応用科学科及び生命・環境科学部の「センター」は、第Ⅰ期及び第Ⅱ期を含む。

■学部

(平成 28 年度) (人)

獣医学科	152
動物応用科学科	126
臨床検査技術学科	86
食品生命科学科	76
環境科学科	100
学部合計	540

■大学院

獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	4
獣医学研究科	動物応用科学専攻博士前期課程	12
獣医学研究科	動物応用科学専攻博士後期課程	3
環境保健学研究科	環境保健科学専攻博士前期課程	3
環境保健学研究科	環境保健科学専攻博士後期課程	0
環境保健学研究科	環境衛生政策専攻修士課程	0
獣医学研究科	(論文博士)	1
環境保健学研究科	(論文博士)	0
大学院合計		23

■研究生等

獣医学部	研究生	29
生命・環境科学部	研究生	3
獣医学部	研修生	1
生命・環境科学部	研修生	0
獣医学部	聴講生	14
生命・環境科学部	聴講生	6
獣医学部	科目等履修生	1 ※
生命・環境科学部	科目等履修生	0
附属動物病院	研修獣医師	64
研究生等合計		118

総合計 681

※ 大学院学生

平成 28 年度 卒業生進路状況

(平成 29 年 6 月 1 日現在)

卒業生数			獣医学部				生命・環境科学部						合計		
			獣医		動物応用科		臨床検査技術		食品生命科		環境科				
			152		126		86		76		100				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
区分			72	80	43	83	25	61	34	42	63	37	237	303	540
就職希望者			53	73	29	66	18	56	31	35	58	32	189	262	451
	就 職 者		51	73	27	65	17	52	31	35	52	31	178	256	434
	就職先未定者		2	0	2	1	1	4	0	0	6	1	11	6	17
	就職率 (%)		96.2	100.0	93.1	98.5	94.4	92.9	100.0	100.0	89.7	96.9	94.2	97.7	96.2
公務員	国家		1			1							1	1	2
	都道府県		4	9	1	1						1	5	11	16
	市区町村		3	2	1	1						1	4	4	8
農・林・漁・鉱・採石・砂利採取業			1	1	1	4							2	5	
建設業											4	2	4	2	6
製造業	食料品製造業				6	7			7	10	4	1	17	18	35
	飲料・たばこ・飼料製造業		1		1	1			1				3	1	4
	繊維工業												0	0	0
	印刷・同関連業									1			0	1	1
	化学工業		1	2	1	3			2	4	2	1	6	10	16
	石油・石炭製品製造業												0	0	0
	鉄鋼業・非金属・金属製品製造業												0	0	0
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業				1						3		4	0	4
	電子部品・デバイス・精密機械器具製造業												0	0	0
	電気・情報通信機械器具製造業												0	0	0
	輸送用機械器具製造業												0	0	0
	その他の製造業												0	0	0
電気・ガス・熱供給・水道業										3	1	3	1	4	
情報通信業					1				3	1	3	4	7	5	12
運輸業・郵便業									2	2	5	1	7	3	10
卸売・小売業	卸売				1	3			1	5	4	1	6	9	15
	小売	小売			1	2			7	3	7	7	15	12	27
		ペットショップ				2							0	2	2
金融業											1	1	1	1	2
保険業						1							0	1	1
不動産取引・賃貸・管理業													0	0	0
物品賃貸業													0	0	0
宿泊業・飲食サービス業					1	4			2	3			3	7	10
医療・福祉	医療業	病院					16	48					16	48	64
		診療所		1		1		1		1			0	4	4
		その他の医療（臨床検査所・治験等）			2	11	1	3		1	1		4	15	19
		保健衛生											0	0	0
社会保険・社会福祉・介護事業											1	1	1	1	2
習教育支援学	学校教育					1					2		2	1	3
	動物園・水族館				1	2							1	2	3
	その他の教育・学習支援業					2			1				1	2	3
サービス	複合	NOSAI	1	2									1	2	3
		その他の複合サービス事業				1							0	1	1
サービス業	専門サービス	実験動物関連				1	1						0	1	1
		動物病院	38	54	2	7							40	61	101
		コンサルタント									1		1	0	1
		広告業			1								1	0	1
		その他の専門・技術サービス			1	3			1	1	3		5	4	9
	学術・開発研究機関												0	0	0
	法務												0	0	0
	生活関連サービス業				1	1					2	1	3	2	5
	洗濯・理容・美容・浴場業											1	0	1	1
	娯楽業	JRA		1									0	1	1
		その他の娯楽業			1	1			1		2	1	4	2	6
	廃棄物処理業					1							0	1	1
	宗教										1		1	0	1
	その他のサービス業		1	1	2	3			3	3	3	6	9	13	22
上記以外のもの												0	0	0	
計			51	73	27	65	17	52	31	35	52	31	178	256	434
進学	大学院		6		7	10		1		4	2	1	15	16	31
	編入学												0	0	0
	留学（海外渡航含む）		1	1		1							1	2	3
	研究生		1		2				1				4	0	4
	聴講生							1					0	1	1
	専門学校					1	1		1		2		4	1	5
	進学未定者				1	1							1	1	2
	その他（科目等履修生など）												0	0	0
計			8	1	10	13	1	2	2	4	4	1	25	21	46
就職しない			1	1	3	2	2	1		3		4	6	11	17
その他 ※			10	5	1	2	4	2	1		1		17	9	26

※ 国家試験不合格者及び未提出者等、上記に区分されない者を含む。

獣医師国家試験

年 度	受験者	合格者	合格率
平成 28 年度（平成 29 年 3 月発表）	151	132	87.4%
平成 27 年度（平成 28 年 3 月発表）	142	118	83.1%
平成 26 年度（平成 27 年 3 月発表）	157	121	77.1%
平成 25 年度（平成 26 年 3 月発表）	151	131	86.8%
平成 24 年度（平成 25 年 3 月発表）	153	131	85.6%
平成 23 年度（平成 24 年 3 月発表）	144	126	87.5%
平成 22 年度（平成 23 年 3 月発表）	164	143	87.2%

臨床検査技師国家試験

年 度	受験者	合格者	合格率
平成 28 年度（平成 29 年 3 月発表）	81	76	93.8%
平成 27 年度（平成 28 年 3 月発表）	65	54	83.1%
平成 26 年度（平成 27 年 3 月発表）	73	65	89.0%
平成 25 年度（平成 26 年 3 月発表）	70	64	91.4%
平成 24 年度（平成 25 年 3 月発表）	69	54	78.3%
平成 23 年度（平成 24 年 3 月発表）	62	52	83.9%
平成 22 年度（平成 23 年 3 月発表）	49	33	67.3%

1) 単位互換協定に基づく交流学生数

(平成 28 年度)

種 類	派遣人数	受入人数	備 考
放送大学 単位互換協定	—	—	
神奈川県内大学間 学術交流協定	—	—	
合 計	—	—	

2) 単位互換協定に基づく単位認定状況

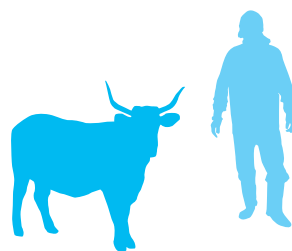
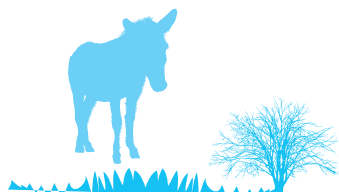
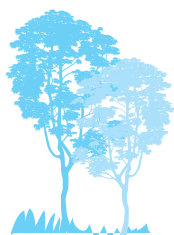
(平成 28 年度)

学部名・研究科名	認定者数	認定単位総数		一人当たり 平均認定単位数
		基礎（教養）科目	専門科目	
獣医学部	—	—	—	—
生命・環境科学部	—	—	—	—
獣医学研究科	—	—	—	—
環境保健学研究科	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—



(平成 29 年 3 月 31 日現在)

学 科 名	認定者数	認定単位総数		一人当たり 平均認定単位数
		基礎（教養）科目	専門科目	
獣医学科	16	202	36	14.9
動物応用科学科	1	39	0	0
臨床検査技術学科	5	74	26	20
食品生命科学科	2	28	27	27.5
環境科学科	0	0	0	0
合 計	24	343	89	18



1) 学業成績優秀者

毎年6月に、各学科から年次毎に原則として3人（獣医学科及び動物応用科学科は4人）の学業成績及び人物の優秀な者を表彰する。さらにこの賞は、複数回受賞することができ、賞状・副賞及び奨学金が授与される。

また、卒業式には、各学科から原則として3人（獣医学科及び動物応用科学科は4人）が受賞し、賞状及び副賞が授与される。

2) 越智賞

麻布獣医学園越智基金により、昭和63年度から設けられた制度で、毎年度の卒業生で特に学業成績が優秀でかつ人物が優秀な者に対して、各学科1人を表彰する。表彰は、卒業式に行われ、賞状と副賞が授与される。

3) 古泉賞

麻布獣医学園古泉基金により、平成28年度から設けられた制度で、毎年度の卒業生で卒業論文の評価が最も高く、かつ人物が優秀な者に対して、各学科1人を表彰する。表彰は、卒業式に行われ、賞状と副賞が授与される。

4) 増井光子賞

学部学生及び大学院学生で、専門領域において、各種の受賞など学会等で高く評価され、今後の可能性が期待されると認められる者及び社会活動等で顕著な功績を上げた者を表彰する。また、受賞者には6月に、賞状と副賞が授与される。

5) 日本獣医師会優等卒業生

日本獣医師会より、獣医学教育の振興のため、獣医学科の中から、特に成績が優秀な卒業生1人に対し、優等卒業生の表彰等が卒業式に行われる。

6) 日臨技学生表彰会長賞

日本臨床衛生検査技師会より、臨床検査の将来を担う優秀な学生を表彰しており、臨床検査技術学科の中から特に成績が優秀な卒業生1人に対し、日臨技学生表彰会長賞の表彰等が卒業式に行われる。

7) 学生功労賞

本学の学生及び団体が、スポーツ若しくは文化活動において、顕著な業績を上げ、又は社会に対して模範となることを行い、もって本学の名誉を著しく高めた場合に表彰する。また、受賞者には6月に、賞状と副賞が授与される。

年間表彰予定数：個人5人、3団体

※これらの表彰については、それぞれ受賞者が決定した際、学内に公示するとともに、当該学生の父母に通知する。

1) 学生ホール

学生ホールは、大学の南側にあり温かい緑の芝生に囲まれた2階建ての建物で、1階にクラブ部室等（8室）、シャワー室、2階にはクラブ部室（25室）があり、クラブ活動の拠点や憩いとコミュニケーションの場として活用している。

2) クラブハウス

クラブハウスは、学生ホールに隣接して建設されており、2階建ての1階には、防音設備完備の音楽練習場、弓道場、土俵、ボクシング練習場が、2階には学生自治会及びクラブ部室（11室）がある。

3) 麻布総合グラウンドの管理棟・倉庫棟

麻布総合グラウンド西側にある管理棟及び倉庫棟は、附属高等学校との共同施設として建設された。2階建ての管理棟2階には、多目的室（2室）が設置され、ミーティング等に利用できる。管理棟に隣接された倉庫棟には広い収納スペースがある。

4) 学生相談室

大学時代は、自由で可能性に満ちた時期であると同時に様々な問題にも直面し、自分自身の生き方についても考えさせられるような大切な時期である。学生相談室は、学生生活において直面する様々な問題について、カウンセラー（臨床心理士）と話し合うことができる。

自主的に来室したり、友人と一緒に来たり、先生に勧められて来たりと様々だが、学生がより充実した大学生活を送り、その中で何か大切なものを見つけられるように対応している。

年 度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度
件 数	169	179	194	209

5) メンタルヘルス相談室

平成 27 年 4 月から、精神面の問題を抱える学生の支援として本館 2 階に開設された。月に 2 回、第 2、第 4 火曜日の 13 時から 17 時の間開室し、非常勤の精神科医を配置している。

年 度	平成 28 年度	平成 27 年度
相談件数	28	31

6) 就職相談室

就職相談室は、8号館1階キャリア・就職支援課内にあり、専任の相談員による学生のキャリア形成、進路、就職などの相談対応を行う場として開室している。

進路についての考え方、業界・業種の選択、自己PRの方法、提出書類、OB・OG訪問、企業との連絡方法などについての指導、相談が行われ、学生の社会性及び就職意識の形成に大いに役立っている。

年 度	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度
相談件数	1,943	1,894	2,705

7) 麻布総合グラウンド

敷地面積は15,906m²であり、各種球技（野球、サッカー、ラグビー等）及び陸上競技に使用できる総合グラウンドである。

8) 大学テニスコート

敷地面積は1,517.7m²、設置コートは2面。学生ホールの北側に設置しており、学生は、クラブ活動等で利用している。

9) カフェテリア さくら

創立125周年記念事業の一環として、平成26年3月に竣工した鉄骨造平家建てである。薪ストーブを中心とした温かな雰囲気の食堂であり、昼食だけでなく、喫茶スペースとしても利用することができる。また、授乳室を設けており、教職員や来客への福利厚生にも寄与している。

階 数	延床面積	施設内容
1 階	578.81m ²	食堂（214席）、厨房、授乳室

10) テラス いちょう

創立125周年記念事業の一環として、平成27年3月に竣工した鉄骨造2階建てである。1階には、カフェテリア方式の食堂と生協売店及び生協事務室があり、2階には、学生が自習・談話できるホール、セミナーやグループ学習といった様々な用途に利用可能な多目的室（3室）、教職員用の会議室及び麻布大学同窓会の事務室がある。

階 数	延床面積	施設内容
1 階	934.48m ²	食堂（270席）、厨房、売店、生協事務室
2 階	934.48m ²	ホール（224席）、多目的室1～3（54席、10席、8席）、自動販売機スペース、会議室（12席）、同窓会事務室、防災備蓄倉庫

15 奨学金給付・貸与状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

奨学金の名称	学内・学外の別	給付・貸与の別	奨学生数
麻布大学奨学金	学 内	貸 与	7 人
麻布大学父母会奨学金	学 内	貸 与	3 人
麻布大学同窓会奨学金	学 内	貸 与	3 人
日本学生支援機構奨学金	学 外	貸 与	952 人

◎その他奨学金

地方公共団体や民間団体が独自に設けている奨学金があります。大学に募集依頼があったものは、掲示板でお知らせします。

大学に募集案内の届かない奨学金制度もあります。
各市区町村役場への問い合わせやインターネットでの検索など
個々に情報収集することも必要です。

※その他、教育ローン等については、学生支援・国際交流課にお問い合わせください。



1) 公開講座（市民大学）

(1) 市民大学

● 開催日時

「動物応用科学科」教員による講座

平成 28 年 7 月 27 日～平成 28 年 9 月 7 日（8 月 10 日及び 17 日を除く）

毎週水曜日 19:00～20:30

「環境科学科」教員による講座

平成 28 年 7 月 28 日～平成 28 年 9 月 8 日（8 月 11 日及び 18 日を除く）

毎週木曜日 19:00～20:30

● 対象者

相模原市及び座間市在住・在勤・在学の 15 歳以上の人

	テーマ	参加人数
担当： 動物応用科学科	動物から人間社会へ ー動物研究からわかる人の進化と健康ー	23
担当： 環境科学科	私たちの生活に潜む健康リスク ～環境科学でリスクと向き合う～	31

(2) 小動物臨床セミナー

● 開催日時

平成 28 年 6 月 10 日～平成 29 年 2 月 10 日

毎月第二金曜日 20:00～22:00（7 月 8 日のみ 19:00 より開始）

● 対象者

近隣臨床獣医師

	開催日	タイトル	参加人数
第 1 回	6 月 10 日	犬アトピー性皮膚炎の診断と治療	63
第 2 回	7 月 8 日	腹部超音波検査実習	27
第 3 回	9 月 9 日	犬猫のリンパ球系腫瘍の診断・治療	65
第 4 回	10 月 14 日	動物法病理学 最近の事例から	26
第 5 回	11 月 11 日	日常出会う心疾患とその治療	62
第 6 回	12 月 19 日	血算と血液化学データの読み方	51
第 7 回	2 月 10 日	小動物における低侵襲治療の現状と可能性	35

(3) 養豚科学セミナー

● テーマ

豚ふん尿処理によって地球環境は温暖化するのか？

● 開催日時

平成 28 年 9 月 28 日（水） 13：00～17：00

● 対象者

各都道府県農林水産部、畜産関係団体及び関係学会等

	タイトル / 講演者	参加人数
①	豚ふん尿処理の現状と温室効果ガス	30
②	豚ふん尿処理過程の温室効果ガスの排出量と抑制技術	
③	豚ふん尿処理の堆肥化と汚水処理の現場における温室効果ガスの発生制御	
④	温室効果ガス発生が少ない豚への飼料給与	
⑤	豚ふん堆肥施用による土壌の炭素蓄積と温室効果ガス発生抑制	

(4) 教育セミナー in さいたま（市民公開講座）

● 開催日時

平成 29 年 2 月 19 日（日） 13：00～17：00

● 対象者

各都道府県農林水産部及び家畜保健衛生所、関係団体及び麻布大学同窓会各支部等

	タイトル / 講演者	参加人数
①	小動物における尿路結石症の診断と外科的治療 「猫の腎泌尿器疾患、特に尿管結石の診断と治療」	20
②	牛重要感染症の清浄化の取り組み 1- 最近の牛疾病をめぐる情勢 2- ヨーネ病の清浄化 3-BVD 清浄化への課題と展望 4- 酪農家で実施できる牛白血病の防疫対策	41
③	野生動物との共存と利用ー被害防除から食肉利用までー 1- 野生動物問題の現状と課題ーシカの増加を中心にー 2- 野生動物による被害の防除ー牧場を例にー 3- 駆除されたニホンジカを活用したペットフードの製造販売ー長野県小諸市の試みー 4- 野生動物の食肉利用 5- 国産ジビエの魅力	35

2) 国際交流

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

(1) 学術交流協定校・機関一覧

協定校名称	国 名	設置形態	協定締結年月日	協定形態
ベルン大学	スイス連邦	州立	2015 年 5 月 26 日	獣医学部間
国立台湾大学	台 湾	国立	2013 年 9 月 18 日	獣医学部間
エディンバラ大学 (準協定)	スコットランド (英国)	公立	2008 年 8 月 6 日	大学－獣医学部間
モンゴル大学	モンゴル国	国立	2008 年 7 月 20 日	大学間
モンゴル科学アカデミー	モンゴル国	国立	2008 年 7 月 20 日	機関間
フスタイ国立公園	モンゴル国	国立	2008 年 7 月 20 日	機関間
モンゴル自然史博物館	モンゴル国	国立	2008 年 7 月 20 日	機関間
チェンマイ大学	タイ王国	国立	2007 年 1 月 26 日	大学間
北京農学院	中華人民共和国	公立	2006 年 10 月 14 日	大学間
吉林農業大学	中華人民共和国	公立	2005 年 4 月 27 日	大学間
全北大学校	大韓民国	国立	2004 年 4 月 30 日	大学間
国立中興大学	台 湾	国立	1997 年 6 月 17 日	大学間
ペンシルヴァニア大学	アメリカ合衆国	私立	1990 年 11 月 3 日	獣医学部間
アスンシオン大学	パラグアイ共和国	国立	1986 年 2 月 8 日	大学間

(2) 平成 28 年度 学術交流協定校からの受入れ・派遣者数

	受入者数		派遣者数	
	学 生	研究者	学 生	研究者
国立台湾大学	5	1		
チェンマイ大学		1	3	
北京農学院	4	1	2	1
国立中興大学	6	1	2	1
ペンシルヴァニア大学		1	6	1
ベルン大学	3	1	3	1
小 計	18	6	16	4
合 計	24		20	

(3) 平成 28 年度 外国人教員及び研究者等受入れ人数 (累計)

国 名	来校者数
中華人民共和国	3
フィリピン共和国	1
シンガポール共和国	1
インド	2
大韓民国	1
ミャンマー連邦共和国	1
ベトナム社会主義共和国	2
マレーシア	2
カンボジア王国	1
タイ王国	3
インドネシア共和国	1
ブルネイ・ダルサラーム国	2
ラオス人民民主共和国	1
リビア共和国	1
ドイツ連邦共和国	38
合 計	60

※ ここに含まれる数は、(2) の「受入者数」に含まれている教員・研究者等は除く。

17 外部資金受入状況

1) 平成 28 年度 競争的研究資金制度による交付決定状況・区分一覧

〈新規及び継続含む〉

交付元	研究種目	学 科 等									合 計
		獣医学科	動物応用 科学科	基礎 教育系	臨床検査 技術学科	食品生命 科学科	環境科 学学科	教職・ 学芸員課程	動物病院	生物科学 総合研究所	
文 部 科 学 省	新学術領域研究		1								1
			14,500 (4,350)								14,500 (4,350)
	基 盤 研 究 (A) 一 般		1								1
			8,000 (2,400)								8,000 (2,400)
	基 盤 研 究 (A) 海 外										0
											0 (0)
	基 盤 研 究 (B)		2				1				3
			6,800 (2,040)				2,600 (780)				9,400 (2,820)
	基 盤 研 究 (C)	9	5	1	3	4	2	2	1		27
		11,300 (3,390)	5,800 (1,740)	1,200 (360)	3,500 (1,050)	5,700 (1,710)	2,600 (780)	1,300 (390)	500 (150)		31,900 (9,570)
	挑戦の萌芽研究	2	2								4
		2,700 (810)	3,400 (1,020)								6,100 (1,830)
	若 手 研 究 (B)	6	1								7
		7,000 (2,100)	1,600 (480)								8,600 (2,580)
	特 別 研 究 員 奨 励 費										0
											0
合 計		17	12	1	3	4	3	2	1		43
		21,000 (6,300)	40,100 (12,030)	1,200 (360)	3,500 (1,050)	5,700 (1,710)	5,200 (1,560)	1,300 (390)	500 (150)		78,500 (23,550)

※上段は人数／下段は 付金額（単位千円）を示す。（ ）は間接経費。

2) 平成 28 年度 私立大学等経常費補助金特別補助交付一覧

(単位：千円)

項 目	補助金額
I. 成長力強化に貢献する質の高い教育	
1. 地方に貢献する大学等への支援	1,066
II. 社会人の組織的な受入れ	
1. 正規学生としての受入れ	12,255
2. 社会人の受入れ環境整備	799
III. 大学等の国際交流の基盤整備	
1. 海外からの教員の招へい	266
2. 学生の海外派遣	426
3. 教員の海外派遣	1,421
4. 実践的な語学力の習得や国際理解の推進	533
IV. 大学院等の機能の高度化	
1. 大学院における研究の充実	4,618
2. 研究施設運営支援	35,523
3. 大型設備等運営支援	2,664
4. 私立大学研究ブランディング事業	28,142
V. 授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	
1. 授業料減免事業等支援	2,100
VI. 私立大学等改革総合支援事業	
1. タイプ3 産業界・他大学等との連携	8,443
学 校 計	98,256

3) 平成 28 年度 共同研究等の受入れ状況

	獣 医		生命・環境		生物研		動物病院		その他		合 計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	29 件	36,497	8 件	11,204	0 件	0	0 件	0	0 件	0	37 件	47,701
受託研究	27 件	33,442	2 件	1,065	0 件	0	4 件	188	0 件	0	33 件	34,695
学術指導	17 件	5,236	1 件	0	0 件	0	1 件	200	0 件	0	19 件	5,436
奨学寄附	17 件	12,290	1 件	900	0 件	0	0 件	0	1 件	1,000	19 件	14,190
寄付講座	0 件	0	1 件	10,500	0 件	0	0 件	0	0 件	0	1 件	10,500
合 計	90 件	87,465	13 件	23,669	0 件	0	5 件	388	1 件	1,000	109 件	112,522

※件数及び金額は、契約した年度を以って記載した。

財務状況の推移

○事業活動収支計算書の推移

学校法人会計基準【改正前】(消費収支) (単位:円)				
科目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
学生生徒等納付金	4,978,265,550	4,936,470,200	4,994,001,700	
手数料	181,186,880	191,821,115	192,797,650	
寄付金	60,291,565	84,834,965	90,241,174	
補助金	827,752,915	777,433,536	740,605,538	
資産運用収入	36,173,728	36,324,246	31,116,730	
資産売却差額	0	0	2,653,963	
事業収入	443,840,349	410,880,258	435,783,190	
雑収入	383,227,195	150,990,208	287,244,465	
帰属収入計	6,910,738,182	6,588,754,528	6,774,444,410	

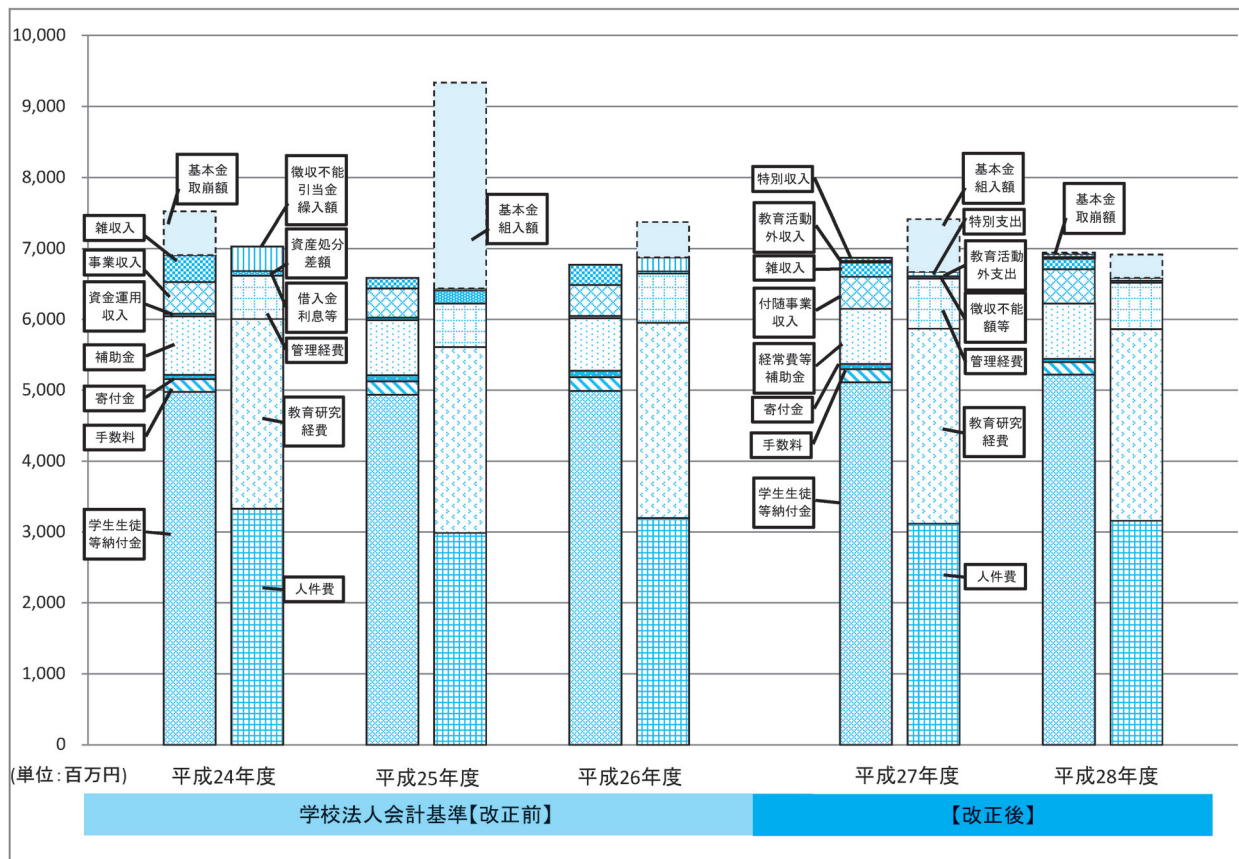
科目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
人件費	3,328,407,577	2,988,066,683	3,198,510,536	
教育研究経費	2,678,395,529	2,623,276,994	2,757,594,306	
管理経費	613,669,571	615,500,953	692,815,627	
借入金等利息	65,903,083	182,014,558	32,912,714	
資産処分差額	342,561,899	31,175,026	197,137,411	
徴収不能額	0	0	0	
徴収不能引当金繰入額	1,114,250	413,982	1,655,812	
消費支出計	7,030,051,909	6,440,448,196	6,880,626,406	

基本金組入額	0	2,895,538,495	495,854,834
基本金取崩額	613,524,712	0	0

【改正後】(事業活動収支) (単位:円)			
科目	平成27年度	平成28年度	
学生生徒等納付金	5,112,809,650	5,221,497,850	
手数料	188,448,340	177,049,816	
寄付金	70,188,423	47,600,060	
経常費等補助金	781,030,264	781,703,145	
付随事業収入	452,235,542	481,611,999	
雑収入	201,204,161	151,843,988	
教育活動外収入計	21,210,432	22,947,410	
特別収入計	45,669,619	44,361,876	
事業活動収入計	6,872,796,431	6,928,616,144	

科目	平成27年度	平成28年度	
人件費	3,118,588,362	3,158,760,325	
教育研究経費	2,752,280,725	2,706,180,530	
管理経費	709,288,704	653,509,077	
徴収不能額等	1,639,226	1,909,276	
教育活動外支出計	30,912,734	28,912,755	
特別支出計	58,467,425	39,945,903	
事業活動支出計	6,671,177,176	6,589,217,866	

基本金組入額	741,760,042	327,990,932
基本金取崩額	0	16,000,000



※ 学校法人会計基準の改正に伴い、平成27年度より、『消費収支』は『事業活動収支』に改められた。

『事業活動収支』は、「教育活動収支」、「教育活動外収支」及び「特別収支」に区分され、経常的な活動及び臨時的な活動における収支内容が明らかとなった。

※ 基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入のうちから組み入れた金額で、組み入れるべき金額としては、教育の用に供される固定資産額で、以下のようなものがある。
建物、構築物、教育研究用機器備品、図書などの取得価額の合計

19 土地及び建物面積・配置図

1) 土 地

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

区 分	敷地面積 (m ²)
淵野辺キャンパス	110,078.31
敷地面積合計	110,078.31

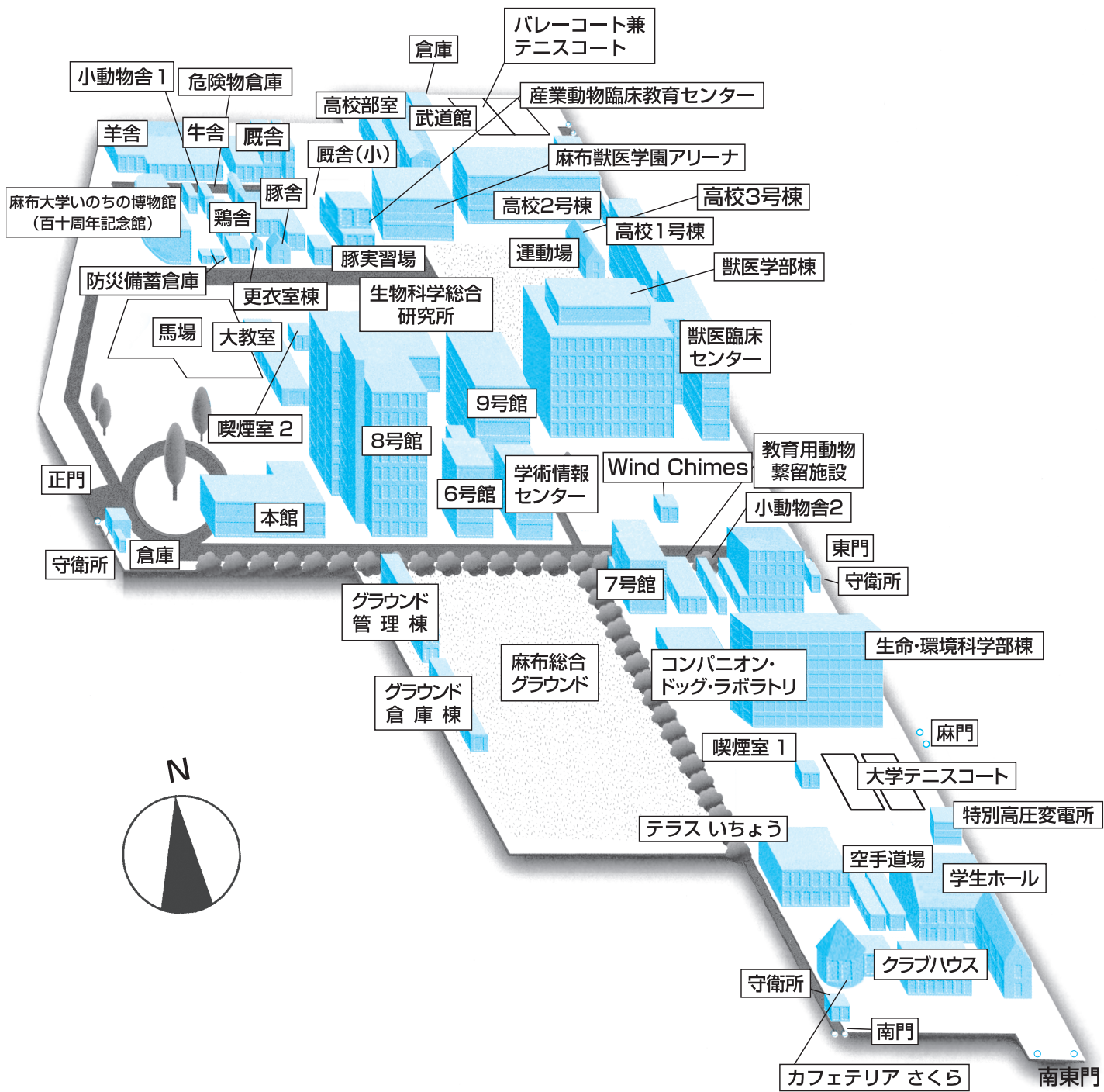
2) 建 物

区 分	建 物 名 称	床面 (m ²)	構 造 ・ 階 建
淵 野 辺 キ ャ ン パ ス	6 号館	2,685.03	鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
	7 号館	1,233.86	鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
	8 号館	6,387.84	鉄骨鉄筋コンクリート・鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺・陸屋根 8 階建
	9 号館	4,704.40	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
	獣医学部棟	19,348.37	鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根 7 階建
	生命・環境科学部棟	10,323.25	鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根 6 階建
	大教室	468.22	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建
	生物科学総合研究所	3,423.22	鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建
	本館	1,656.95	鉄筋コンクリート造陸屋根 2 階建
	学術情報センター (図書館)	1,846.96	鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 3 階建
	獣医臨床センター	5,583.43	鉄骨鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付 6 階建
	産業動物臨床教育センター	2,911.30	鉄骨造合金メッキ銅板葺 2 階建
	コンパニオン・ドッグ・ラボラトリ	214.11	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	豚実習場	238.43	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	教育用動物繋留施設	164.03	軽量鉄骨プレハブ平家建
	学生ホール	1,276.08	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺 2 階建
	クラブハウス	729.75	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺 2 階建
	麻布大学のちの博物館 (百十周年記念会館)	764.01	鉄骨造ルーフィング葺 2 階建
	カフェテリア さくら	578.81	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺・陸屋根平家建
	テラス いちょう	1,868.96	鉄骨造合金メッキ銅板葺 2 階建
	ウィンドチャイム	100.56	軽量鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	空手道場	197.55	軽量鉄骨プレハブ造平家建
	小動物舎	280.50	鉄骨造陸屋根平家建
	小動物舎 2	213.84	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	鶏舎 1	51.84	軽量鉄骨プレハブ造平家建
	鶏舎 2	25.92	軽量鉄骨プレハブ造平家建
	厩舎	476.97	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺 2 階建
	厩舎 (小)	18.90	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	豚舎	492.75	木造銅板葺平家建
	更衣室棟	48.00	木造銅板葺平家建
	飼料倉庫	15.00	鉄骨造陸屋根平家建
	牛舎	728.72	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	危険物倉庫	7.68	コンクリートブロック造波スレート葺平家建
	倉庫 (守衛所横)	38.66	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建
	正門守衛所	28.57	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建
	東門守衛所	20.12	軽量鉄骨造合金メッキ銅板葺平家建
	南門守衛所	8.82	軽量鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	特別高圧変電所	223.23	鉄骨造合金メッキ銅板葺平家建
	標本保管庫	138.78	軽量鉄骨造合金メッキ銅板葺平家建
	ゴミ置場	55.29	軽量鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	喫煙室 1	11.71	軽量鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	喫煙室 2	9.77	軽量鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
大 学	高校 1 号棟	4,325.82	鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建
	高校 2 号棟	3,026.29	鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建
	高校 3 号棟	1,091.98	鉄骨造スレート葺 2 階建
	麻布獣医学園アリーナ	3,547.81	鉄骨鉄筋コンクリート造ステンレス銅板葺 2 階建
	武道館	777.49	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺 2 階建
	高校部室	337.60	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺 2 階建
	倉庫	138.80	鉄骨造合金メッキ銅板葺 2 階建
	総合グラウンド管理棟	222.31	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺 2 階建
	総合グラウンド倉庫棟	280.80	鉄骨造亜鉛メッキ銅板葺平家建
	大学建物の総床面積	69,600.19	
高 校	高校建物の総床面積	13,748.90	
	学園施設総床面積	83,349.09	

●建物の耐震化状況 大学 94.6%
 高校 100.0%

※集計方法は、文部科学省が実施する「私立学校施設の耐震改修状況等調査」に準ずる。

3) 淵野辺キャンパス配置図



1) 麻布大学父母会

(1) 概要紹介

本会は、会員相互の親睦を図ると共に、麻布大学の教育施設及び学生の課外活動施設の整備並びに学生及び教職員の福利厚生など麻布大学の運営について後援している。

(2) 平成 28 年度年間活動

・理事会	5 月 14 日（土）	・地区懇談会	広島会場	8 月 20 日（土）
・定期総会・代議員会	6 月 11 日（土）		名古屋会場	8 月 21 日（日）
・関東甲信越地区個人面談	10 月 15 日（土）		仙台会場	8 月 27 日（土）
・理事会	12 月 10 日（土）		さいたま会場	8 月 28 日（日）

2) 麻布大学同窓会

(1) 概要紹介

本会は、母校との連携を密にし、会員相互の親睦を図るとともに会員活動を支援し、もって母校の発展に寄与することを目的としています。

本会の組織は、在学中は準会員、卒業後は正会員として構成され、学部学科ごとの部会と都道府県に支部が置かれ、現在 2 万人を超える会員により、次の事業を行っています。

本会の会員は、卒業した学部学科に違いはあっても、その殆どが「地球上の多種多様な生命を護る道」に係る職業に従事し、先輩後輩の強い絆による連帯感が同窓会活動の源となっています。

(2) 事業内容

麻布大学同窓会報の発行	準会員のクラス会・県人会の開催支援
ホームページによる広報活動	卒業生への記念品の贈呈
市民公開講座の開催	大学構内に飲料等の自販機設置
大学祭への参加 同窓会コーナーを設置し、各県支部が地域の特産品の販売を行い、 準会員との交流を図っています。	証明写真機の設置
準会員への奨学金貸与	コピーサービス
準会員の課外活動への支援	就職活動用履歴書用紙・封筒の提供

3) 麻布獣医学会

(1) 概要紹介

年に 1 回本学又は地方で開催し、本年（平成 29 年度）で 92 回目の開催となる。本学会は卒業生の獣医学、畜産学及び関連領域に関する学術の向上と情報交換を目的としている。

また、学術研究の発表だけでなく、卒業生に対する卒後教育の一環としての技術講習会や講演会も開催している。本会の会員は登録制とし、本学の卒業生及び大学院修了者、そして本会の趣旨に賛同するものが登録できる。本学会では、開催毎に発表された優秀な学術研究に対し、学会賞等を授与して表彰を行っている。

なお、地域市民に対し、開催毎に公開講座を行っている。

(2) 年間活動（平成 28 年度実績）

日時：	平成 28 年 11 月 12 日（土）13：50～16：30
場所：	麻布大学 8 号館 7 階（百周年記念ホール）
内容：	特別講演 麻布大学 微生物学第一研究室 阪口 雅弘氏 「犬の遺伝性疾患における原因遺伝子解析のための遺伝子（DNA）バンク」 麻布大学 附属動物病院 印牧 信行氏 「犬の緑内障および白内障の遺伝子解析」 麻布大学 衛生学第二研究室 村上 裕信氏 「犬のアトピー性皮膚炎の遺伝子解析」 市民公開講座 一般財団法人 食品薬品安全センター 秦野研究所 研究開発部研究開発室 桑形 麻樹子氏 「いつから始めればいいのか？ アンチエイジング」

4) 麻布環境科学研究会

(1) 概要紹介

一年に 1 回本学内で開催し、本年（平成 29 年度）で 37 回目の開催となる。本研究会は卒業生の環境科学及び関連領域、そして本研究会を通して自らの研究・開発の成果を多くの仲間知ってもらうとともに、学術技術の交流、情報の交換及び会員の親睦を図ることを目的としている。

本研究会では、開催毎に発表された優秀な学術研究に対し、褒賞を授与して表彰を行っている。

また、地域市民に対し、環境保健に関するトピック的話題を中心に市民公開講座を行っている。

(2) 年間活動（平成 28 年度実績）

第 36 回（平成 28 年度）麻布環境科学研究会は、次のとおり開催した。

日時：	平成 28 年 10 月 1 日（土）13 時 35 分～16 時 15 分
場所：	麻布大学 生命・環境科学部棟 1 階 L101 講義室
内容：	市民公開講座講演テーマ：「健康な環境の創生をめざして」 「環境問題の歴史と分析技術の進歩」 産業技術総合研究所 四国センター 所長 田尾 博明氏 「有機化学物質による水域汚染のトレンドと将来展望」 東京農工大学大学院農学府教授 高田 秀重氏 「バイオの眼で見る光化学物質複合汚染」 国立環境研究所 環境リスク研究センター 拠点長 鑑迫 典久氏

5) 麻布大学附属高等学校後援会

(1) 概要紹介

本会は、麻布大学附属高等学校の後援及び会員相互の親睦を目的とする。生徒の健全な発育を促進するために、できるだけの協力をし、高校教育の発展を図ることを目的としている。

その主な事業としては、(1) 生徒の学習効果の向上に関するもの、(2) 生徒の課外活動、特にクラブ活動推進のための援助や、各クラブの大会出場のための援助、(3) 学校と保護者との意思疎通の援助、(4) 学校行事への参加、助成などを行っている。

(2) 年間活動（平成 28 年度実績）

・役員会、全学年学級役員会	平成 28 年 5 月 7 日（土）	・芸術鑑賞会	平成 28 年 10 月 28 日（金）
・懇親会	平成 28 年 5 月 7 日（土）	・親睦会	平成 28 年 11 月 5 日（土）
・体育祭手伝い	平成 28 年 5 月 10 日（火）	・役員会	平成 29 年 1 月 7 日（土）
・役員会	平成 28 年 5 月 28 日（土）・ 7 月 16 日（土）・8 月 6 日（土）	・役員会	平成 29 年 2 月 18 日（土）
・文化祭手伝い	平成 28 年 9 月 10 日（土） 平成 28 年 9 月 11 日（日）	・卒業を祝う会	平成 29 年 3 月 1 日（水）
・役員会	平成 28 年 10 月 1 日（土）	・役員会	平成 29 年 4 月 8 日（土）
		・定期総会	平成 29 年 5 月 6 日（土）

本学は、建学の精神に基づき、一途に獣医畜産学の教育研究に精進してきたが、獣医師法の一部改正に伴い昭和53年4月から獣医学教育年限延長の第1年次が発足した。一方、経済成長に伴う社会の要請により人間の健康維持と、これを阻害する環境因子との相互関係を総合的に把握し、究明する創造力に富んだ研究者並びに専門技術者を養成する目的で環境保健学部を開設した。また、環境保健学部の設置に伴い、大学名を昭和55年4月から「麻布大学」と変更した。

創立以来120余年、幾多の変遷を経て今日、獣医、環境保健両学部そして、平成20年度から環境保健学部を改組し新たに設置した生命・環境科学部と大学院からなる特色ある大学に発展した。なお、昭和58年5月には学校教育法の一部が改正され、獣医学教育の修業年限が6年と定められ、昭和59年4月の入学者から学部6年の一貫教育が行われるようになった。その歩を要約すると次のとおりである。

1890（明治23）年 9月10日	東京獣医講習所開設 当時の農商務大臣松方正義は、先進国から優秀な家畜を輸入して日本の家畜を改良しようと計画し、この事業に呼応して獣医師に新しい獣医学の学術を教授することをもくろみ、その実施を東京農林学校（現在の東京大学農学部的前身）獣医学科長獣医学博士與倉東隆に委嘱した。與倉博士は農商務省の支持を受け東京市麻布区本村町私立慈育小学校内に東京獣医講習所を設け、全国各都道府県から選抜推薦された獣医師に6か月間新しい獣医学を教授した。学科目は解剖、生理、薬物、内科、外科、蹄鉄、病院実習、蹄鉄実習であった。
1894（明治27）年 4月	麻布獣医学校開設 東京獣医講習所は3年でその教育目的を達成した。この機会に学則を制定して農商務省認可麻布獣医学校を開設した。これに本科（修業年限3年で卒業生には無試験で開業の資格を与えた。）、別科（獣医師免許試験受験資格を授けた。）、蹄鉄工科（装蹄鉄の資格を与えた。昭和14年麻布蹄鉄専修学校と改めた。）を設置した。
1895（明治28）年 10月	麻布区新堀町に校舎新築 東京市麻布区新堀町（戦火を被るまで本学園の所在した土地）に校舎を新築し移転した。
1912（明治45）年 3月	麻布獣医畜産学校と改称 獣医師は獣医、畜産両面の教育を受けることが必要であるとされ、畜産学の時間を増加し、畜産関係学科を新たに加え、また東京市目黒区中目黒に附属畜産場を設け、各種の家畜、家禽を飼育し、畜産実習に供することとし、校名を麻布獣医畜産学校と改めた（麻布獣医畜産学校は昭和14年3月31日廃止となる。）
1920（大正9）年 9月	学校設置者を個人から財団法人に改め、財団法人麻布獣医畜産学校を設立
1934（昭和9）年 4月 11日	麻布獣医専門学校に校名変更 獣医師法改正に即応して実業専門学校令による専門学校に昇格させ、麻布獣医専門学校と校名変更した。
1944（昭和19）年 12月 30日 1945（昭和20）年 5月 25日	麻布獣医畜産専門学校と改称 戦災 多年の苦心努力からようやく充実した学校は、激しい爆撃をうけ諸施設はすべて灰燼に帰し、東京都立園芸学校（東京都世田谷区深沢町）、旧海軍相模工廠跡（神奈川県寒川町）、旧陸軍獣医資料廠跡（東京都立川市）、本学分舎（東京都目黒区上目黒）等に移動して授業を継続した。
1947（昭和22）年 6月 9日	現在地に移転 神奈川県高座郡相模原町矢部新田字長久保133番地（相模原市中央区淵野辺1-17-71）旧陸軍兵器学校跡に移転し、授業を開始した。
10月 13日	麻布蹄鉄専修学校廃止

1950（昭和25）年 4月 1日	大学開学（第1・2年次同時開講認可） 麻布獣医科大学が開学となり、初代学長に農学博士板垣四郎が選任された。
1951（昭和26）年 3月 6日 7月12日	学校法人となり、板垣四郎初代理事長となる（財団法人から改組） 鈴木三郎理事長となる
1952（昭和27）年 3月14日	麻布獣医畜産専門学校廃止
1954（昭和29）年 7月20日	中村道三郎理事長となる
1956（昭和31）年 4月 1日	獣医学科教職課程（高等学校教諭2級普通免許状理科、中学校教諭1級普通免許状理科）認定
1957（昭和32）年 4月 1日	獣医学部獣医学専攻科開設 獣医学専攻科の開設が許可され、開講した。 獣医学科教職課程（高等学校教諭2級普通免許状農業）認定
9月10日	講堂竣工（1986[昭和61]年、別館分棟に名称変更 2000[平成12]年3月解体）
1960（昭和35）年 3月21日	大学院修士課程開設 大学院獣医学研究科（獣医学専攻）修士課程の設置が許可となり、同年4月から開講した。
11月 4日	学園創立70周年記念式典挙行
1961（昭和36）年 5月17日	渋野辺高等学校開校
1962（昭和37）年 3月20日	大学院博士課程開設 大学院獣医学研究科（獣医学専攻）博士課程の設置が許可となり、同年4月1日から開講、初代大学院委員長に教授農学博士吉田信行が選任された。
11月29日	堀本宜実理事長となる
1963（昭和38）年 4月19日	越智勇一学長となる 学長任期満了に伴う選挙の結果、前東京大学農学部長農学博士越智勇一が選任された。なお、前学長板垣四郎は名誉学長となる。
1964（昭和39）年 4月 1日 4月12日	麻布公衆衛生学院開学（麻布公衆衛生短期大学の設置に伴い、翌年廃止） 学生寮竣工（1986[昭和61]年、別館に名称変更し、1995[平成7]年、4号館に名称変更 2014[平成26]年7月解体） 昭和38年3月6日に学生寮焼失のため、新たに鉄筋3階建学生寮を建設し、4月15日から入寮させた。
6月 4日	体育館竣工（2012[平成24]年8月解体）
1965（昭和40）年 4月 1日	麻布公衆衛生短期大学開学 本邦最初の公衆衛生短大を開設し、公衆衛生・環境衛生の技術者養成を目指すこととなった。初代学長に越智勇一が選任された。
8月31日	獣医学部鉄筋4階建研究室等一部（旧第1号館）竣工
1966（昭和41）年 8月31日	同学部の教室関係棟（旧第2号館）竣工
1968（昭和43）年 8月31日	同学部実習室・研究室等（旧第3号館）竣工
1969（昭和44）年 9月30日	竹岸政則理事長となる
1970（昭和45）年 1月15日 11月14日	麻布公衆衛生短期大学校舎竣工（2号館）（2008[平成20]年3月解体） 学園創立80周年記念式典挙行
1971（昭和46）年 8月10日	動物病院棟竣工（5号館）（2006[平成18]年12月一部解体、2014[平成26]年11月解体）
1973（昭和48）年 4月15日	越智勇一理事長となる
1976（昭和51）年 2月12日	獣医学部に家畜環境学科を新設、4月から開講
1977（昭和52）年 4月 1日 7月31日 11月14日	家畜環境学科教職課程（高等学校教諭2級普通免許状農業）認定 長野県信濃研修場寄宿舎竣工 長野県信濃研修場職員棟竣工
1978（昭和53）年 2月10日	環境保健学部設置認可

4月1日	環境保健学部開設 麻布公衆衛生短期大学は募集停止
11月22日	家畜環境学科教職課程（高等学校教諭2級普通免許状理科、中学校教諭1級普通免許状理科）認定
1979（昭和54）年2月19日	獣医学部獣医学専攻科廃止
	環境保健学部環境保健学科教職課程（中学校教諭2級普通免許状理科、高等学校教諭2級普通免許状理科）認定
	衛生技術学科教職課程（中学校教諭1級普通免許状保健、高等学校教諭2級普通免許状保健）認定
1979（昭和54）年3月20日	環境保健学部鉄筋4階建校舎（3号館）竣工（2012[平成24]年8月解体）、管理棟（本館）鉄筋2階建竣工
6月5日	麻布公衆衛生短期大学廃止
12月20日	大学名、学科名の変更認可
1980（昭和55）年4月1日	麻布獣医科大学を麻布大学に名称変更、同時に獣医学部家畜環境学科を環境畜産学科に変更
11月9日	学園創立90周年記念式典挙行
1981（昭和56）年2月25日	附属図書館竣工、5号館増築（2014[平成26]年11月解体）
1982（昭和57）年1月5日	麻布大学大学院獣医学研究科獣医学専攻（修士課程）入学定員15人から120人に変更 昭和52年5月に獣医師法の一部改正（昭和52年法律47条）、獣医師国家試験の受験資格が修士課程修了になったことに伴い、獣医学6年制積み上げ教育学生が修士課程に進学するための対応措置。
3月10日	6号館竣工
1983（昭和58）年9月25日	厩舎竣工
1984（昭和59）年4月1日	獣医学教育6年制発足 昭和58年5月に学校教育法の一部改正（昭和58年法律第55号）、獣医学教育の修業年限が6年となり、昭和59年4月入学者から実施。
1985（昭和60）年10月2日	淵野辺高等学校が、麻布大学附属淵野辺高等学校に名称変更認可
1986（昭和61）年3月31日	学生寮廃止
4月30日	大教室竣工、7号館竣工
7月19日	牛舎竣工
1987（昭和62）年3月30日	茨城県西茨城郡岩瀬町（現：茨城県桜川市大泉）を実習用地として、越智勇一理事長・学長から寄贈
3月31日	豚舎竣工
4月19日	尾形 學学長となる 学長任期満了に伴う選挙の結果、麻布大学教授農学博士尾形 學が選任された。なお、前学長越智勇一は、名誉学長となる。
4月19日	尾形 學理事長代行となる
6月30日	糞尿処理施設竣工
1988（昭和63）年4月1日	附置生物科学総合研究所設置
6月1日	尾形 學理事長となる
1989（平成元）年12月21日	大学院獣医学研究科博士課程（4年制）認可
12月22日	獣医学部環境畜産学科・環境保健学部の期間付入学定員増に係る学則変更認可
1990（平成2）年4月1日	大学院獣医学研究科博士課程（4年制）開講
6月2日	中村経紀学長となる 尾形 學学長退職に伴う選挙の結果、麻布大学教授理学博士中村経紀が選任された。

	高橋 貢理事長代行となる
7月25日	椿 精一理事長となる
11月3日	学園創立100周年記念式典挙行
1992（平成4）年5月15日	中村經紀理事長代行となる
7月28日	中村經紀理事長となる
1993（平成5）年3月19日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（修士課程）設置承認
4月1日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（修士課程）開講
9月28日	学生ホール竣工
12月21日	獣医学部動物応用科学科の設置認可
1994（平成6）年3月9日	獣医学部動物応用科学科教職課程（理科コース：中学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状理科、農業コース：高等学校教諭一般免許状農業）認定
3月15日	附属刈野辺高等学校武道館竣工
3月16日	大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻（修士課程）の設置認可
4月1日	獣医学部動物応用科学科開講 獣医学部環境畜産学科は募集停止 大学院環境保健学研究科を開設 環境保健科学専攻（修士課程）は同日から開講 獣医学部並びに環境保健学部にて学芸員課程開設
6月1日	倉益茂實理事長となる
1995（平成7）年2月27日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（修士課程）収容定員変更
3月16日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士課程（後期）設置承認
4月1日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士課程（前・後期）開講
4月5日	8号館竣工
12月22日	大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻博士課程（後期）設置承認
1996（平成8）年4月1日	大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻博士課程（前・後期）開講
7月8日	上條 峻理事長となる
1997（平成9）年7月1日	麻布大学附属動物管理センター設置 麻布大学学生部保健課を麻布大学健康管理センターに組織変更
1998（平成10）年2月4日	環境保健学部環境保健学科を健康環境科学科へ名称変更認可
4月1日	環境保健学部健康環境科学科開講 環境保健学科は募集停止
12月22日	環境保健学部環境政策学科の設置認可 獣医学部動物応用科学科・環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則変更認可（平成11年度まで）
1999（平成11）年3月29日	獣医学部環境畜産学科廃止
4月1日	環境保健学部環境政策学科開講
6月30日	獣医臨床センター竣工
7月28日	獣医学部動物応用科学科・環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則変更認可（平成16年度まで） 獣医学部動物応用科学科・環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員の廃止に伴う収容定員増に係る学則変更認可
10月22日	環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の編入学定員設定認可
2000（平成12）年2月28日	環境保健学部衛生技術学科教職課程（中学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状理科）認定 環境保健学部環境政策学科教職課程（中学校教諭一種免許状社会、高等学校教諭一種免許状公民）認定
2月28日	9号館竣工

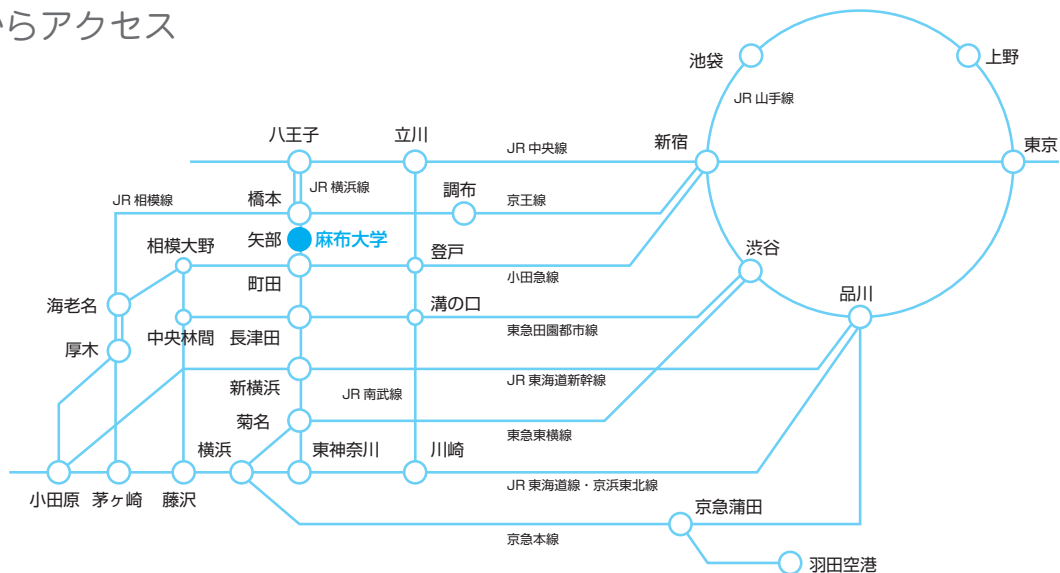
2002（平成14）年	4月1日	麻布大学附属図書館と麻布大学附属情報処理センターを統合し、麻布大学附属学術情報センターを設置
	5月13日	学園創立110周年記念式典挙行
	5月23日	麻布大学クラブハウス竣工
	6月1日	高橋 貢理事長となる
	6月25日	政岡俊夫学長となる 学長任期満了に伴う選挙の結果、麻布大学教授獣医学博士政岡俊夫が選任された。 なお、前学長中村経紀は名誉学長となる。
2003（平成15）年	9月30日	百十周年記念会館竣工
	10月21日	麻布総合グラウンド竣工
	12月19日	大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）設置承認
	3月5日	大学院獣医学研究科獣医学専攻教職課程（中学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状農業）認定
		大学院獣医学研究科動物応用科学専攻教職課程（中学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状農業）認定
2006（平成18）年		大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻教職課程（中学校教諭専修免許状理科、高等学校教諭専修免許状理科）認定
		大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻教職課程（中学校教諭専修免許状社会、高等学校教諭専修免許状公民）認定
	4月1日	大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）開講
	10月1日	事務組織を抜本的に改組（企画課、庶務課、入学広報課、研究交流課、教務課、共同施設事務室等の設置、各課等の事務分掌整理）
	6月1日	村田元秀理事長となる
2007（平成19）年	7月28日	獣医学部動物応用科学科の入学定員増に係る学則変更認可
	8月31日	獣医学部棟竣工
	12月1日	事務組織を一部改組（共同施設事務室廃止等）
	4月1日	麻布大学獣医学部附属動物病院を麻布大学附属動物病院に組織及び名称変更 麻布大学附属教育推進センターを設置 事務局に改革室を設置
	7月31日	生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科の設置届出 生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科編入学定員設定届出
2008（平成20）年	12月25日	生命・環境科学部臨床検査技術学科教職課程（中学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状理科）認定 生命・環境科学部食品生命科学科教職課程（中学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状理科）認定 生命・環境科学部環境科学科教職課程（中学校教諭一種免許状理科、中学校教諭一種免許状社会、高等学校教諭一種免許状理科、高等学校教諭一種免許状公民）認定
	4月1日	生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科開講 環境保健学部健康環境科学科、衛生技術学科及び環境政策学科は募集停止 麻布大学研究推進・支援本部を設置
	6月1日	政岡俊夫理事長となる
	10月1日	事務組織を改組（総務部及び教務部の二部制施行、監査室及び事務改革室の設置）
	3月17日	Companion Dog Laboratory（コンパニオン・ドッグ・ラボラトリ）竣工
2010（平成22）年	4月1日	事務局総務部経営企画課に事務支援センターを設置
	5月26日	茨城県桜川市の学園所有地を処分

2012（平成 24）年 3 月 31 日	9 月 30 日	生命・環境科学部棟、麻布獣医学園アリーナ及び特別高圧変電所竣工
		事務改革室を業務終了に伴い廃止
		学芸員課程を廃止
2013（平成 25）年 3 月 31 日	4 月 1 日	事務局総務部経営企画課に学長室を設置
		環境保健学部健康環境科学科、衛生技術学科及び環境政策学科廃止
		事務局総務部経営企画課事務支援センター廃止
	6 月 28 日	生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科の入学定員変更及び編入学定員の廃止届出
2014（平成 26）年 3 月 28 日	7 月 30 日	馬場の移設竣工
		カフェテリアさくら竣工
	4 月 1 日	麻布大学附属渋野辺高等学校の校名を麻布大学附属高等学校に名称変更
	6 月 25 日	柏崎直巳理事長となる
		浅利昌男学長となる
		学長任期満了に伴う選挙の結果、麻布大学教授獣医学博士浅利昌男が選任された。
		なお、前学長政岡俊夫は名誉学長となる。
2015（平成 27）年 3 月 31 日	7 月 14 日	産業動物臨床教育センター（LAVEC）竣工
	12 月 22 日	長野県信濃研修場（佐久市）を処分
		テラスいちよう竣工
		事務局総務部経営企画課学長室を業務終了に伴い廃止
	4 月 1 日	麻布大学地域連携センターを設置
		事務局総務部に IR 室を設置
		メンタルヘルス相談室を設置
	7 月 10 日	麻布大学いのちの博物館竣工（9 月 15 日開館）
	8 月 31 日	ウィンドチャイム（Wind Chimes）竣工
	9 月 12 日	学園創立 125 周年記念式典挙行
	10 月 1 日	事務組織を改組（経営企画課、IR 室、人事課、入試・広報課、経理課、管財課、教務課、学生支援・国際交流課、キャリア支援・地域連携課、学術支援課）
2016（平成 28）年 3 月 31 日		大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）廃止
	4 月 1 日	大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程の収容定員変更
	10 月 1 日	事務組織を改組（一部機能の統合・分轄を行い、広報・IR 室、地域連携室、入試課、キャリア・就職支援課を改組・設置）
2017（平成 29）年 4 月 1 日		獣医学部動物応用科学科の収容定員変更

22 学年暦（平成 29 年度）

学年始め及び前期始め	4 月 1 日（土）
入学式	4 月 2 日（日）
入学者オリエンテーション	4 月 2 日（日）・4 日（火）～6 日（木）
在学者健康診断	4 月 3 日（月）・4 日（火）・5 日（水）
プレースメントテスト	4 月 4 日（火）・5 日（水）
大学院入学者オリエンテーション	4 月 5 日（水）
大学院在学者ガイダンス	4 月 5 日（水）
入学者健康診断（大学院入学者を含む。）	4 月 6 日（木）
在学者・編入学者ガイダンス	4 月 6 日（木）
前期授業開始日	4 月 7 日（金）
祝日の授業実施に伴う振替休日	5 月 1 日（月）・2 日（火）
授業実施日	7 月 17 日（月）
前期補講日	7 月 28 日（金）
前期定期試験期間	7 月 31 日（月）～8 月 4 日（金）
オープンキャンパス	8 月 5 日（土）・6 日（日）
前期定期試験合否発表及び追・再試験申込日	8 月 10 日（木）
夏期休業	8 月 11 日（金）～9 月 14 日（木）
学園創立記念日	9 月 10 日（日）
前期追・再試験期間	9 月 15 日（金）～22 日（金）
前期終わり	9 月 24 日（日）
後期始め	9 月 25 日（月）
後期授業開始日	9 月 25 日（月）
前期成績発表日	10 月 4 日（水）
授業実施日	10 月 9 日（月）
大学祭	10 月 21 日（土）・22 日（日）
授業実施日	11 月 3 日（金）・23 日（木）
祝日の授業実施に伴う振替休日	11 月 28 日（火）・29 日（水）
冬期休業	12 月 23 日（土）～1 月 8 日（月）
授業実施日（開始日）	1 月 9 日（火）
大学入試センター試験	1 月 13 日（土）・14 日（日）
後期補講日	1 月 25 日（木）・26 日（金）
後期定期試験期間	1 月 29 日（月）～31 日（水） 2 月 5 日（月）・6 日（火）
後期定期試験合否発表及び追・再試験申込日	2 月 13 日（火）・14 日（水）
後期追・再試験期間	2 月 19 日（月）～23 日（金）
卒業式・修了式	3 月 15 日（木）
春期休業期間	3 月 24 日（土）～31 日（土）
後期終わり及び学年終わり	3 月 31 日（土）

●主要駅からアクセス



●関東近郊からの所要時間



電車

新宿	町田 橋本	約 55 分
	八王子	約 1 時間
渋谷	長津田 菊名	約 1 時間 5 分
横浜		約 52 分
川崎	東神奈川	約 1 時間 5 分
大宮	新宿 町田	約 1 時間 45 分
川越	八王子	約 1 時間 35 分
船橋	新宿 町田	約 1 時間 50 分

矢部

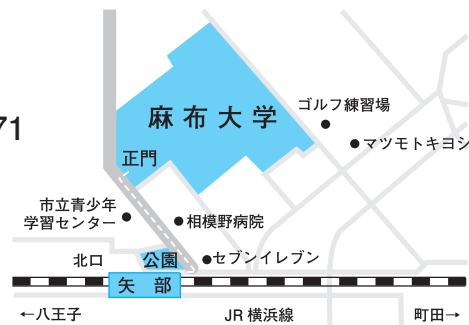
〒 252-5201

神奈川県相模原市中央区淵野辺 1-17-71

TEL : 042-754-7111 (代)

FAX : 042-754-7661

URL : <http://www.azabu-u.ac.jp/>



JR 横浜線 矢部駅北口から徒歩 4 分

麻布大学 要覧 2017

発行 麻布大学
編集 事務局総務部 広報・IR 室
住所 〒252-5201
神奈川県相模原市中央区淵野辺1-17-71
TEL 042-769-2032 (広報・IR室 直通)
E-mail koho@azabu-u.ac.jp